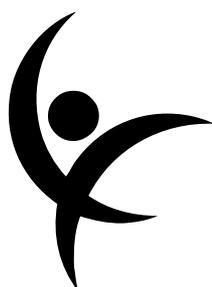


# SYLLABUS

## 講義要項

2022

看護科



学校法人 川口学園

早稲田速記医療福祉専門学校

# 目 次

## 利用の手引き（1年生）

カリキュラムポリシー（1年生）.....	1
各分野の考え方（1年生）.....	2
看護科 1年生.....	7
教育課程について（2・3年生）.....	53
看護科 2年生.....	75
看護科 3年生.....	125

看護科 1年生

# 利用の手引き

この『講義要項』は、早稲田速記医療福祉専門学校の2022年度の授業科目について、講義の内容をあらかじめ示したものです。皆さんは、これに従って自分の履修する授業科目について詳しく知ることができます。

以下に授業科目の各項目を読むにあたっての留意点を示しますので、よく参照のうえ、この『講義要項』を十分に活用してください。

## 【基本情報】

基本情報欄は、授業科目の属性（科目区分）を記載する欄であり、次の項目についてカリキュラムに明記されている授業科目の属性を記載しています。

科目名	①		担当教員		②		単位数	③	
対象学科	④		学年	⑤年	授業形態	⑥	法令等指定	⑦	
履修方法	⑧	科目内容	⑨	授業期間	⑩	授業期	⑪	卒業要件	⑫
実務経験教員	⑬	実務経験内容	⑭						

記載項目	記載事項
①科目名	カリキュラムに記載されている授業科目名
②担当教員	授業科目の担当教員名（同一の授業を複数の教員が担当する場合は連名併記）
③単位数	カリキュラムに記載されている授業科目の単位数
④対象学科	その授業を実施する学科名（同一の授業科目を複数の学科で実施する場合は併記せず、それぞれ別に作成）
⑤学年	カリキュラムに記載されている授業科目の実施学年
⑥授業形態	カリキュラムに記載されている授業科目の授業形態（講義、演習、実技、実習など）
⑦法令等指定	カリキュラムに法令等による資格取得に関わる授業科目とある場合は○印を記入
⑧履修方法	カリキュラムに記載されている履修方法による科目区分（登録指定科目、選択科目）
⑨科目内容	カリキュラムに記載されている科目内容による登録指定科目の科目区分（基礎科目、専門科目、関連科目）
⑩授業期間	カリキュラムに記載されている授業期間による科目区分（半期、通年、集中）
⑪授業期	その授業科目を開講する授業期（前期、後期）
⑫卒業要件	カリキュラムに単位取得が卒業要件となっている科目の場合は○印を記入
⑬実務経験教員	実務経験のある教員による授業科目の場合は○印を記入
⑭実務経験内容	実務経験のある教員が経験した実務内容と、その経験を生かして行う教育内容

### 【位置付け】

その授業科目が、学校・学科の教育目的・目標とどのように関連しているのか、カリキュラムの中でどのような位置付けを与えられ、何を期待されているのかを記載しています。

### 【授業の目的】

授業の目的欄は、担当教員はその授業の分野、テーマにおいて何をポイントとして、何を伝えたいか、授業の目的は何かを記載しています。

### 【授業の到達目標】

その授業の終了時点で学生はどのような知識、技能などを得られるのか、何ができるようになっていくのか。そのような到達目標を記載しています。

### 【成績評価の方法】

成績評価の項目とその評価割合が記載されています。

※出席状況については学則第27条により、一部の実習科目を除き、評価割合に関わらず、出席時間数が授業時間数の2/3以上なければ評価の対象になりません。

### 【成績評価に関するコメント】

設定した成績評価項目と授業の到達目標との関連、具体的な評価項目の実施内容・実施方法、その他に特殊な出席の取扱いなどを記載しています。

### 【学生へのメッセージ】

担当教員から、授業への取組み方や授業を進めるに際してお願いしたいことを記載しています。

### 【テキスト】

授業に使用するもので、受講者全員が所持すべきものを記載しています。

### 【参考図書・資料・参考ホームページ】

授業の参考として学生が各自の判断で入手するものを記載しています。

### 【授業計画】

目標に到達するための授業の内容、進め方（方法）を各授業の回毎に具体的に記載しています。

## カリキュラムポリシー

看護の対象を理解する力を養い、多角的な視点で課題を発見できる能力が育つよう多様な教育方法を用いて教育課程を編成した。

- ・基礎分野では社会生活を営む人間や社会の仕組みを理解し社会人として持つべき基礎的基盤を形成するための科目を配置した。
- ・専門基礎分野では根拠に基づく看護実践を可能にするための基盤を形成する人体の構造と機能、健康・疾病・障害の成り立ちと回復促進の理解につながる科目を配置した。また保健・医療・福祉に関する社会資源・制度を理解するとともにそこに関わる多職種と協働し多角的な視点をもって対象を捉えられる科目を配置した。
- ・専門分野では看護の専門性を探求し看護学の基盤、各領域の看護実践に関わる基礎的能力、専門職業人としての志向性を明確にできるよう講義・校内実習・臨地実習の実践により発展的に深めていく。また3年間の学びを統合し将来に向けて、自己成長につながる科目を設定した。

カリキュラムは知識・技術・態度の修得に向けて漸進的かつ積み上げ型に進んでいく。

なお、本科の教育課程は看護師国家試験受験資格を得るための、看護師学校養成所指定規則に定める要件を充足した教育課程である。

## 各分野の考え方

### 【基礎分野】

人間とは何かその人間の生活、幅広いものの見方考え方を学ぶ分野として位置付け、各分野の基礎となり人々として成長する礎となる分野である。

### 【専門基礎分野】

基礎分野で考え捉えた人間の健康、疾病、障害という観点から知識を獲得し、臨床で活用可能なものとするために専門分野とのつながりを意識して学んでいく。

### 【専門分野】

基礎分野・専門基礎分野の知識を基盤として、各看護学の特性に応じた看護を学ぶ。また多職種と協働し各領域を超え柔軟かつ横断的に看護が実践できる力を養う。

## 科目設定の理由

### 基礎分野 14 単位

教育内容	科目	単位	科目の設定理由
科学的思考の基盤 人間と生活・社会の 理解	論理学Ⅰ	1	基礎分野は、科学的思考を高め、豊かな教養と感性を備えた人間性の育成をめざして科目を設定した。科学的思考と人間関係成立を基盤として判断行動で きるよう論理学および人間関係論を設定し演習を通して深められるようⅡを設定している。 人間や社会の仕組みを理解するために心理学・家族心理学・社会学を設定した。人間は環境と共存し生活を営む存在であり人々の健康にも影響する。環境生態学・運動と健康において生活を幅広く考えられる事をねらいとしている。社会の IT 化は進化し、これらの進歩に対応できる倫理観・知識を身につける事が重要であり情報科学・情報リテラシーを設定した。社会人としての教養と学び方を体得する事を目的として英会話・教育学を設定している。 14 科目を必須科目とし 14 単位とした。
	論理学Ⅱ	1	
	情報科学	1	
	情報リテラシー	1	
	文学	1	
	心理学	1	
	人間関係論Ⅰ	1	
	人間関係論Ⅱ	1	
	環境生態学	1	
	運動と健康	1	
	教育学	1	
	英会話	1	
	家族社会学	1	
	社会学	1	

専門基礎分野 22 単位

教育内容	科目	単位	科目の設定理由
人体の構造と 機能  疾病の成り立ちと 回復の促進	解剖生理学Ⅰ	1	専門基礎分野は看護を实践する上で 基盤となる科目であり以下のような 科目で構成する。 人体を系統立てて理解し、健康・疾病・ 障害・治療を看護の視点で判断し観察 に活用できるように解剖生理学・生化学・ 栄養学・病理学・微生物・病態生 理と治療・臨床薬理学を設定した。 医学の進歩に伴い、画像診断、治療に おける放射線医学の進歩は目ざまし く「臨床放射線医学」を加えた。 16 科目を必須科目とし 16 単位 とした。
	解剖生理学Ⅱ	1	
	解剖生理学Ⅲ	1	
	解剖生理学Ⅳ	1	
	生化学	1	
	栄養学	1	
	病理学	1	
	病態生理と治療（循環・呼吸・血液）	1	
	病態生理と治療（消化器・代謝）	1	
	病態生理と治療（運動・脳神経・眼）	1	
	病態生理と治療（腎・泌尿・免疫）	1	
	病態生理と治療（感覚器）	1	
	病態生理と治療（小児）	1	
	臨床放射線医学	1	
臨床薬理学	1		
微生物学	1		
健康支援と 社会保障制度	医療概論	1	人々の暮らしと命を倫理的かつ科学 的視点で理解を深め、健康や障害の状 態に応じて社会資源を活用できる知 識を養えるよう科目を設定した。専門 職の役割を理解し多職種と連携・協働 し看護を考えられるように設定した。 6 科目を必須科目とし 6 単位とした。
	公衆衛生学	1	
	生命倫理	1	
	社会福祉	1	
	関係法規	1	
	生活科学	1	

専門分野 50 単位

教育内容	科目	単位	科目の設定理由
基礎看護学	看護学概論	1	各看護学の基礎となる基礎的理論や基本的技術を学ぶ看護学概論・基本技術に加え、看護における看護の倫理観を育成できるよう看護倫理を設定した。看護実践においてはコミュニケーション技術・ヘルスアセスメントの技術を使い対象の問題解決技法として看護過程の展開の技術を設定した。また臨床の看護師のような臨床判断ができる能力の育成としてシミュレーションを活用した演習を取り入れ、主体的に学べる科目として臨床看護総論、臨床看護技術を設定した。 11 科目を必須科目として 11 単位とした。
	看護倫理	1	
	基本技術	1	
	ヘルスアセスメント	1	
	生活を整える技術Ⅰ	1	
	生活を整える技術Ⅱ	1	
	診療・処置に伴う技術	1	
	与薬の技術	1	
	看護過程展開の技術	1	
	臨床看護総論	1	
	臨床看護技術	1	
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	地域・在宅看護論では地域で生活する人々とその家族を対象とした看護が考えられるように科目を設定した。「地域・在宅看護概論」では地域で生活する事を理解し、対象者とその家族を支援のあり方について「地域・在宅療養を支える看護」の科目を設定した。在宅看護は多職種と協働・連携がより求められ「地域療養と多職種支援」を設定した。 6 科目を必須科目として 6 単位とした。
	地域・在宅療養を支える看護	1	
	地域・在宅療養と多職種連携	1	
	地域・在宅療養者の健康状態に応じた看護	1	
	在宅看護技術	1	
	地域・在宅看護過程	1	
	成人看護学	成人看護学概論	
健康危機状況にある成人の看護	1		
侵襲的治療を受ける成人の看護	1		
セルフケア再獲得に向けての成人の看護	1		
セルフマネジメントを必要とする成人の看護	1		
緩和ケアを必要とする人の看護	1		
老年看護学	老年看護学概論	1	老年看護学では加齢に伴う生活機能の低下の観点から健康障害の特徴をとらえアセスメントし、看護展開できる内容とした。
	高齢者の生活と看護	1	
	高齢者の日常生活援助	1	
	高齢者の健康障害時の看護	1	

小児看護学	小児看護学概論	1	小児看護学では成長発達を遂げる小児期の特徴を理解し発達段階に応じた看護を中心に理解できるような科目を設定した。小児看護の実践に必要な小児のアセスメントと小児看護技術を学べる内容とした。
	小児の発達段階に応じた看護	1	
	小児の健康状態に応じた看護	1	
	小児のアセスメントと看護	1	
母性看護学	母性看護学概論	1	母性看護学では種族保存の側面を踏まえて、総合的に人間を捉えるとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護を展開できる内容とした。生殖機能の障害については女性に限らずパートナーとしての男性も含めた内容とした。
	妊娠・分娩期の看護	1	
	産褥期・新生児の看護	1	
	生殖機能障害のある患者の看護	1	
精神看護学	精神看護学概論	1	精神看護学では精神に障害を持つ人の対象理解、その手段としてカウンセリングの基本技術、生活に目を向けた看護が展開できるような内容を設定した。
	精神に障害を持つ人の理解	1	
	精神看護の基本技術	1	
	精神に障害を持つ人の生活と看護	1	
看護の統合と実践	診療の補助技術における安全	1	看護の統合と実践においてはチーム医療における医療の質を保証するために看護師として重要な事は何か考えるために診療の補助技術における安全、看護管理、を設定している。また、日本は自然災害が多く、災害時の看護における特徴を学ぶ国際協力と災害看護を設定した。看護研究は将来、看護を探究する基礎的能力を養うために設定している。臨床看護の実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは3年次に設定し3年次の臨地実習において臨床判断能力を養うために設定した。キャリアデザインは各年次に設定し、社会人として必要な能力や学習支援によりキャリア形成をはかる目的で設定した。また、多職種連携を学ぶ目的で本校の特徴を活かし多学科との連携学習により幅広い学びが出来るような科目として設定した。必修科目として10科目11単位として設定している。
	臨床看護の実践Ⅰ	1	
	臨床看護の実践Ⅱ	1	
	臨床看護の実践Ⅲ	1	
	看護研究	1	
	看護管理	1	
	国際協力と災害看護	1	
	キャリアデザインⅠ	1	
	キャリアデザインⅡ	1	
	キャリアデザインⅢ	2	

臨地実習 23 単位

教育内容	科目	単位	科目の設定理由
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	<p>臨地実習は、看護の対象に対して学んだ知識と技術を統合して実践するための学習である。また実践においては対象のあらゆる反応を捉え判断し根拠に基づく看護実践ができる事を目標に設定している。</p> <p>基礎看護学実習は講義の進度に合わせ段階的に学べるように設定し、基本的ニーズの把握、日常生活援助の実践、看護過程の技術を用いて看護を展開する能力を養う。</p> <p>看護の対象は地域で暮らす人々が対象であることを意識づけるために初めての臨地実習は地域・在宅看護論実習Ⅰとした。地域・在宅看護論実習Ⅱは様々な状況に置かれた人々が多様な暮らしを選択し地域や在宅し療養する人がいる事。またその人々と家族の看護を学べるように 3 年次に設定した。</p> <p>成人・老年看護学実習はⅠ～Ⅴと設定し、年齢幅を広く学べるようにした。加齢に伴う生活機能の低下また健康障害のある対象に応じた看護は入院している対象だけでなく、健康障害を持ちながら生活している人々の看護を学べるように 8 単位と設定した。</p> <p>小児看護学は健康な小児だけでなく健康障害のある子どもの看護に加え、健康障害を持ちながら在宅で生活する子どもの生活と関りを学べるように設定した。</p> <p>母性看護学実習では妊娠期・分娩期・産褥期と新生児の看護と母性の生理的変化、心理的变化をとらえ母性を育む支援を学べるように設定した。</p> <p>精神看護学実習は精神に障害を持つ人の看護を学習する。精神に障害を持つ人々は病院に限らず地域で自立した生活を営む人々も増えている。治療を受ける対象者と生活の支援のあり方を学べるように設定した。</p> <p>統合実習は看護をチームで実践する能力を養うために設定した。また、複数患者の受け持ち、夜間実習また看護管理など臨床現場の看護に近い経験が出来るような学習内容としている。</p>
	基礎看護学実習Ⅱ	1	
	基礎看護学実習Ⅲ	2	
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	
	成人・老年看護学実習Ⅰ	1	
	成人・老年看護学実習Ⅱ	1	
	成人・老年看護学実習Ⅲ	2	
	成人・老年看護学実習Ⅳ	2	
	成人・老年看護学実習Ⅴ	2	
	小児看護学実習	2	
	母性看護学実習	2	
	精神看護学実習	2	
	統合実習	2	

看護科 2022年度生カリキュラム

科目区分		教育内容	科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計		
履修方法	科目内容				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎科目	基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	論理学Ⅰ	講義	1	15					1	15	
			論理学Ⅱ	演習	1	15					1	15	
			情報科学	演習	1	15					1	15	
			情報リテラシー	講義	1	15					1	15	
			文学	講義	1	30					1	30	
			心理学	講義	1	30					1	30	
			人間関係論Ⅰ	講義	1	15					1	15	
			人間関係論Ⅱ	演習	1	15					1	15	
			環境生態学	講義	1	15					1	15	
			運動と健康	演習	1	15					1	15	
			教育学	演習	1	30					1	30	
			英会話	演習	1	30					1	30	
			家族社会学	講義	1	30					1	30	
			社会学	演習			1	30			1	30	
小計					13	270	1	30		14	300		
登録指定科目	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	講義	1	30					1	30	
			解剖生理学Ⅱ	講義	1	30					1	30	
			解剖生理学Ⅲ	講義	1	30					1	30	
			解剖生理学Ⅳ	講義	1	30					1	30	
			生化学	講義	1	30					1	30	
			栄養学	講義	1	30					1	30	
			病理学	講義	1	30					1	30	
		疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理と治療(循環・呼吸・血液)	講義	1	30					1	30	
			病態生理と治療(消化器・代謝)	講義			1	30			1	30	
			病態生理と治療(運動・脳神経・眼)	講義			1	30			1	30	
			病態生理と治療(腎・泌尿・免疫)	講義			1	15			1	15	
			病態生理と治療(感覚器)	講義			1	15			1	15	
			病態生理と治療(小児)	講義			1	15			1	15	
			臨床放射線医学	講義			1	15			1	15	
	臨床薬理学	講義			1	30			1	30			
	微生物学	講義	1	30					1	30			
	社会保健制度と健康支援	医療概論	講義	1	15					1	15		
		公衆衛生学	講義			1	30			1	30		
		生命倫理	演習					1	15	1	15		
		社会福祉	講義			1	30			1	30		
		関係法規	講義					1	30	1	30		
		生活科学	講義	1	15					1	15		
	小計					11	300	9	210	2	45	22	555
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	講義	1	30					1	30	
			看護倫理	講義	1	15					1	15	
			基本技術	演習	1	30					1	30	
			ヘルスアセスメント	演習	1	30					1	30	
生活を整える技術Ⅰ			演習	1	30					1	30		
生活を整える技術Ⅱ			演習	1	30					1	30		
診療・処置に伴う技術			演習	1	30					1	30		
与薬の技術			演習			1	30			1	30		
看護過程展開の技術			演習	1	30					1	30		
臨床看護総論			講義	1	30					1	30		
臨床看護技術		演習			1	30			1	30			
地域・在宅看護論		地域・在宅看護概論	講義	1	15					1	15		
		地域・在宅療養を支える看護	講義	1	30					1	30		
		地域・在宅療養と多職種連携	講義			1	15			1	15		
		地域・在宅療養者の健康状態に応じた看護	講義			1	15			1	15		
		在宅看護技術	演習			1	15			1	15		
	地域・在宅看護過程	演習			1	15			1	15			

科目区分		教育内容	科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計				
履修方法	科目内容				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数			
登録指定科目	専門科目	専門分野	看護学 成人	成人看護学概論	講義	1	30					1	30		
				健康危機状況にある成人の看護	演習			1	30			1	30		
				侵襲的治療を受ける成人の看護	演習			1	30			1	30		
				セルフケア再獲得に向けての成人の看護	演習			1	30			1	30		
				セルフマネジメントを必要とする成人の看護	演習			1	30			1	30		
				緩和ケアを必要とする人の看護	講義			1	30			1	30		
			看護学 老年	老年看護学概論	講義	1	30					1	30		
				高齢者の生活と社会	講義	1	15					1	15		
				高齢者の日常生活援助	演習			1	30			1	30		
				高齢者の健康障害時の看護	講義			1	30			1	30		
			看護学 小児	小児看護学概論	講義	1	30					1	30		
				小児の発達段階に応じた看護	演習			1	30			1	30		
				小児の健康状態に応じた看護	講義			1	30			1	30		
			看護学 母性	小児のアセスメントと看護	演習			1	15			1	15		
				母性看護学概論	講義	1	30					1	30		
				妊娠期・分娩期の看護	演習			1	30			1	30		
				産褥期・新生児の看護	演習			1	30			1	30		
			看護学 精神	生殖機能障害のある患者の看護	講義			1	15			1	15		
				精神看護学概論	講義	1	30					1	30		
				精神に障害を持つ人の理解	講義			1	15			1	15		
				精神看護の基本技術	演習			1	30			1	30		
			統合看護の実践	精神に障害を持つ人の生活と看護	演習			1	30			1	30		
				診療の補助技術における安全	演習			1	30			1	30		
				臨床看護の実践Ⅰ	演習					1	15	1	15		
				臨床看護の実践Ⅱ	演習					1	15	1	15		
				臨床看護の実践Ⅲ	演習					1	15	1	15		
				看護研究	演習					1	30	1	30		
				看護管理	講義					1	15	1	15		
				国際協力と災害看護	演習					1	15	1	15		
				キャリアデザインⅠ	演習	1	15					1	15		
				キャリアデザインⅡ	演習			1	15			1	15		
				キャリアデザインⅢ	演習					2	30	2	30		
			小計					18	480	24	600	8	135	50	1,215
			実習地	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	45					1	45		
				基礎看護学実習Ⅱ	実習	1	45					1	45		
				基礎看護学実習Ⅲ	実習			2	90			2	90		
				地域・在宅看護論実習Ⅰ	実習	1	45					1	45		
				地域・在宅看護論実習Ⅱ	実習					2	90	2	90		
				成人・老年看護学実習Ⅰ	実習			1	45			1	45		
				成人・老年看護学実習Ⅱ	実習			1	45			1	45		
				成人・老年看護学実習Ⅲ	実習					2	90	2	90		
				成人・老年看護学実習Ⅳ	実習					2	90	2	90		
				成人・老年看護学実習Ⅴ	実習					2	90	2	90		
				小児看護学実習	実習					2	90	2	90		
				母性看護学実習	実習					2	90	2	90		
				精神看護学実習	実習			2	90			2	90		
			統合実習	実習					2	90	2	90			
小計					3	135	6	270	14	630	23	1,035			
合計					45	1,185	40	1,110	24	810	109	3,105			

※看護科の卒業には修業年限以上在学し、109単位の修得が必要。

科目名	論理学 I			担当教員	米田 和美		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 基礎分野に位置づける。物事を科学的に思考する基礎的能力を養うために設定した。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力、事柄を正しく解釈できる思考を訓練する。 1. 論理的思考を養う。 1) 読む、書くを中心に文章の書き方を身につける。 「一文一義」の文が書けるようになる。 2) 聞く、話すを中心に言葉の運用能力の向上を図る。 2. 将来、研究論文を書くための文章構成法を身につける。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 論理的思考を養う。 2. 論文としての文章構成法を理解する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント				
出席状況					・授業時間の 2 / 3 以上の出席時間が無ければ評価を受ける事はできません。  <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・				
試験等	提出物		10						
	作文								
	随時試験								
	終講試験		80						
	平常の授業状況 ( )								
	その他 (小テスト )		10						
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト ・倫理的思考ファイル (貸出)					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ・				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	論理的な思考	論理性とは
2		文の 7 原則
3		事実の読み方
4		主張と理由
5		論評・意見文
6		論評・意見文
7		悪文とは
8	終講試験	筆記試験

科目名	論理学Ⅱ			担当教員	米田 和美		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<b>□位置付け</b> 基礎分野に位置づける。論理学Ⅰで学んだ知識を基に、倫理的思考を活用するために設定した。									
<b>□授業の目的</b> 筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力、事柄を正しく解釈できる思考を訓練する。 1. 論理的思考を養う。 1) 読む、書くを中心に文章の書き方を身につける。 「一文一義」の文が書けるようになる。 2) 聞く、話すを中心に言葉の運用能力の向上を図る。 2. 将来、研究論文を書くための文章構成法を身につける。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 論理的思考を養う。 2. 論文としての文章構成法を理解する。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況					・授業時間の 2/3 以上の出席時間が無いと終講試験を受ける事はできません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・論理学Ⅰの知識を活用して自分の力を試していきましょう。				
試験等	提出物		10						
	作文								
	随時試験								
	終講試験		80						
	平常の授業状況 ( )								
	その他 (小テスト )		10						
合計				100%					
<b>□テキスト</b> ・資料 論理的思考ファイル (貸出)					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方	
1	論文としての文章構成法	資料文の検討	小テスト1
2		資料文の検討	小テスト2
3		資料文の検討	小テスト3
4		資料文の検討	小テスト4
5		資料文の検討	小テスト5
6		意見文の検討	小テスト6
7		意見文の検討	小テスト7
8	終講試験	筆記試験	

科目名	情報科学			担当教員	三好善彦		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<b>□位置付け</b> 基礎分野に位置づける。コンピューターの使用による情報処理技術を身につけるために設定する。看護者として必要な情報リテラシーを学習する前段階となる科目である。									
<b>□授業の目的</b> 情報科学の概念及び情報処理に必要なパソコンの基礎知識・活用技術を学ぶ。また、効果的な情報伝達スキルを養う。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 情報の概念が理解できる 2. Word 機能を理解し活用できる 3. Excel 機能を理解し活用できる 4. PowerPoint 機能を理解し活用できる 5. 効果的は情報伝達（プレゼンテーション）ができる									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況						・ 授業時間の 2/3 以上の出席時間が無ければ評価を受ける事はできません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・			
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験		100						
	平常の授業状況（ ）								
	その他（ ）								
合計					100%				
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・					・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	コンピューター基礎知識	コンピューターと ICT 情報システム IT 化
2	インターネットの活用	インターネットを使った情報検索、電子メール、
3	文章作成	Word の基本操作、書式の設定
4		課題作成
5	表計算	Excel の基本操作 表計算
6	プレゼンテーション	PowerPoint のスライドの作成、レイアウト
7		課題作成
8	終講試験	課題発表

科目名	文学			担当教員	寶槻たまき		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 言葉と文章表現を通してコミュニケーションの重要性を学ぶ。また自己の感性を磨き人間への理解を深めるための基礎的な力を養う学ぶ科目として設定した。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 言語・表現とは何かを理解し、社会人として必要な語彙力・文章力を身につけ正しい使い方・表現ができるようにする。また、優れた文学作品を通じて人の生き方、人生観など人間への理解を深める。									
1. 言葉とコミュニケーションの重要性を理解する。 2. 文章の正しい書き方を理解する。 3. 評論の読解と感想 4. 小説の読解力と感想 5. 漢字力を身に付ける。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント					
出席状況				<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・ ・					
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験		100						
	平常の授業状況（授業態度）								
合計			100%						
<input type="checkbox"/> テキスト				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ					
・プリントを配布します。				・					

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	ガイダンス	ガイダンス・『論語』
2	正しい文章	文の構造や文章表現上の留意点を確認する。
3		悪文訂正問題
4	古典	和歌
5		平安中期の歴史と文学①
6		平安中期の歴史と文学②
7		平安中期の歴史と文学③
8		古典に描かれる病
9	近現代	正岡子規・夏目漱石
10		石川啄木・斎藤茂吉
11		スペイン風邪と文学
12		ハンセン病と文学
13		北条民雄「いのちの初夜」・ドリアン助川「あん」
14	漢字力	漢字問題
15	終講試験	筆記試験

科目名	心理学			担当教員	室田洋子		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	大学の学生相談室カウンセラー30年、心理臨床相談で家族相談30年余り相談員として勤めた。その経験をもとに講義を行う。						
<b>□位置付け</b>									
基礎分野に位置づけ、人のパーソナリティや行動の類型など多面的側面から学び、看護の対象となる人間の理解を深めるために設定した。									
<b>□授業の目的</b>									
人はどのように生き、考え、集うのか。なぜ、傷つき、感じ、行動するのか。心理学では、人の心のさまざまな問題を、人間を理解するという視点に立ちつつ検討する。 そのなかで、人の性格や気質、人格とはどのような内容か、またそれはどのようにして形成されるのか、心の深層の存在とその働き、心理的存在・社会的・身体的存在としての「自分」が被害をうけそうになった時に人が心の反応としておこす様々な防衛機制的行動、思うようにいかない状況（要求阻止）におかれた時に人がとる適応行動と不適応行動、それを人はどのようにして乗り越えるのかについて具体的な事例を多く取り入れながら考察する。 また、自分をとりまく状況や環境の認知を人はどのようにしているのか、その反応や行動の人による違いを知ることを通して、人の心と行動の不可思議さ面白さを探求する。									
<b>□授業の到達目標</b>									
1. 人間への理解を深める									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況					・授業時間の2/3以上出席時間がない場合は、評価を受けることができません。				
試験等	提出物				<b>□学生へのメッセージ</b> ・				
	作文								
	随時試験								
	終講試験			100					
	平常の授業状況（ ）								
その他（ ）									
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・『図解・心理学』室田洋子他 学術図書出版					・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	心理学とは	人間を理解することのむずかしさ
2	性格(personality)	人格・性格・気質・パーソナリティ…定義
3	性格の類型論	クレッチマーの類型論 シェルドンの類型論 ユングの類型論
4	あなたの性格は？	向性検査の実施 YG性格検査の実施 検査実施の基本的条件
5	心の深層を考える	ふと洩らす言葉や行動の意味 フロイトの深層心理学 ユングの深層心理学
6	行動のしくみ	行動の発生…人の嘘を電流ではかる 人間の行動、動物の行動 感情と行動の関係
7	要求と動機づけ	一次的要求と生理的ホメオスターシス 二次的要求と家族ホメオスターシス
8	誘因と誘発性	ふかし芋とフランス料理
9	要求阻止（行動の障害）	フラストレーションを生じさせる要因 要求水準とその変化 再行傾向とツアイガーニック効果
10	要求阻止の時ひとはどう行動するか	代償行動と代償価 葛藤（コンフリクト） 心的飽和
11	適応・不適応	要求阻止における適応行動 要求阻止における不適応行動 適応異常・精神障害
12	自己防衛機制	セルフ・ディフェンス・メカニズムとは合理化、逃避、抑圧、投射、反動形成… 人格形成と要求阻止耐性
13	環境の認知	レマン湖のほとりで旅人は何をみたのか 心理的環境と物理的環境
14	知覚の体制—ものの認知	図と地 ウェルトハイマーの法則 知覚の適応性
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	人間関係論 I			担当教員	鈴木晶夫		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	法令等指定	○	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 基礎分野に位置づける。人との関係形成とは何かを理解し保健医療の専門職として、人間関係に関連する概念や理論を学ぶために設定している。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 人間の多様な心理・行動的側面を理解し、実際場面、臨床場面に応用できる能力を養う。そのために、特に、コミュニケーションを中心に講義する。日常での対人場面、臨床実習や面接場面、実際のクライアントとのやりとりに必要なコミュニケーション手段に関する基本的な問題について講義する									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 人間の心理・行動的側面を理解する。 2. コミュニケーション手段の基本を理解する									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント ・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。				
出席状況					<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・				
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験		100						
	平常の授業状況 ( )								
その他 (授業の振り返り、演習小テスト)									
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト ・				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ・					

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	コミュニケーション入門	ヒトのものの見方、ヒトの見方 情報伝達手段 記号、誇示
2	非言語情報伝達手段	その1 (顔情報、表情、表情表出、視線)
3		その2 (空間行動、接触)
4		その3 (姿勢、匂い、身振り)
5	精神分析	精神分析理論の初歩、概説
6	交流分析入門	交流分析の概要、エゴグラム実施と解釈
7	カウンセリングの技法	カウンセリング概説、カウンセリングの初歩的技法解説
8	終講試験	筆記試験

科目名	人間関係論Ⅱ			担当教員	鈴木晶夫		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 基礎分野に位置づける。人間関係論Ⅰの学びを基盤として、自己を知り他者との人間関係を形成するコミュニケーション技法の基礎を考えるために設定している。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 人間の多様な心理・行動的側面を理解し、実際場面、臨床場面に応用できる能力を養う。日常での対人場面、臨地実習や面接場面、実際のクライアントとのやりとりに必要なコミュニケーション手段の基本を学習する。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 実践を通し人間関係の築き方を理解できる。 2. コミュニケーション技法を通じて自己と他者を理解する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント				
出席状況					・授業時間の2/3以上出席がない場合は、評価を受ける事はできません  <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・人間関係論Ⅰの学習を活かしコミュニケーションを実際に行い看護の現場において活用できるようにつなげていきましょう。				
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験		100						
	平常の授業状況 ( )								
その他(授業の振り返り、演習小テスト)									
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
・					・				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	対人関係の成立の要因	人間関係から「科学」を考える、用語の定義
2		対人魅力、印象形成、好意形成の条件 人の態度と行動変化
3		集団が個人に与える影響
4	コンテクスト	文脈・状況・各種感情
5		コミュニケーションの障害
6	信頼関係構築	自己と他者、自己評価、自己肯定感、承認、幸福
7		カウンセリング、人間関係からヘルスリテラシーを考える
8	終講試験	筆記試験

科目名	環境生態学			担当教員	渡邊・大地		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<b>□位置付け</b>									
基礎分野に位置づける。人間は環境と共存し生活を営む存在である。自然環境は地球上の生態系に影響を及ぼし人の暮らしや生命にも影響を与える。環境変化における問題を知り人間は環境に大きな影響を受ける存在であることを理解するために設定した。									
<b>□授業の目的</b>									
生態系保全を含む環境問題の把握のため、現在の地球環境の状況（人口、水、食糧、化学物質の使用など）を知り、環境問題とは何かについて理解する。とくに、環境問題のうち海洋に焦点を当て、地球環境と海洋生態系に関する問題について、最新のトピックスを紹介する。さらに、今後の環境保全のための方策や課題などを考えるヒントを提示する。									
<b>□授業の到達目標</b>									
1. 地球環境と生態系にかかわる問題を理解する。 2. 地球環境と海洋生態系に関する問題について理解する。									
<b>□成績評価の方法</b>									
評価項目		割合		<b>□成績評価に関するコメント</b>					
出席状況				・授業時間の 2/3 以上の出席時間が無ければ評価を受ける事はできません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・ひとの命を扱う医療の場でも、地球環境や生態系（他者のいのち）を意識することは重要になってくると思います。気軽に受講してみてください。					
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験								
	平常の授業状況（ ）								
その他（課題レポート）		100							
合計		100%							
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・「いのちと重金属」渡邊泉 筑摩書房（ちくまプリマー新書）					・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	現在の地球環境 1 人口・食糧	今の地球の現状を理解するため、最大の環境問題、人口と食について解説
2	現在の地球環境 2 水・資源	世界的な水と資源、そして化学物質使用の現状をデータを示して解説する
3	環境問題とは何か？	人類が直面する環境問題とは、そもそもどのようなものか概説する
4	地球	地球環境システムについて、概要を説明する
5	海洋	海洋について、物理、化学、生物および地学的観点から多角的に説明する
6	海洋汚染	海洋汚染の概要を説明するとともに、海洋汚染問題について具体例を紹介する
7	海洋と森林	地球環境保全について、海洋と森林の繋がりに焦点を当て講義を行う
8	今後の環境問題と生態系	今後の地球と生態系の問題点とは何か？その対策についても考える

科目名	運動と健康			担当教員	稲井勇仁		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 基礎分野に位置づける。運動の効果を健康の視点で学習し健康のための運動の理解を、講義と実技を通して学習する。この体験を通し身体に関心をもち「健康とは」についてを考えるために設定した。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 『健康について学習する場』としての意義を強調したい。心身の健康を維持するための運動を実施しその効果を実感するだけでなく、運動・スポーツとそれに関連する健康について幅広く学習する機会として重要であると考えている。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 心身の健康を維持する。運動の必要性を実感する。 2. 運動と健康について理解する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント ・授業時間の2/3以上出席時間がない場合は、評価を受けることができません。				
出席状況					<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・各授業では講義と実技の両方行います。運動着で出席してください。				
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験			100					
	平常の授業状況（授業態度）								
その他（ ）									
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト ・					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ・				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	健康な身体づくり	オリエンテーション 運動と健康について グループワーク
2	運動の効果1	身体的効果 運動不足による影響 実技
3	効率的な動作	身体バランス ボディメカニクス 実技
4	運動の効果2	心理的効果 集団効果 チーム・実技
5	運動による障害	予防行動・ストレッチ 運動障害（肉離れ捻挫） 脱水 実技
6	生涯スポーツ	加齢による低下と維持向上 実技
7	身体づくり	筋力トレーニング 実技
8	終講試験	筆記試験

科目名	教育学			担当教員	菊地愛美		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 基礎分野に位置づける。人が何故、教育を受けるのかを理解し自らも生涯学習を続け自己成長し続ける事が出来るように設定している。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 「教育学」の授業は、教育学の基礎的な知識を修得すること、学び方を体得することを目的とする。 前半では、「教育」という行為について、医療や看護の世界と深く関わる領域に焦点を当て、教育の役割と課題について検討する。 後半では、関心のあるテーマについて個人またはグループでプレゼンテーションを行う。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 教育学の基礎的知識を習得する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント ・授業時間の2/3以上出席時間がない場合は、評価を受けることができません。				
出席状況					<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・講義だけでなく、ディスカッションや課題研究を行うので、積極的な姿勢が求められる。				
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験		100						
	平常の授業状況 ( )								
その他 (プレゼンテーション)									
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト ・『教育学』医学書院					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ・プリント				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	ガイダンス	教育学を学ぶ意味
2	人間の発達と教育	人間形成と社会
3	子どもの生活と教育の変化	学校とは何か①
4		学校とは何か② 不登校 学校化社会
5		子どもたちの生きづらさを考える 不登校 いじめ
6	教育の権利	教育を受ける権利
7		特別ニーズ教育
8	学習の保障	院内学級
9		ジェンダーとセクシュアリティ 再生産の視点を入れて
10	リテラシーの概念	映画から学ぶ
11	リテラシーの概念	映画から学ぶ 批判的リテラシー
12	教育評価	教育実践と評価の理論
13	教育計画と教育評価	教育評価の実践 授業計画・実践①
14	教育計画と教育評価	教育評価の実践 授業計画・実践②
15	終講試験	筆記試験

科目名	英会話			担当教員	松村純		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 基礎分野に位置づける。将来医療現場において多様な国の人々とのコミュニケーション力を養う基礎力を養うために設定した。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 基礎英語をもとにして、実際に医療現場で使うであろう様々な英語表現、また看護師にとり大切な、患者さんと心をつなぐための英語会話を身につけることを目的とする。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 来院時の手続き・受診・検査・症状説明・投薬などに伴う英語表現、および患者さんとの個人的な会話表現を口頭で言えるようになることを目的とする。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント					
出席状況				・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。					
試験等	提出物		20	<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・医療現場で使われる英語表現も「中学英語」が基礎となっています。このクラスでは、医療の場で必要とされる英語を易しい英語で言えるように練習していきます。					
	作文		—						
	随時試験		20						
	終講試験		50						
	平常の授業状況 ( )		10						
合計			100%						
<input type="checkbox"/> テキスト ・プリントを配布します				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ・					

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	医療現場で使われる英会話 (1)	患者来院時の英語表現
2	患者さんとの日常会話 (1)	患者さんと心をつなぐ「Be 動詞を使った英語会話」
3	医療現場で使われる英会話 (2)	初診時の英語表現
4	患者さんとの日常会話 (2)	患者さんと心をつなぐ「S+V+0 を使った英語会話(1)」
5	医療現場で使われる英会話 (3)	バイタルサイン測定の英語表現
6	患者さんとの日常会話 (3)	患者さんと心をつなぐ「S+V+0 を使った英語会話(2)」
7	医療現場で使われる英会話 (4)	症状説明の英語表現
8	患者さんとの日常会話 (4)	患者さんと心をつなぐ「S+V+0 を使った英語会話(3)」
9	医療現場で使われる英会話 (5)	痛みについての英語表現
10	患者さんとの日常会話 (5)	患者さんと心をつなぐ「助動詞を使った英語会話」
11	医療現場で使われる英会話 (6)	投薬についての英語表現
12	患者さんとの日常会話 (6)	患者さんと心をつなぐ「疑問詞を使った英語会話(1)」
13	医療現場で使われる英会話 (7)	排尿・排便についての英語表現
14	患者さんとの日常会話 (7)	患者さんと心をつなぐ「疑問詞を使った英語会話(2)」
15	終講試験	筆記試験

科目名	家族社会学			担当教員	室田洋子		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	大学の学生相談室カウンセラー30年、心理臨床相談で家族相談30年余り相談員として勤めた。その経験をもとに講義を行う。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 基礎分野に位置づける。看護は患者の背景である家族を理解し看護を行う必要がある。そのため看護師として家族の機能・役割を理解するために設定した。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 人間はひとりで生活しているのではなく、多くは家族が存在し、家族の一員として生活している。看護の対象者には家族の理解と支援は重要である。また、看護は家族もケアの対象となり、個人と地域社会を繋ぐ働きもする。そこで、家族をシステムとしてとらえ、家族の形態、家族の機能と役割などを理解し、我が国の家族の状況や問題についても理解する。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 家族の形態、機能と役割について理解する。 2. 我が国の家族の状況や問題について理解する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント					
出席状況				・授業時間の2/3以上を出席しなければ、終講試験の受験資格はありません。					
試験等	提出物			<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・					
	作文								
	随時試験								
	終講試験		100						
	平常の授業状況 ( )								
	その他 ( )								
合計			100%						
<input type="checkbox"/> テキスト				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ					
・				・					

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	家族社会学の視点	家族の基本的概念と定義
2	家族機能の変遷	gemeinschaft と gesellschaft
3	家族システム論	生物体システムの7つのレベル(miller)
4	全体としての家族	(family as a whol) の理解
5	母子相互作用	子どもによって親は育てられる
6	家族の危機と Homeostasis	家族の構造と世代間の境界
7	家族ダイナミックスの発達的变化	(反抗期現象の意味 Kroh)
8	家族内の地位と役割	母親コンセプション
9	Moreno の関係論	親子・夫婦・家族・パートナーと家族関係
10	Erikson のアイデンティティ論	家族の発達課題と発達の危機
11	家族内コミュニケーション	間主観性 Nonverbal Communication
12	愛着形成と愛着障害	若い家族の発達課題と乳児期の発達課題
13	躰ける Autonomy-Shame	母(父)性の形成と失敗 虐待の土壌
14	家族と医療	ライフサイクルと家族
15	終講試験	筆記試験

科目名	解剖生理学 I			担当教員	神山暢夫		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<b>□位置付け</b>									
専門基礎分野に位置づけ人体の構造と機能の理解を目的として設定している。看護において、人体の正常な機能の理解無くして対象の健康障害を捉える事は困難である。よって、看護実践の基盤となる科目である。									
<b>□授業の目的</b>									
～解剖生理学について～ 解剖学と生理学は医学の中で最も基礎となる学問で、これを自転車に例えるなら、解剖学を前の車輪とすれば、生理学は後の車輪である。即ち、両輪が一体となって働かねばヒトの生命は保てない。前者は人間の体の構造や形態を学ぶのに対して、後者は機能や働きを学ぶ。この進んだ現代においても未だ解明されていない点は多々あれど、人間の体の精密さに諸君は感嘆の声を上げることであろう。 人体で営まれている生命現象は、生命を維持するはたらき（植物機能）と生命を活用するはたらき（動物機能）に大別される。植物機能は、人体と細胞の生命を維持する基盤となるものである。ここでは、生命を維持する植物機能のうち「血液の循環とその調節」を学ぶ。									
<b>□授業の到達目標</b>									
1. 人体を構成する細胞・組織・器官・系について理解する。 2. 医学用語を正確に理解する。 3. 生命を維持する植物機能について理解する。 4. 血液・循環器の役割及び正常な機能を理解できる。									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況						・授業時間の 2/3 以上出席しなければ評価を受ける事はできません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・人体の正常な機能を理解することで、健康を障害した際、何故症状が出現するのか、治療の意味の理解につながります。またこの知識を活かし看護を考えなければなりません。学習の前後に予習・復習が必須な科目で暗記ではなく、理解がとても重要です。			
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	修了認定試験			100					
	平常の授業状況 ( )								
その他 ( )									
合計				100%					
『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』 坂井建雄他 医学書院					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	イントロ	授業の概要・人体の構造と機能
2		ヒトの体
3		細胞の中と外
4		体内の水・生理食塩水
5	血液	血液の組成
6		血液の働き
7		免疫、血液凝固
8	循環	循環の概要
9		心臓の構造
10		心臓の収縮 (1)
11		心臓の収縮 (2)
12		心電図
13		動脈と静脈
14		血液循環の動態 いろいろな血管
15	総括と修了認定試験	総括と筆記テスト (I)

科目名	解剖生理学Ⅱ			担当教員	神山暢夫		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<b>□位置付け</b> 専門基礎分野に位置づけ人体の構造と機能の理解を目的として設定している。看護において、人体の正常な機能の理解無くして対象の健康障害を捉える事は困難である。よって、看護実践における臨床判断の基盤となる科目である。									
<b>□授業の目的</b> 人体で営まれている生命現象は、生命を維持するはたらき（植物機能）と生命を活用するはたらき（動物機能）に大別される。植物機能は、人体と細胞の生命を維持する基盤となるものである。 ここでは、生命を維持する植物機能のうち「呼吸機能」と「栄養の消化と吸収」について学ぶ。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 生命を維持する植物機能について理解できる。 2. 呼吸器・消化における正常な機能を理解できる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況					・授業時間の 2/3 以上の出席がない場合は評価を受ける事はできません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・人体の正常な機能を理解することで、健康を障害した際、何故症状が出現するのか、治療の意味の理解につながります。またこの知識を活かし看護を考えなければなりません。学習の前後に予習・復習が必須な科目で暗記ではなく、理解がとても重要です。				
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	修了認定試験		100						
	平常の授業状況（ ）								
その他（ ）									
合計				100%					
『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』 坂井建雄他 医学書院					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	呼吸	テストの振り返り 血液・循環器の重要ポイント 呼吸の概要 1
2		呼吸の概要 2
3		肺の構造
4		換気とは
5		ガス交換
6		肺機能
7		肺機能とその検査
8		呼吸とホメオスタシス
9	消化	消化器系の概要
10		栄養と消化、吸収
11		消化器系の構造
12		上部消化管
13		下部消化管
14		腹部実質臓器
15	総括と修了認定試験	総括と筆記テスト（Ⅱ）

科目名	解剖生理学Ⅲ			担当教員	神山暢夫		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<b>□位置付け</b> 専門基礎分野に位置づけ人体の構造と機能の理解を目的として設定している。看護において、人体の正常な機能の理解無くして対象の健康障害を捉える事は困難である。よって、看護実践の基盤となる科目である。									
<b>□授業の目的</b> 生命を活用する動物機能は、情報を受容し、処理し出力する、すなわち人体の活動を統合するはたらきである。ここでは、「情報の受容と処理」について学ぶ。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 人体の活動を統合する働きについて理解する。 2. 神経の正常な機能を理解できる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況					・授業時間 2/3 以上の出席しなければ評価を受ける事はできません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・人体の正常な機能を理解することで、健康を障害した際、何故症状が出現するのか、治療の意味の理解につながります。またこの知識を活かし看護を考えなければなりません。学習の前後に予習・復習が必須な科目で暗記ではなく、理解がとても重要です。				
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験		100						
	平常の授業状況 ( )								
合計				100%					
『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』 坂井建雄他 医学書院					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	神経系	テストの振り返り 呼吸器・消化器の重要ポイント 神経系の概要
2		膜電位の発生
3		活動電位の発生と伝導
4		シナプス
5		筋の構造と収縮
6		筋収縮のコントロール、マクロ筋
7		中枢神経系の解剖
8		脊髄と末梢神経
9		反射の解剖と機能
10		感覚器の概要、聴覚と平衡覚
11		視覚
12	自律神経系	自律神経系の概要
13		自律神経系の解剖
14		自律神経系の支配の原則と例外
15	総括と終講試験	総括と筆記テスト (Ⅲ)

科目名	解剖生理学IV			担当教員	神山暢夫		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<b>□位置付け</b> 専門基礎分野に位置づけ人体の構造と機能の理解を目的として設定している。看護において、人体の正常な機能の理解無くして対象の健康障害を捉える事は困難である。よって、看護実践の基盤となる科目である。									
<b>□授業の目的</b> 解剖生理学の最後に生命を維持する植物機能のうち「腎機能」「内臓機能の調節」について学ぶ。 また、ヒトという種を保存するはたらきについて、生命の誕生、成長と老化という経過を通じて学習する。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 体液と体内の恒常性を維持する機能を理解する。 2. 種の保存・成長と老化の過程を理解する。 3. 人体を構成する器官について理解する。 4. 腎臓・内分泌・生殖機能・皮膚・骨格の理解ができる。									
<b>□成績評価の方法</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>					
出席状況				・授業時間の 2/3 以上出席がなければ終講試験は受験できません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・人体の正常な機能を理解することで、健康を障害した際、何故症状が出現するのか、治療の意味の理解につながります。またこの知識を活かし看護を考えなければなりません。学習の前後に予習・復習が必須な科目で暗記ではなく、理解がとても重要です。					
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験		100						
	平常の授業状況 ( )								
合計			100%						
『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』 坂井建雄他 医学書院				<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・					

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	腎	テストの振り返り 神経機能の重要なポイント 腎機能の概要
2		ネフロン構造
3		尿の生成
4		腎機能の調節
5		体液のホメオスタシス
6	内分泌	内分泌系の概要、ホルモンの分類
7		内分泌各論 1
8		内分泌各論 2
9	生殖	生殖の意義と概要
10		男性生殖器
11		女性生殖器
12	皮膚	皮膚の構造と機能
13	骨	骨学の概要
14		全身の骨マクロ
15	総括 終講試験	筆記テストIV

科目名	生化学			担当教員	田中・西塚		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 専門基礎分野として位置づける。生体を構成する物質と仕組みを理解し、根拠をもって看護の場で臨床判断につなげられるように設定している。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 ヒトのからだで起こる生理現象は、分子レベルでの反応を基本としている。授業などにより働きかける対象の多くもそれらである。からだの仕組みに関して、医療現場で生きる知識を得るには、器官・組織レベルに加え、分子レベルの視点が欠かせない。本授業は、分子レベルでからだの仕組みを理解することと、将来看護師としてより適切な看護・治療ができる思考力や応用力を獲得することを目的としている。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 生化学の知識がどのように現場で生きるか説明できる 2. 生体を構成する物質について説明できる 3. 生体内の代謝やその働きについて説明できる									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法 評価項目				割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント ・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。				
出席状況					<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・高校までの生物学を基礎とした科目です。予習して授業に臨むことでより理解が進みます。また、健康障害が生じた際に症状が出現する意味を理解することにつながります。必ず予習や復習をして理解できるように学習しましょう。				
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験			100					
	平常の授業状況 ( )								
その他 ( )									
合 計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト ・『はじめの一步の生化学・分子生物学』 第3版 前野正夫他著 羊土社					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ・				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	生化学の基礎	化学の基礎：“元素”“化学反応”？基本知識を覚えよう
2		細胞の構造と機能：細胞小器官とは？その機能は？
3	生体を構成する物質	糖質：体内の“糖”とは何？
4		脂質：脂質は“体脂肪”だけじゃない。多様な構造と機能
5		タンパク質：運動も代謝も免疫も…タンパク質が支える
6		核酸：DNA の材料、遺伝を基盤となる性質を知る
7		水と無機質：なぜ水は必要か。その役割を理解する
8		ホルモン：からだは常にホルモンにより調節されている
9	生体内の物質代謝	酵素とビタミン・補酵素：“酵素”“ビタミン”は何をする？
10		糖質代謝：“糖”はどうやって“エネルギー”になるのだろう
11		脂質代謝：“脂肪の分解”とは正確にはどういうこと？
12		タンパク質代謝：“アミノ酸”への分解を知る
13		核酸代謝・ポリフィリン代謝：核酸は痛風に関与する！
14	遺伝情報とその発見	遺伝情報：親からの“遺伝”…DNA から理解する 遺伝病：どんな病気がどうやって遺伝？
15	終講試験	筆記試験

科目名	栄養学			担当教員	武田朝子		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 専門基礎分野に位置づける。栄養の意義を生体の消化・吸収の視点から理解し、健康障害時の食事・栄養を看護に関連させて考えられるように設定している。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 健康にとっての栄養の意義と栄養系の生体内における消化・吸収について理解する。 また、食事療法の基礎を理解する。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 栄養の意義と消化・吸収について理解する。 2. 食事療法の基礎を理解する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント					
出席状況				・					
試験等	提出物			<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・					
	作文								
	随時試験								
	終講試験		100						
	平常の授業状況 ( )								
	その他 ( )								
合計			100%						
<input type="checkbox"/> テキスト				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ					
・『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学』 小野章史他 医学書院				・					

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	栄養学の意義	人間栄養学と看護
2		健康づくりと食品・食事・食生活
3		エネルギー代謝
4		栄養素の種類とはらたき 炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、水
5		栄養素の消化・吸収と体内代謝
6		栄養状態の評価・判定と栄養ケアマネジメント
7		ライフステージと栄養
8	食事療法の基礎	臨床栄養
9		病院食
10		疾患別食事療法の実際
11		手術と食事
12		妊娠と食事
13		在宅療法者の食事療法
14		栄養補給法
15	総括・終講試験	筆記試験

科目名	病理学			担当教員		町並・大井手		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容	大学病院・総合病院における病理室において30年以上病理検査に従事した経験をもとに授業を行う。						
<b>□位置付け</b> 専門基礎分野に位置づける。さまざまな病気の本質を理解し、科学的根拠に基づき看護に活用できるようにするために設定している。									
<b>□授業の目的</b> 疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝の病理学的変化の基礎を理解する。看護実践において、病気の原因やその経過、それによって人体が形態的・機能的にどのように変化することを理解することで病態理解と看護の視点における観察につなげる。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 疾病の成り立ちと回復過程について理解する。 2. 病理的变化の基礎を理解する。 3. 病理診断の役割を理解する。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況					・授業時間の2/3以上出席しなければ終講試験は受験できません。				
試験等	提出物				<b>□学生へのメッセージ</b> ・人体の正常な機能を理解することで、健康障害の際、診断の意味や病状の意味の理解につながります。またこの知識を活かし病態把握や看護を考えなければなりません。学習の前後に予習・復習が必須な科目で暗記ではなく、理解がとても重要です。				
	作文								
	随時試験								
	終講試験		100						
	平常の授業状況 ( )								
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・『入門病理学 病気の形態となりたち』町並陸生 丸善出版					・				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	疾病の成り立ち	序論
2	病理的变化	発生の異常、奇形
3	病理的变化	変性①
4	病理的变化と診断	変性②
5	病理的变化	循環障害①
6	病理的变化と診断	循環障害②
7	病院の病理室見学	病理学的検査法の実際
8	病理的变化	炎症 (免疫も含む) ①
9	病理的变化	炎症 ②
10	病理的变化と診断	炎症 ③
11	病理的变化	新生物 (腫瘍) ①
12	病理的变化	新生物 (腫瘍) ②
13	病理的变化と診断	新生物 (腫瘍) ③
14	病理的变化と診断	新生物 (腫瘍) ④
15	総括 終講試験	総括 筆記試験

科目名	病態生理と治療（循環・呼吸・血液）			担当教員		杉村・大嶋・浅妻	単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容	大学病院・総合病院における臨床医として患者の診療に40年以上勤務経験をもちに診断・治療に関する授業を行う。						
<b>□位置付け</b>									
専門基礎分野に位置づける。人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するために解剖生理学を基礎とした上で病態生理学を臨床で活用可能なものとして学ぶ。病態生理学とは、疾病により機能がどう変化するという視点から疾病を解明したものである。疾病による機能の変化により生じてくる代表的な症状について、メカニズムを学び、主な疾患、検査、治療について理解を深め、看護に結び付けられる基礎知識とするために設定した。									
<b>□授業の目的</b>									
病態生理の理解により看護において臨床判断能力の基盤とする。循環器・呼吸器系の障害では、人間の生命維持に必要な酸素や栄養の供給、内部環境維持に影響を与え、血液・造血系の障害では、生体防御機能の著しい障害が起き、生命維持を困難にすることを理解する。									
<b>□授業の到達目標</b>									
1. 疾病による機能の変化と症状について理解する。 2. 主な疾患の検査治療について理解する。									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況						・授業時間の2/3以上出席しなければ終講試験は受験できません。 ・各講師合わせて100点の評価となります。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・呼吸・循環・血液は生命を維持する重要な器官です。この科目を理解するためには解剖生理学の理解が重要です。復習をしてから臨んでください。健康障害の機序を理解し看護の臨床判断につなげてください。			
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験			100					
	平常の授業状況（ ）								
その他（ ）									
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器』上塚芳郎他 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器』浅野浩一郎他 医学書院 ・成人看護学 [3] 『血液・造血器』飯野京子他 医学書院 飯野京子他 医学書院					・				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	循環器の病態生理	体循環と心不全
2	主な症状と検査 診断	不整脈 心電図
3	主な治療の理解	心臓カテーテル治療
4	代表的疾患の理解	虚血性心疾患
5	循環器の病態理解	症例の判断
6	呼吸器の病態生理	呼吸器の病態と身体への影響
7	主な診断検査	血液検査、喀痰検査、画像診断、内視鏡検査、生検、呼機能検査、血液ガス分析（データの読み方、酸塩基平衡）
8	主な治療の理解	吸入、酸素療法（人工呼吸器含む）、胸腔ドレナージ
9	代表的疾患の理解	肺炎、インフルエンザ、結核、
10	代表的症例と治療	気管支喘息、COPD・間質性肺炎、肺癌
11	血液疾患と病態生理	血液の成分と機能、造血のしくみ
12	主な検査と診断	赤血球の異常（貧血） ・白血球の異常（白血球減少症） 血液凝固と異常（出血傾向、DIC）
13	主な検査と治療	骨髄穿刺 ・化学療法と副作用 ・輸血治療と副作用
14	代表的症例の理解	白血病 ・悪性リンパ腫
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	微生物学			担当教員		林谷・谷口		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	林谷：大学において、35年間細菌性病原体に関する教育・研究に従事。実例を活用した講義を行う。谷口：研究員として日清製粉(株)中央研究所等、企業の研究所に8年8ヶ月間勤務。大学において、26年間微生物学、特にウイルス学に関する教育・研究に従事。実例を多く取り入れた講義を行う。						
<b>□位置付け</b> 専門基礎分野に位置づける。人体に影響を及ぼす微生物の特性を理解し、疾病の予防や看護に根拠をもって活用できるように設定している。									
<b>□授業の目的</b> 微生物の生態・種類と特徴、人体に及ぼす影響と対応について理解する。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 微生物の種類と特徴について理解する。 2. 人体への影響とその対応を理解する。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況					<b>□学生へのメッセージ</b> ・看護における安全管理の基本として感染対策は重要です。病気の成り立ちの理解に繋がるように復習しながら学んでいきましょう。				
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験			100					
	平常の授業状況 ( )								
その他 ( )									
合計				100%					
<b>□テキスト</b> ・『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』南嶋洋一他 医学書院					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	序論	微生物とは
2		微生物学の歴史
3	微生物学の基礎	細菌の性質 真菌の性質 原虫の性質 ウイルスの性質
4	感染とその防御	感染と感染症
5		自然免疫、獲得免疫
6		感染源・感染経路からみた感染症
7		減菌と消毒
8		感染症の予防、診断、治療
9		感染症の現状と対策
10		病原細菌と細菌感染症
11		病原真菌とその感染症
12		病原原虫とその感染症
13		主なウイルスとウイルス感染症
14		主なウイルスとウイルス感染症
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	医療概論			担当教員	安藤・太田		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 専門基礎分野に位置づける。社会の中で医療が担う役割を理解しその中で、看護師の役割を考えるために設定している。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 チーム医療の一員である看護師は、看護の基礎となる真の医学のすがたとあるべき医療のすがたを正しく理解する必要がある。 ここでは、医学の概念と健康・病気・医学の体系について学習する。また、医学の進歩と生命の意義や医療のあり方について学ぶ。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 医学の変遷と発達について理解する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント					
出席状況			-	<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・					
試験等	提出物								
	作文		-						
	随時試験								
	終講試験								
	平常の授業状況 ( )		100						
合計			100%						
健康支援と社会保障制度 医療学総論 メディカルフレンド社				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ					

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	医療とは	医学をどのようにとらえるか
2		医学の発達のすがた - 医学史
3		健康・病気・医学の体系
4	医療とプライマリケア	専門職と連携
5	健康とは	健康格差と社会的要因
6	社会資源と医療保障	我が国の社会保障制度
7	医療のグローバル化	グローバル化と医療
8	終講試験	筆記試験

科目名	生活科学			担当教員		横尾優美		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 専門基礎分野に位置づける。人々の暮らしの環境を衣食住と身近な視点から科学的にとらえ人々の健康支援を考え看護につなげられるように設定した。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 人間の生活にとって不可欠な衣食住の様々な事柄について科学的視点からとらえ、現代社会における生活者として身近な衣食住の問題を考える。また、看護の立場に立ったとき実践に役立つ知識を修得することを目的とする。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 衣食住を科学的視点からとらえ実践的知識と結びつけて考える。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント					
出席状況			10	<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・					
試験等	提出物								
	作文								
	随時試験								
	終講試験		80						
	平常の授業状況（授業態度）		10						
合計			100%						
<input type="checkbox"/> テキスト				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ					

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	住宅の役割と現代の住環境	生活空間の構成
2		住宅の安全
3	食生活の現状と健康問題	家族形態と食生活
4		食品の安全
5		健康問題
6	被服の役割と機能	被服の管理
7		様々な機能を持つ被服
8	終講試験	筆記試験

科目名	看護学概論			担当教員	伊東由美		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	大学病院に6年間勤務。障害児通園・保育園勤務5年間の勤務経験をもとに看護師と多職種連携などを含めて授業を行う。						
<b>□位置付け</b> 専門分野に位置づけ最初に学習する専門科目であり、学生の「人の役に立ちたい」という看護師への思いを具現化につなげる科目として設定している。看護の基本概念をふまえ、人間の健康の保持増進にかかわる看護の役割と機能を幅広く学ぶものとした。看護に必要な、人間理解を深めるとともに、人々の価値観・人生観、また多様化する看護の活躍の場や看護には正解がないなど看護を志す初學者として「看護とは？」を考え続けられるようにしている。									
<b>□授業の目的</b> 看護学概論では、初めて看護を学ぶ学習者が看護全般の基本となる概念を理解し、看護の本質を学ぶことにより各領域の看護学への学習意欲を高めることをねらいとする。本校での看護実践の基礎となる看護理論や専門職としての看護倫理についても理解し、社会や医療における看護の位置づけと役割について学ぶ。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 看護の歴史、理念、本質について理解する 2. 看護師に求められる基本的能力と責任について理解する 3. 看護理論について理解し、看護を理論として捉える力を養う 4. 保健医療福祉における看護の役割を理解する 5. 専門職の定義や基準を理解する									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・看護は目に見えるものではありません。対象者の健康維持・回復のためにどのような役割があり、専門職業人としてあるべき姿に向かって何をすべきか、常に考えながら各領域の看護を学んで行きましょう。				
試験等	提出物			20					
	作文			-					
	随時試験								
	終講試験			80					
	平常の授業状況 ( )								
その他 ( )									
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論』 茂野香おる他 医学書院					・「看護覚え書」 現代社 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	看護教育について	3年間の教育課程と教育目標
2	看護とは何か	看護の概念
3	看護の歴史	看護の動向
4	看護の理論家	F. ナイチンゲールの看護
5	看護の理論家	ヘンダーソンの看護
6	看護の理論家	ベナーの看護
7	看護の対象	発達段階 健康 (ヘルスプロモーション)
8	看護の対象	生活者の暮らし
9	対象理解と看護	健康障害と看護
10	看護の実践	看護判断に基づく実践
11	専門職としての看護師	法律 倫理綱領
12	保健・医療・福祉の理念と看護	他職種との連携・協働 看護サービス提供の場
13	保健・医療・福祉の理念と看護	他職種との連携・協働 看護サービス提供の場
14	専門職とは	専門職としての看護 看護の業務と義務
15	総括 終講試験	筆記試験

科目名	看護倫理			担当教員	伊東由美		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	大学病院に6年間の勤務。障害児通園・保育園勤務5年間の経験をもとに専門家である意味を考えられるような授業を行う。						
<b>□位置付け</b> 専門分野の基礎看護学に位置づける。看護倫理は各領域の看護学においても多段階で学び更に実践の場でも学ぶことである。まずは倫理に関心を持ち看護を考えるために設定した。									
<b>□授業の目的</b> 看護実践の専門家として倫理とは何か考え、「良い看護師とは」「良い看護の実践とは」を考える基礎的能力を学習する。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 看護の現場にある倫理的課題に「気づく」ことができる。 2. 倫理的課題を分析するために「参照すべき手がかり」を見出すことができる。 3. 倫理的課題の解決のために「何をすべきか」を考えられる 4. 倫理的課題の解決のための「対話」を行うことができる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・様々な具体的事例を通して看護者の倫理について自分に問いかけながら学んでいきましょう。				
試験等	提出物		40						
	作文		-						
	随時試験								
	終講試験		60						
	平常の授業状況 ( )								
	その他 ( )								
合計				100%					
<b>□テキスト</b> ・系統看護学講座 「看護学概論」医学書院					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	倫理の基礎	医療における倫理
2		看護倫理とは
3	専門職の倫理	倫理綱領
4	倫理的問題へのアプローチ	倫理の原則 事例検討
5		看護と「和」 事例検討
6		コンパッション 事例検討
7		個人情報 事例検討
8	終講試験	筆記試験

科目名	基本技術			担当教員		岡野全子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	12年間の外科・内科の診療科での看護実践を通して身につけた知識技術態度を講義する。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 専門分野に位置づける。看護を実践する上で土台となる技術を学ぶ。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 基本看護技術は、看護実践における看護技術の意義や概要を学ぶとともに、看護実践の基本となる技術について学習する。基本技術の項目として、「観察」「報告・記録」の原則と方法、バイタルサイン測定の方法、看護場面における対象の安全・安楽を守る技術についての知識と技術を学ぶ。									
1. 看護技術を学習する意義と学習方法を理解する。 2. 対象の安全安楽を守る意義と基本的な方法を理解する。 3. 対象の健康状態を把握するために必要な方法を理解する。 4. 基礎的な身体観察のための技術を習得する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント				
出席状況				-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。				
試験等	提出物				<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・バイタルサイン測定では、解剖生理の知識も必要となります。事前学習として指示された内容をしっかり学習して授業に臨むようにしましょう。				
	作文			-					
	随時試験								
	終講試験			100					
	平常の授業状況 ( )								
その他 ( )									
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト ・系統看護学講座専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1		看護実践における看護技術とは何か
2		1. 看護における安全と安楽
3		1. 安全確保の技術 ①
4		校内実習：手洗いと防護具の取り扱いの実際
5		1. 安全確保の技術 ②
6		1. 医療とコミュニケーション
7		1. 観察、記録、報告
8		1. 観察 ー看護的な視点からの観察ー
9		1. ヘルスアセスメントの意義と技術
10		1. バイタルサイン ①体温
11		1. バイタルサイン ②呼吸 ③脈拍
12		1. バイタルサイン ④血圧
13		1. バイタルサイン ④血圧
14		校内実習：バイタルサイン測定
15		校内実習：バイタルサイン測定

科目名	ヘルスアセスメント			担当教員	岡本・吉津		単位数	1		
対象学科	看護			学年	1		授業形態	講義・演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○	
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師の臨床経験等をふまえて授業を展開する。臨床医による演習も交え、実践に役立つ側面も重視する。							
<b>□位置付け</b>										
<p>専門分野、基礎看護学の科目として位置付ける。</p> <p>対象者の健康と生活に関する情報の意図的や収集や、正確な査定は、看護の質や方向性を決定する重要点である。そのために看護師は対象者とのコミュニケーション技術を修得する必要がある。また、対象者の身体的状況について判断できる系統的なフィジカルアセスメントの方法を修得する必要がある。</p>										
<b>□授業の目的</b>										
ヘルスアセスメントの基本的な知識・技術・態度について学ぶ。										
<b>□授業の到達目標</b>										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解する。</li> <li>2. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解する。</li> <li>3. 看護場面における基礎的な面接技術を習得する。</li> <li>4. 基本的なフィジカルイグザミネーションを実施でき、正常な身体状況を理解する。</li> </ol>										
<b>□成績評価の方法</b>										
評価項目			割合		<b>□成績評価に関するコメント</b>					
出席状況			-		・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。					
試験等	提出物		20		<b>□学生へのメッセージ</b> ・臨地実習、卒業後の看護実践に欠かせない授業内容です。修得し、看護へ大いに活かしましょう。					
	作文		-							
	随時試験		5							
	終講試験		75							
	平常の授業状況 ( )		-							
その他 ( )		-								
合計			100%							
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『系統看護学講座 基礎看護技術 I』医学書院</li> <li>・『はじめてのフィジカルアセスメント』メヂカルフレンド社</li> </ul>										

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	ヘルスアセスメントとは	ヘルスアセスメント、コミュニケーション
2	全体の概観	全体の概観(アセスメントの枠組み、バイタルサインズ、インタビュー)
3	系統的フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント(I P P A、頭頸部)
4	系統的フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント(呼吸器)
5	系統的フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント(循環器、腹部)
6	フィジカルアセスメントの実際	フィジカルアセスメントの演習
7	フィジカルアセスメントの実際	フィジカルアセスメントの演習
8	フィジカルアセスメントの実際	フィジカルアセスメントの演習
9	フィジカルアセスメントの実際	フィジカルアセスメントの演習
10	フィジカルアセスメントの実際	フィジカルアセスメントの演習
11	系統的フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント(筋/骨格/神経、乳房)
12	事例検討	事例検討(コミュニケーション)
13	事例検討	事例検討(呼吸器)
14	事例検討	事例検討(腹部)
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	生活を整える技術Ⅰ			担当教員	浅川真里		単位数	1	
対象学科	看護科			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として病院に勤務。臨床経験をもとに看護技術に必要な知識・技術が修得できるよう講義と実習を行う。						
<b>□位置付け</b>									
<p>専門分野 基礎看護学に位置づけ、各看護学及び地域・在宅看護論の基礎となる対象の生活の状態に応じた看護の基本を学ぶ。また、人間をどのようにとらえ、健康上の問題を分析するのかを学ぶとともに、看護を実践するための方法として基本となる技術を学ぶ。</p>									
<b>□授業の目的</b>									
<p>健康的な日常生活は持続されるべきだが、疾病や機能低下が生じると制限されるようになる。看護の対象を生活者として捉え、日常生活行動を制限された人に援助するためには、生活を支える援助技術の基本について理解し、技術を習得する必要がある。</p> <p>人間にとっての「環境」「清潔」「衣」の意義を理解し、安全で安楽な環境を整え、清潔を整えるための基本的な技術を習得する内容として設定した。</p>									
<b>□授業の到達目標</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康生活と環境の関連を理解する。</li> <li>2. 安全で快適な病床環境を整える技術を習得する。</li> <li>3. 健康生活と清潔の関連が理解でき、基本的な技術を習得する。</li> </ol>									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況					-	<b>□学生へのメッセージ</b> ・校内実習では互いに看護師役や患者役となり、正確な技術や看護師に必要とされる態度を学びます。講義での知識を活用して積極的に取り組んでください。			
試験等	提出物				10				
	作文				-				
	随時試験				-				
	終講試験				90				
	平常の授業状況 ( )				-				
その他 ( )				-					
合計					100%				
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ』有田清子他 医学書院					・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	環境とは	環境と健康の関係
2	環境調整における看護師の役割	病床環境を整える技術
3	環境の援助方法の実践	校内実習：環境整備
4	環境の援助方法の実践	校内実習：クローズドベッドの作成
5	環境の援助方法の実践	校内実習：臥床患者のシーツ交換
6	清潔とは	清潔の意義、清潔援助の効果・影響、対象理解と看護師の役割
7	清潔の援助方法	基本的な視点、援助方法の実際（入浴、シャワー浴、全身清拭）
8	清潔の援助方法	援助方法の実際（手・足浴、陰部洗浄、口腔ケア）
9	清潔の援助方法	援助方法の実際（洗髪）、衣・衣生活とは
10	清潔の援助方法の実践	校内実習：足浴
11	清潔の援助方法の実践	校内実習：全身清拭①
12	清潔の援助方法の実践	校内実習：全身清拭②
13	清潔の援助方法の実践	校内実習：寝衣交換
14	清潔の援助方法の実践	校内実習：洗髪
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	生活を整える技術Ⅱ			担当教員		渡邊明子		単位数	1
対象学科	看護科			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として病院に 10 年勤務。臨床経験をもとに看護技術に必要な知識・技術が修得できるよう講義と実習を行う。						
<b>□位置付け</b> 専門分野に位置づける。基礎看護学は、地域・在宅看護論及び各看護学の基礎となる対象の生活の状態に応じた看護の基本を学ぶ。また、人間をどのようにとらえ、健康上の問題を分析するのかを学ぶとともに、看護を実践するための方法として基本となる技術を学ぶ。									
<b>□授業の目的</b> 健康的な日常生活は持続されるべきだが、疾病や機能低下が生じると制限されるようになる。看護の対象を生活者として捉え、日常生活行動を制限された人に援助するためには、生活を支える援助技術の基本について理解し、技術を習得する必要がある。 人間にとっての「活動・休息」「食」「排泄」の意義を理解し、運動・休息・食・排泄を整えるための基本的な技術を習得する内容として設定した。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 健康生活と運動・休息の関連の理解と基本的な技術を修得する。 2. 健康生活と食の関連の理解と安全な援助技術を修得する。 3. 健康生活と排泄の関連の理解と基本的な技術を修得する。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。				
試験等	提出物			10	<b>□学生へのメッセージ</b> ・校内実習では互いに看護師役や患者役となり、正確な技術や看護師に必要とされる態度を学びます。講義での知識を活用して積極的に取り組んでください。				
	作文			-					
	随時試験			-					
	終講試験			90					
	平常の授業状況 ( )			-					
その他 ( )			-						
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ』有田清子他 医学書院					・				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	活動の意義	活動の基礎知識
2	活動を促す援助	ボディメカニクス
3	体位	ポジショニング、体位変換① (体験学習)
4	運動の援助方法	校内実習：体位変換②
5	運動の援助方法	校内実習：移動のための援助：車椅子、ストレッチャー
6	休息の意義	睡眠の生理、睡眠を促すための援助
7	食の意義	食の基礎知識
8	食のアセスメント	食を取り巻く職種、栄養としての食
9	食事介助の原則と方法	食事介助が必要な対象理解と援助
10	食事介助	校内実習：食事介助
11	排泄の意義	排泄の基礎知識
12	排泄における看護師の役割	排泄に必要な器具の理解
13	排泄機能障害時の看護	便秘と下痢それに伴う看護
14	床上排泄の援助	校内実習：便器介助、陰部洗浄
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	診療・処置に伴う技術			担当教員		浅川・瀬藤		単位数	1
対象学科	看護科			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	浅川：看護師として病院に勤務。臨床経験をもとに看護技術に必要な知識・技術が修得できるよう講義と実習を行う。瀬藤：看護師として国立療養所及び赤十字病院に20年間勤務。実務経験をもとに講義を行う。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 専門分野 基礎看護学に位置づける。各看護学及び地域・在宅看護論の基礎となる対象の健康状態の理解や生活の状態に応じた看護の基本を学ぶ。さらに看護師として倫理的な判断と実践につながる基礎的能力を養い、医療環境を整える基本的技術を学ぶ。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 診療を支える看護にとって、検査を安全かつ正確に実施または支援する技術や治療・処置に伴う援助技術を理解することは重要である。ここでは、治療・検査における看護技術の意義を理解し、基本的な技術を習得する。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 診断過程における診察の意義を理解し、診察時の援助方法を理解する 2. 検査を安全かつ正確に行うための援助方法を理解する 3. 健康障害を持つ人に対する治療法を理解し、基礎的な援助方法を理解する									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法 評価項目				割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント ・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。				
出席状況				-	<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・診療、処置を安全に行うためには基本的な解剖生理学の知識が重要になります。本講義の知識だけでなく既習の知識も復習して学習に臨みましょう。				
試験等	提出物			10					
	作文			-					
	随時試験								
	終講試験			90					
	平常の授業状況 ( )								
その他 ( )									
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト ・『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術II』有田清子他 医学書院					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ・				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	診療に伴う技術	診療に伴う看護師の役割、包帯法
2	呼吸障害に対する技術	酸素吸入について
3	呼吸障害に対する技術	校内実習：酸素吸入
4	呼吸障害に対する技術	吸入・吸引について
5	呼吸障害に対する技術	校内実習：吸入・吸引
6	呼吸障害に対する技術	校内実習：吸入・吸引
7	排泄障害に対する援助	導尿、浣腸について
8	排泄障害に対する援助	校内実習：浣腸
9	排泄障害に対する援助	校内実習：浣腸
10	排泄障害に対する援助	校内実習：導尿
11	排泄障害に対する援助	校内実習：導尿
12	検査時の看護	生体検査、検体検査
13	検査の方法	採血
14	検査の方法	校内実習：採血
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	看護過程展開の技術			担当教員		渡邊明子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	総合病院にて外科・内科看護師として10年勤務。看護実践に必要な看護展開の技術の基本や事例を用いての看護展開の方法の講義を行い、看護実践に適応できる能力を養うために講義を行う。						
<b>□位置付け</b> 専門分野 基礎看護学に位置づけ、各看護学の基礎となる対象の健康状態に応じた看護の基本を学ぶ科目である。看護過程の展開の技術においても看護師になったときの思考過程の基礎を学ぶ科目である。									
<b>□授業の目的</b> 看護過程は、看護師があらゆる看護現象を対象として看護を提供する際に用いる科学的思考過程である。この思考過程により看護師はケアの受け手のニーズおよび問題を的確に把握し、看護計画を立て、効率かつ効果的に看護を提供し評価することができる。 ここでは看護過程の技術の基本を学習し、看護実践に適応できる能力を養う。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 看護過程の概要を理解できる 2. 看護過程の基礎となる思考過程を理解できる 3. 臨床実習における看護過程の活用法が理解できる									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。提出物に関しても評価の対象とします。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・看護過程はこの講義の中だけで完結するのではなく、実習で出会った対象を通して学びを深めていくようになります。第一歩として看護過程の理解につながることを望んでいます。				
試験等	提出物			15%					
	作文			-					
	随時試験								
	終講試験			85%					
	平常の授業状況 ( )								
その他 ( )									
合計				100%					
<b>□テキスト</b> ・基礎看護技術 I					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・その都度、お伝えします。				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	看護過程とは	看護過程の各要素
2	アセスメントとは	収集の方法、主観的情報、客観的情報
3	アセスメントの枠組み	アセスメントの枠組みの理解
4	アセスメントの実践	事例に基づきアセスメント 個人ワーク
5	アセスメント	個人ワークの解説 全体像
6	全体像	全体像の書き方 グループワーク
7	関連図	関連図の作成 グループワーク
8	看護問題の明確化	看護問題とは
9	看護問題の優先順位	優先順位と計画の立て方
10	実施・評価	実施・評価の書き方
11	看護問題・計画作成の実践	事例に基づき個人ワーク
12	看護計画立案	事例に基づきグループワーク
13	看護計画	グループワーク発表
14	看護問題の評価・まとめ	評価記載
15	まとめ 筆記テスト	筆記試験

科目名	臨床看護総論			担当教員	佐々木元子		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として病院で16年勤務（手術室10年）健康水準に応じた看護、臨床判断について実務経験をもとに講義演習を行う。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 専門分野 基礎看護学に位置づける。臨床判断のプロセスを理解し、看護への活用のための基礎的能力を養う科目									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 臨床でよく遭遇する「症状」に焦点を当て、症状のメカニズム、生体反応の変化や特徴を健康水準の看護と連動させ、シミュレーションを通し知識を活用し、観察し情報収集するための基礎的な知識を学ぶ。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 健康水準とそれに応じた看護の基本を理解する。 機能障害から起こる症状とそれに応じた看護の基本を理解する。 既習の知識を統合し対象の状態に気づくことができる。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント ・授業時間の2/3以上出席しなければ終講試験は受験できません。					
出席状況			-	<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・「気づき」を大切にしたい科目になります。思ったことや考えたことを積極的に発信していきましょう。 ・必要な課題に事前に取り組み授業に臨みましょう。					
試験等	提物								
	レポート（普通救命講習）		10						
	随時試験								
	終講試験		60						
	平常の授業状況（ ）								
	その他（演習・グループワーク）		30						
合計			100%						
<input type="checkbox"/> テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院							<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ・		

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	健康水準と看護	概論 健康期 急性期
2	健康水準と看護	回復期 慢性期 終末期
3	健康水準と看護	普通救命講習
4	健康水準と看護	普通救命講習
5	生命維持機能障害と看護	「呼吸困難」
6	生命維持機能障害と看護	事例検討：グループワーク
7	生命維持機能障害と看護	事例検討：グループワーク
8	生命維持機能障害と看護	演習（シミュレーション）
9	生命維持機能障害と看護	演習（シミュレーション）
10	栄養代謝障害と看護	「浮腫」
11	栄養代謝障害と看護	事例検討：グループワーク
12	栄養代謝障害と看護	事例検討：グループワーク
13	栄養代謝障害と看護	演習（シミュレーション）
14	栄養代謝障害と看護	演習（シミュレーション）
15	終講試験	・筆記試験

科目名	地域・在宅看護概論			担当教員	村田亜紀子		単位数	1																																																			
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○																																																		
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○																																																		
実務経験 教員	○	実務経験 内容	外科病棟4年、訪問看護9年の経験より、地域で生活する対象者・家族の実例を基に講義を行う。																																																								
<b>□位置付け</b> 専門分野、基礎看護学の次に位置づける。看護は病院などの施設だけではなく地域に暮らす人々を対象とすることを学ぶ科目である。本授業では地域・在宅看護論の始めとして人々が住み慣れた地域で暮らす事について考えられるように設定した。																																																											
<b>□授業の目的</b> 加速する高齢化社会において健康障害を持つ人々の療養の在り方が在宅と変化し看護の対象は地域・在宅であること、住み慣れた地域で暮らす意味と看護の在り方を学習する目的とする。																																																											
<b>□授業の到達目標</b> 1. 地域・在宅看護の目的を理解できる。 2. 住み慣れた地域で暮らす意味を理解できる。 3. 健康な暮らしを支える看護の役割を理解できる。																																																											
<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>□成績評価の方法</b></td> <td>評価項目</td> <td>割合</td> <td colspan="6"><b>□成績評価に関するコメント</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">出席状況</td> <td></td> <td></td> <td colspan="6" rowspan="6">           ・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。   <b>□学生へのメッセージ</b>            ・         </td> </tr> <tr> <td rowspan="5">試験等</td> <td>提出物</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>作文</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>随時試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>終講試験</td> <td></td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>平常の授業状況 ( )</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他 ( )</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td></td> <td>100%</td> <td colspan="6"></td> </tr> </table>										<b>□成績評価の方法</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>						出席状況				・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・						試験等	提出物			作文			随時試験			終講試験		100	平常の授業状況 ( )				その他 ( )			合計			100%						
<b>□成績評価の方法</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>																																																							
出席状況				・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・																																																							
試験等	提出物																																																										
	作文																																																										
	随時試験																																																										
	終講試験		100																																																								
	平常の授業状況 ( )																																																										
	その他 ( )																																																										
合計			100%																																																								
<b>□テキスト</b> ・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① ・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論②					<b>□参考資料</b>																																																						

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	地域・在宅看護とは	地域・在宅看護の必要性・在宅看護の目的と役割
2	暮らすということ	ライフサイクルと暮らしの変化
3	支えあって生きるとは	家族の支え・こどもの支え・近所の支え コミュニティー
4	地域包括ケアシステムとは	自助・共助・互助・公助
5	暮らしを支える	Aさんの暮らしを支える 演習
6	暮らしを支える	Aさんの暮らしを支える 演習
7	人々の暮らしを支えるとは	暮らしが健康に与える影響 看護の役割
8	終講試験	筆記試験

科目名	地域・在宅療養を支える看護			担当教員	村田亜紀子		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	外科病棟4年、訪問看護9年の経験より、地域で生活する対象者・家族の実例を基に講義を行う。						
<b>□位置付け</b>									
専門分野に位置づけ地域・在宅看護概論の次に学ぶ科目である。地域で療養を支援するための社会資源や看護について学ぶ科目として設定した。									
<b>□授業の目的</b>									
地域で生活する療養者とその家族を理解し人々の暮らしを支えるための社会資源と看護の在り方を学ぶ。									
<b>□授業の到達目標</b>									
1. 地域・在宅看護の対象の特性を理解できる。 2. 在宅療養における家族の特徴と看護を理解できる。 3. 地域での暮らしを支える社会資源を理解できる。 4. 在宅看護の機能と役割について理解できる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・				
試験等	提出物								
	作文			-					
	随時試験								
	終講試験			100					
	平常の授業状況 ( )								
その他 ( )									
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① ・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論②					・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	地域・在宅看護の対象	地域・在宅における生活者と看護のつながり
2	地域・在宅看護の対象者	法制度 ライフサイクル 健康レベル
3	地域・在宅看護の対象者	疾患 障害レベル
4	地域・在宅看護の対象者	対象者の暮らし (特養・グループホームなど・・・)
5	地域・在宅療養の成立	療養条件 経済 自己決定
6	地域・在宅療養の成立	社会資源の活用と制度
7	療養を支える支援	インフォーマルとフォーマルな支援
8	療養を支える家族支援	療養を支える家族の現状
9	療養を支える家族支援	家族へのかかわり
10	療養を支える家族支援	地域療養を考える 事例検討
11	療養を支える家族支援	地域療養を考える 事例検討
12	療養を支える家族支援	地域療養を考える 事例検討
13	地域・在宅看護の機能と役割	チームアプローチ
14	地域・在宅看護の機能と役割	多職種連携
15	終講試験	筆記試験

科目名	成人看護学概論			担当教員	山田雅子		単位数	1	
対象学科	看護科			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として臨床で10年間勤務。臨床での実務経験に公衆衛生的視点を加え、成人看護に有用な理論と予防的・教育的看護を講義する。						
<b>□位置付け</b> 専門分野に位置づける。成人看護学の基本を学習する科目									
<b>□授業の目的</b> 成人期は幅広く、社会の中でも重要な役割を担っている人々である。成人期にある人の特徴から健康問題をとらえ、その原因を生活の視点から考える。 また成人の健康課題のとらえ方成人看護に有用な理論について学ぶ。我が国の成人の保健問題の動向と保健対策を学ぶ。									
<b>□授業の到達目標</b> 成人期の特徴を理解する。 成人各期の特徴を理解する。 成人の健康問題を理解する。 成人保健を理解する。 成人期にある人の健康増進・疾病予防のための看護を理解する。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・成人期にある人は社会の中心であり身体的・精神的・社会的に人生のピークを迎え、維持し、徐々に老年期に向け衰退を迎えていきます。長い成人期にある人が健やかに生活するための看護を学びます。				
試験等	提出物		10						
	作文		-						
	随時試験								
	終講試験		90						
	平常の授業状況 ( )								
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・成人看護学概論 ノーヴェルヒロカワ ・国民衛星の動向 厚生労働統計協会					・				

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	成人看護学の概念	成人看護の目的
2		成人看護の対象
3		成人看護の方法
4	成人各期の発達段階と特徴	成人期の発達段階と特徴
5		成人期の発達段階と特徴
6		成人のヘルスプロモーション
7		成人のヘルスプロモーション
8		成人各期の健康障害の特徴
9	成人期の看護に有用な理論	ストレス理論
10		セルフケア理論
11		危機理論
12	保健医療福祉の現状と課題	保健医療福祉における動向と対策
13		保健医療福祉における動向と対策
14		グループワーク・討議・まとめ
15	まとめ・終講試験	記述式試験

科目名	老年看護学概論			担当教員	岡本隆行		単位数	1		
対象学科	看護			学年	1		授業形態	講義・演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○	
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として5年以上勤務した臨床経験等に基づき、高齢者の特徴や高齢者を取巻く社会環境等について概説する。							
<b>□位置付け</b> 専門分野、老年看護学の科目として位置づける。高齢化の進んだ我が国では、看護対象の多くを高齢者が占め、看護へのニーズは高い。他方、学生は自身での老いの経験が乏しく、老年看護を学ぶ難しさがある。更なる老年看護の専門的科目へつながる土台の科目として位置づけ、老年期を生きる人の特徴とその生活、加齢に伴う変化、高齢者を取り巻く家族や社会システム、健康の段階に応じた看護の場と機能等を学び、高齢者の看護へ関心と理解を持てる内容を設定する。										
<b>□授業の目的</b> 高齢者の特徴、多様化する社会システム、看護を学び、高齢者の看護について関心と理解を深める。										
<b>□授業の到達目標</b> 1. 老年看護学の主な概念を理解する。 2. 高齢者を取り巻く社会と主な社会保障を理解する。 3. 加齢に伴う変化や主な病気を理解する。 4. 療養生活とヘルスプロモーションを理解する。 5. 高齢者のリスクマネジメントを理解する。										
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>					
出席状況				-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・特に現役生は、高齢者と関わりが殆ど無い人も増えつつあります。そういった今の学生背景もふまえて、高齢者への看護について気づき、学べるように授業を計画します。更なる老年看護の専門的な科目へつながる土台を当科目で築きましょう。					
試験等	提出物			50						
	作文			-						
	随時試験			-						
	終講試験			50						
	平常の授業状況 ( )			-						
その他 ( )			-							
合計				100%						
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>					
・『系統看護学講座 老年看護学』医学書院 ・『国民衛生の動向』厚生労働統計協会					・『置かれた場所で咲きなさい』 渡辺和子 幻冬舎 ・『九十歳。何がめでたい』 佐藤愛子 小学館 ・『認知症の語り』 <a href="http://www.dipex-j.org/dementia/">www.dipex-j.org/dementia/</a>					

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	老いる、老いを生きる	加齢に伴う諸変化、老年期の発達課題
2	超高齢社会と社会保障	統計、保健医療福祉の動向、権利擁護
3		
4		
4	老年看護のなりたち	老年看護の発展、特徴的な理論・概念
5	加齢変化や病気とアセスメント 生活機能を整える看護	加齢変化や病気とアセスメント
6		○外皮系 ○感覚器系 ○循環器系 ○呼吸器系
7		○消化器系 ○内分泌系 ○泌尿器系 ○運動器系
8		○脳神経系 ○認知機能 ○全身症状 ○治療と看護 他
9		生活機能を整える看護 ○日常生活 ○コミュニケーション
10	療養生活とヘルスプロモーション	検査、治療、予防、施設サービス
11	高齢者のリスクマネジメント	医療安全、脆弱性
12	高齢者の理解	トピックに応じたグループワーク
13		
14		
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	高齢者の生活と社会			担当教員		音山若穂		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<b>□位置付け</b> 専門分野、老年看護学の1科目として位置づけ、特に心理的側面を中心に扱う。 最新の高齢社会白書などをもとに、少子高齢社会の傾向や高齢者の生活実態を学ぶ。また、高齢者の家族関係や地域社会との関係、対人関係の基本的スキルを学ぶ。対話形式の演習を通して、高齢者やその家族について理解を深める内容を設定する。									
<b>□授業の目的</b> 高齢者やその家族への理解を深めること、将来、高齢者のこころの理解の助けになることを目的とする。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 社会の中で高齢者が生きる事を理解する。 2. 高齢者の生活と家族・社会の支援について理解する。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・試験は、基本的知識を問う問題 10 問程度、論述 1～2 問の予定です。				
試験等	提出物			-					
	作文			-					
	随時試験			-					
	終講試験			100					
	平常の授業状況 ( )			-					
その他 ( )			-						
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・『系統看護学講座 老年看護学』医学書院					・高齢社会白書(高齢社会対策)、子ども・子育て白書(少子化対策)の最新資料参考 →内閣府ホームページ。概要の一部は授業時に配布する。 ・文献は講義中に適宜紹介する。				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	高齢社会の理解Ⅰ	老いを生きる、高齢社会の統計的輪郭、少子高齢化の実態
2	高齢社会の理解Ⅱ	団塊の世代の意識
3	高齢社会の理解Ⅲ	高齢者世帯と生活、健康状況、就業実態
4	未来の社会生活を予測してみる	グループワーク
5	高齢社会対策Ⅰ	エイジレス・ライフ、地域資源と社会参加
6	高齢社会対策Ⅱ	介護家族とその支援
7	高齢者、地域の絆づくりのための対話	グループワーク
8	終講試験	筆記試験

科目名	小児看護学概論			担当教員	保井 理子		単位数	1	
対象学科	看護科			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	小児病棟・NICU（5年）・特別支援学校の医療的ケア（2年）の看護から子どもと家族への看護実践能力と技術を教授する。						
<b>□位置付け</b> 専門分野で小児看護学の基盤として位置づける。現在の子どもと家族の概況や倫理的視点から小児看護の役割と課題を学ぶために設定している									
<b>□授業の目的</b> 子どもの成長・発達および子どもを取り巻く環境・保健・福祉・法律、小児看護の概念について学ぶ									
<b>□授業の到達目標</b> 子ども（乳児期から青年前期）の成長・発達の特徴を理解する 子どもを支える保健・福祉・法律を習得する 小児看護の目標と看護師の役割を理解する									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況					-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終了認定試験は受験できません。 ・成績評価は、レポート、修了認定試験とする。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・健康な子どもを理解できるように、さまざまな視点から資料や視聴覚教材を用いて講義をします。			
試験等	提出物				-				
	レポート				20				
	随時試験				-				
	修了認定試験				80				
	平常の授業状況（ ）				-				
その他（ ）				-					
合計					100%				
<b>□テキスト</b> ・小児の発達と看護 小児看護学①（メディカ出版）					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・小児看護学子どもと家族の示す行動への判断とケア（日総研）				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	小児看護の特徴	・子どもについて・小児看護の特徴・子どもの看護活動
2	子どもの人権と看護①	・子どもの医療、看護、権利の変遷 ・小児看護と倫理的配慮
3	子どもの成長・発達と看護①	・新生児期から乳児期の成長・発達と看護①
4	子どもの成長・発達と看護②	・新生児期から乳児期の成長・発達と看護②
5	子どもの成長・発達と看護③	・幼児期の成長・発達と看護
6	子どもの成長・発達と看護④	・学童期から青年前期（思春期）の成長・発達と看護
7	子どもの栄養	・乳児期から青年前期の栄養と看護
8	子どもの遊び	・遊びの意義、種類、発達、環境と安全と看護
9	子どもの健康と安全①	・統計から見た子どもの健康・子どもの事故と安全と看護
10	子どもの健康と安全②	・子どもの虐待と看護
11	子どもの健康と安全③	・災害を受けた子どもと家族の看護
12	子どもをめぐる法律と保健対策①	・児童福祉・母子保健と子育て支援・医療費の支援
13	子どもをめぐる法律と保健対策②	・予防接種・学校保健施策
14	子どもをめぐる法律と保健対策③	・難病、障害児保健福祉・子どもの臓器移植
15	総括・修了試験	まとめ・筆記試験

科目名	母性看護学概論			担当教員		前田律子		単位数	1
対象学科	看護科			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師、助産師として総合病院に10年間勤務。その後、母性看護学の臨地実習に従事。実例・経験をもとに講義を行う。						
<b>□位置付け</b> 専門分野に位置づける。母性看護学全体の導入的位置づけであり、生涯を通じての性と生殖に関する健康という大きな概念で捉えた科目。									
<b>□授業の目的</b> 現代社会において母子をめぐる生活環境は著しく変化し、母性看護の役割はますます拡大されている。生涯を通じての性と生殖に関する健康を守るという観点から母性看護の対象、役割を理解し「命」に対する畏敬の念、慈しむ心を育てていく。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 母性看護の主な概念について理解する 2. 母性看護における倫理について理解する 3. 母性看護の動向と法、施策について理解する 4. 母性看護の対象を理解する 5. ライフサイクル各期にある人の特徴と看護について理解する									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・知識として身につける内容と自己の感性に気づき育てていくべき内容が含まれます。常に自己の考えを問いながら学んで下さい。				
試験等	提出物		5						
	作文		-						
	随時試験								
	終講試験		90						
	平常の授業状況 ( )								
その他 ( GW 参加状況 )				5					
合計				100%					
<b>□テキスト</b> ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 森 恵美他 医学書院					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・				

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	母性看護の主な概念	母性とは、父性とは
2	母性看護の主な概念	愛着行動（アタッチメント）と相互作用
3	母性看護の主な概念	セクシュアリティ
4	母性看護の主な概念	リプロダクティブヘルス／ライツ
5	母性看護と倫理	母性の権利と擁護
6	母性看護と倫理	母性看護における生命倫理諸問題
7	母性看護の動向と法、施策	歴史的変遷、近代社会と母性看護
8	母性看護の動向と法、施策	母子保健統計からみた動向
9	母性看護の動向と法、施策	母性を保護する法律
10	母性看護の動向と法、施策	子育て支援、対象をとり巻く環境
11	母性看護の対象	形態、機能の変化
12	母性看護の対象	女性、家族のライフサイクル
13	ライフサイクル各期の特徴と看護	思春期・更年期の変化と健康問題
14	ライフサイクル各期の特徴と看護	成熟期の健康問題・まとめ
15	総括・試験	筆記試験

科目名	精神看護学概論			担当教員	岡野・渡辺		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	渡辺：精神科病院において精神看護専門看護師として勤務。その経験を踏まえ、実際の病院臨床の現状や事例を活用した講義を行う。						
<b>□位置付け</b> 専門分野に位置づける。精神看護学の基礎となる考え方、概念を修得する科目									
<b>□授業の目的</b> 人間の健康な心の発達とそれに影響を与える要因を理解し、現代社会における精神的健康の保持・増進への援助に必要な知識を学習する。精神とストレス、危機について学習し、健康に及ぼす影響と介入の方法について学習する。精神に健康障害をもつ人がたどってきた歴史を概観し、現代の社会が担う課題に気づき、看護師の役割について理解を深める。									
<b>□授業の到達目標</b> 健康なこころの考え方、人間の心理社会的な成長について理解する。精神看護学に必要な諸概念がわかる。また、精神医療の歴史の中で精神障害者がどのように受け止められてきたのか理解し、精神障害者をまもるための法・制度について理解する。									
<b>□成績評価の方法</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>					
出席状況			-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。					
試験等	提出物			<b>□学生へのメッセージ</b> ・私たちはどのようにこころのコントロールをし、環境と調和をとりながら過ごしているのか学んでほしいと思います。自分の生活で体験していることと重ね合わせながら学びましょう。					
	レポート		10						
	随時試験								
	終講試験		90						
	平常の授業状況 ( )								
	その他 ( )								
合計			100%						
<b>□テキスト</b> ・新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社				<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>					

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	精神看護学の理解	精神看護と精神科看護、精神的健康についての考え方
2	こころの健康と精神障害	精神障害のとらえ方、人間の心のはたらき (S.フロイト)
3	精神の発達と健康	映画「奇跡の人」
4	精神の発達と健康	映画「奇跡の人」
5	精神の発達と健康	ライフサイクルと発達課題 (エリク・H・エリクソン)
6	社会とメンタルヘルス	現代社会における精神保健における主な問題:演習
7	社会とメンタルヘルス	現代社会における精神保健における主な問題:演習
8	精神の危機状況と精神保健	ストレスとコーピング
9	精神の危機状況と精神保健	危機理論 (アギュララ)
10	家族と精神の健康	家族のライフサイクル、家族システムの考え方
11	精神保健医療福祉の歴史と現在	精神医療の歴史
12	精神保健医療福祉の歴史と現在	精神障害をもつ人を守る法・制度
13	対人関係論	ペプロウ看護論
14	対人関係論	感情労働とプロセスレコード
15	総括 終講試験	筆記試験

科目名	キャリアデザインⅠ			担当教員	佐々木・村田		単位数	1	
対象学科	看護科			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<b>□位置付け</b> 専門分野 看護の統合と実践に位置づける。1年次に設定し入学の目的を明らかにし、自己の目標を定める事を目的として設置した。あこがれの職業から専門職業人を目指す事の意味を自覚し学修に臨むことができるように規律・時間管理を始めとする社会人としてのマナーを身につける。									
<b>□授業の目的</b> 看護科の学生として自己の目標を確認し専門学校における「学び方」について学ぶ事を目的とする。専門学校の教育は、暗記中心ではなく積み上げ学習により、主体的に学ぶ事の大切さを認識する事。他学年との交流を通し目標を具現化しながら主体性をもった学び方の習得を目的とする。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 何故専門職業人を目指すのか文章化できる。 2. 自己学習の重要性が理解できる。 3. 規律・時間管理に基づく行動ができる。									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況					-	・授業時間の 2/3 以上出席しなければ評価を受ける事はできません。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・この科目は看護師を目指すためにどのような学びが重要なのか自分で習得することが大切です。自分の学習内容を皆に情報発信し他者に伝える方法について学びを深めていきましょう。			
試験等	提出物				30				
	作文				-				
	随時試験								
	終講試験								
	平常の授業状況 ( )				50				
その他 ( )				20					
合計					100%				
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・					・				

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	専門職業人とは ポートフォリオについて
2	効率的学習 (学年交流)	自己学習の方法 「先輩の学び方を知ろう」 意見交換
3	効率的学習	グループ学習 テーマを決め学習と発表
4	学年交流	行事参加などを通して 企画・計画・調整・発信・振り返り
5	自分になりたい看護師とは	基礎看護学実習における振り返りと共有 レポート
6	効果的学習	国家試験対策について
7	学力測定	自分の力を評価する
8	社会人とは	専門職業人を考える プレゼンテーション

科目名	基礎看護学実習 I			担当教員		渡邊明子		単位数	1																			
対象学科	看護			学年	1	授業形態	実習	法令等指定	○																			
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○																			
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として5年以上勤務。経験をもとに、基礎看護学を基盤とし対象の状態に応じた看護が実践できるように支援する。																									
<input type="checkbox"/> <b>位置付け</b> 専門分野 臨地実習に位置づける。初回の病院実習である。看護の対象である人間を捉え、講義や校内実習で学んだ基礎知識や、看護技術を統合して初めて対象に援助を実施することにより対象の理解と技術の習得を目指す。																												
<input type="checkbox"/> <b>授業の目的</b> 入院による生活への影響を捉えた上で対象を理解する																												
<input type="checkbox"/> <b>授業の到達目標</b> 1. 対象の入院に対しての思い、基本的ニーズを考えることができる。 1) 基本的ニーズの視点に沿って情報収集をする。 2) 対象の入院による環境の変化について、患者の思いを知り考えることができる。 3) 入院による生活への影響を考えることができる。 2. 病院における看護活動の場と看護活動の概要を知ることができる。 3. 既習の知識・技術を用いて対象に必要な援助を実施する。 1) 原則に基づいて対象への援助ができる。 2) 対象の反応を捉え、実施した援助を振り返ることができる 4. 相手の立場に立ち、コミュニケーションをとろうとする 1) 対象の言動の意味を考えることができる 2) 対象の苦痛・悲しみ・喜びなどを受け止めることができる 5. 専門職業人としての態度がわかる 1) 看護学生として自覚と責任を持った行動がとれる 2) 自己の行動の振り返りができる 3) 自己の課題が見いだせる																												
<input type="checkbox"/> <b>成績評価の方法</b> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top;"> <tr> <td>評価項目</td> <td>割合</td> </tr> <tr> <td>出席状況</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">試験等</td> <td>提出物</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>随時試験</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>終講試験</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>平常の授業状況(実習態度)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>その他(実践)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> </tr> </table>										評価項目	割合	出席状況	○	試験等	提出物	○	レポート	○	随時試験	-	終講試験	-	平常の授業状況(実習態度)	○	その他(実践)	○	合計	100%
評価項目	割合																											
出席状況	○																											
試験等	提出物	○																										
	レポート	○																										
	随時試験	-																										
	終講試験	-																										
	平常の授業状況(実習態度)	○																										
その他(実践)	○																											
合計	100%																											
<input type="checkbox"/> <b>成績評価に関するコメント</b> 実習時間の4/5以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終実習レポート提出が決められた時間に提出できない場合は減点となります。 実習目標に沿い○の項目を総合的に評価します。																												
<input type="checkbox"/> <b>学生へのメッセージ</b> 看護学生になって2度目の実習になります。療養環境をや対象の思いについて、新鮮な気持ちで感じることや考えることが、学びの第一歩になることを期待しています。																												
<input type="checkbox"/> <b>テキスト</b> 基礎看護学実習 I・II他					<input type="checkbox"/> <b>参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・1年生前期の講義資料																							

**授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	基礎看護学実習 I	実習オリエンテーション、技術練習
2		病棟オリエンテーション、療養環境の見学、コミュニケーション
3		受け持ち患者担当の看護師に同行し看護実践の見学
4		環境整備、情報収集、ケアの見学・実施
5		環境整備、情報収集、ケアの見学・実施
6	▼	合同カンファレンス、まとめ

科目名	基礎看護学実習Ⅱ			担当教員	渡邊明子		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として5年以上勤務。経験をもとに、基礎看護学を基盤とし対象の状態に応じた看護が実践できるように支援する。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 看護の対象である人間を捉え、講義や校内実習で学んだ基礎知識や、看護技術を統合して初めて対象に援助を実施することにより対象の理解と技術の習得を目指す。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 生活上の基本的ニーズの充足にむけて日常生活援助を安全・安楽に実施する。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 対象の状態に応じた基本的ニーズを把握できる。 1) アセスメントの枠組みにそって情報収集する。 2) 集めた情報をアセスメントする。 3) 対象の状態が日常生活に及ぼす影響を把握することができる。 2. 対象の状態に応じた日常生活援助が実施できる。 1) 対象の安全・安楽・自立を考えて実施できる。 2) 対象の反応をとらえることができる。 3) 実施した内容を報告・記録ができる。 4) 実施した援助を振り返ることができる。 3. 対象との良好な人間関係を築くことができる。 1) 対象の言動を受け止め、その意味を考えることができる。 2) 対象の苦痛・悲しみ・喜びなどを受け止めることができる。 3) 自分の考えを伝えることができる。 4. 専門職業人としての態度がわかる。 1) 対象の価値観について考えることができる。 2) 看護学生として、自覚と責任を持った行動がとれる。 3) 自己の振り返りができる 4) 実習の学びから課題を見出し、継続した学習につなげることができる。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント				
出席状況					実習時間の 4/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終提出物が決められた時間に提出できない場合も、評価を受けられません。  <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ 講義や校内実習で学んだことを活かし、対象にとって安全・安楽な看護とは何か一緒に考えていきましょう。				
試験等	提出物								
	レポート								
	随時試験		-						
	終講試験		-						
	平常の授業状況（実習態度）		20						
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ他					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ ・1年生前期の講義資料				

授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	基礎看護学実習Ⅱ	実習オリエンテーション、技術練習
2		病棟オリエンテーション、情報収集、援助の見学
3		病棟の看護計画に沿った援助の見学、情報収集
4		病棟の看護計画に沿った援助の見学・実施、情報収集
5		情報整理
6		計画した看護の実施
7		計画した看護の実施
8		合同カンファレンス

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ			担当教員	村田 亜紀子		単位数	1	
対象学科	看護			学年	1	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	外科病棟4年、訪問看護9年の経験より、地域で生活する対象者・家族の実例を基に講義を行う。						
<b>□位置付け</b> 専門分野・臨地実習 地域・在宅看護論実習に位置づける。看護を学ぶ初学の段階において看護の対象は「地域に暮らす人々」を意識づけるために設定している。									
<b>□授業の目的</b> 看護の対象である地域で暮らす人々を知り支援活動の実際を知るための実習である。学校近隣の地域を知り、人々の暮らしを支える看護の役割を学習する。									
<b>□授業の到達目標</b> 1) 地域包括支援センターの特徴を理解できる。 2) 地域の高齢者の暮らしがわかる。 3) 暮らしを支える看護の役割を知る。									
<b>□成績評価の方法</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>					
出席状況			○	実習時間の4/5以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終実習レポート提出が決められた時間に提出できない場合は減点となります。 実習目標に沿い○の項目を総合的に評価します。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・学生になって初めての実習になります。今まで知らなかった、地域に暮らす人々を看護の対象者として考える機会としましょう。地域や施設を利用者の方々には礼節をわきまえて行動しましょう。					
試験等	提出物		○						
	レポート		○						
	随時試験								
	終講試験								
	平常の授業状況(態度)		○						
		その他(実践)		○					
合計			100%						
<b>□テキスト</b> ・				<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> ・					

**□授業計画**

日数	テーマ	授業の内容、進め方
1	実習準備	地域の特徴・施設の目的・設置目的の背景 事業内容とその意味
2	施設実習	豊島区地域包括支援センターで実習
3	施設実習	豊島区地域包括支援センターで実習
4	学内実習	まとめ
5	学内実習	各施設ごとに学習発表会

看護科 2・3年生

## 教育課程について

### 1. 看護の基本概念

本校の看護についての考え方は、看護の対象である【人間】、その人間を取り巻く【環境】、人間と環境との相互作用が影響する【健康】、そして働きかけとしての【看護】の4つを基本的な概念とする。また、看護を専門的知識と技術をもって行なう「看護専門職」についても次のように考える。

#### 【人間】

- 1) 人間は生物体、生活体の統一体である。  
生物体とは、人間としての発達や生活過程の共通性をあらわす。  
生活体とは、その人らしい特殊性・個別性をあらわす。
- 2) 人間はいのちの誕生から自ら取り巻く環境との相互作用の中で生活し、常に成長、発達を続けている。
- 3) 成長、発達過程においては、様々な危機課題に対処し、環境に適応しながらいのちを営む個別的な存在である。
- 4) 人間は自らの責任において意思決定し、自己実現を目指している。
- 5) 人間は生命が尽きても人間関係の中で社会的存在として生き続ける。

#### 【環境】

- 1) 環境は内部環境(固体)、外部環境(自然、社会、文化的環境)の総体である。
- 2) 環境は人間と人間を取り巻く全てであり、相互作用の中で人間の健康に影響している。
- 3) 現在の自然環境は、環境破壊、環境汚染、地球の温暖化等多くの問題を有している。
- 4) 社会環境も同様に、少子高齢化、国際化、情報化、核家族化、ライフスタイルの変化、心の問題の複雑化等の問題を有している。

#### 【健康】

- 1) 健康は単に病気ではないという状態ではなく、身体的、精神的、社会的に調和がとれた状態である。
- 2) 健康状態は、固体要因と自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用において成り立つ。
- 3) 健康から健康障害、死という連続的な段階は流動的であり、健康は自己管理(セルフケア)の元に維持される。
- 4) 健康は人間の基本的権利であって、個人特有のものであり、人それぞれが自ら創るものである。

## 【看護】

- 1) 看護はあらゆる発達段階、健康段階における生活者である個人、家族、集団を対象とする。
- 2) 看護は対象となる人と、看護者との人間関係を基盤として行う。
- 3) 看護は生命力の消耗を最小にするように生活過程を整えることである。
- 4) 看護は健康の保持、増進、疾病予防、健康の回復、苦痛緩和、その人らしく死を全うする過程での援助である。
- 5) 看護は専門職としての独自の機能を有し、保健医療福祉チームとの協働に際しては、調整的役割をもつ。
- 6) 人間の生命、尊厳、権利の尊重は看護実践者にとって社会的責務であり、高い倫理観と、高度な知識・技術を必要とする。

## 2. 看護専門職

- 1) 看護師は、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくはじょく婦に対する療養上の世話または診療の補助を行なう。（保健師助産師看護師法第5条）
- 2) 専門職の条件として、専門分野の体系的知識、公共の利益への貢献、自律的实践、独自の倫理綱領をもつことが挙げられる。
- 3) 看護専門職に求められるものは、専門性、自律性、倫理性、判断力、実践力である。自律した看護職は、①倫理的な行動がとれる ②的確な判断ができる ③行なった判断や行動を説明できる ④他の職種の意見や助言を受け止め、看護者の仕事に生かせる ⑤必要な主張ができる といった実践力を持つ。
- 4) 看護師は療養生活支援の専門家として、専門的な知識と技術と人間への深い洞察力を持って、より安全で質の高いかつ効率的な看護を提供する役割を持つ。

## 各分野の考え方

### 【基礎分野】

人間とは何かその人間の生活、幅広いものの見方考え方を学ぶ分野として位置づけ、各分野の基礎となり人として成長する礎となる分野である。

### 【専門基礎分野】

基礎分野で考え捉えた人間の健康、疾病、障害という観点から知識を獲得し、臨床で活用可能なものとするために専門分野とのつながりを意識して学んでいく。

### 【専門分野Ⅰ】

各看護学及び在宅看護論の基盤となる。

専門分野Ⅱに共通する基礎的知識、技術を学ぶ。

健康障害を持つ対象の理解、健康障害を捉える看護の視点を学び、その上でアセスメントと看護の方法を理解していく。

### 【専門分野Ⅱ】

専門分野Ⅰから発展してそれぞれの対象の特性を踏まえ、その対象に応じた看護の方法を学ぶ。

### 【統合分野】

在宅看護論は専門分野Ⅰ、Ⅱで学習した既習の知識、技術を統合し在宅という「場」に応用する。そのため専門分野の上部に位置づける。

看護の統合と実践については専門分野のみならず、基礎、専門基礎分野をも統合しチーム医療及び他職種との協働の中で看護を実践できる力を養う。

科目設定理由

**【基礎分野】**

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の基礎として位置づけ幅広いものの見方、考え方、そして看護職に必要な人間の理解につながる分野として 13 単位 360 時間で以下の科目を設定した。人間を理解するに当たり人間を取り巻く社会、心理、教育的観点など学ぶ必要性が高い点から「社会学」「心理学」「教育学」を設定した。看護は人と人との関わり合いの中で成り立っていくことから、人間関係成立の基盤としての「コミュニケーション論」を設定した。さらに、看護を思考するにおいて科学的、論理的思考が重要であるために「論理学」「情報科学」、国際社会に対応した「英語」「英会話」、看護職自ら健康を維持・増進するための活動やレクリエーション、パフォーマンス力向上（聴く力、伝える力）めざしての「体育」「野外活動」を設定した。

更に、人間生活と環境、社会との関連性を学び専門基礎分野へとつなげて行く為に「環境生態学」「家族社会学」を設定した。

構成および計画

<基礎分野> 13 単位

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
科学的思考 の基盤	論理学	1	30	1(30)		
	情報科学	1	30	1(30)		
人間と生活・社会	文学	1	30	1(30)		
	心理学	1	30	1(30)		
	コミュニケーション論	1	15	1(15)		
	環境生態学	1	30	1(30)		
	保健体育	1	30	1(30)		
	野外活動	1	15	1(15)		
	教育学	1	30	1(30)		
	英語	1	30	1(30)		
	英会話	1	30		1(30)	
	家族社会学	1	30	1(30)		
社会学	1	30		1(30)		

## 【専門基礎分野】

専門基礎分野は看護学を学ぶうえで基本となる「人間の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の3つの教育内容から構成されている。

人体を系統立てて理解し、健康・疾病に関する観察力、判断力を強化できるよう「解剖生理学」「生化学」「栄養学」を含んだ科目設定とした。

疾病の成り立ちと回復の促進については、人体の構造と機能が傷害された原因や誘因を学び、治療や回復過程を理解するための基礎的知識として「疾病と治療（循環・呼吸・血液）（消化・代謝）（運動・脳神経）（腎・泌尿・免疫）（感覚器）」の5単位120時間、「病理学」「臨床薬理学」「微生物学」を各1単位30時間で構成した。

健康支援と社会保障制度については、人間を生活者としてとらえ、その人にとって意味のある支援が提供できるよう、保健医療福祉に関わる基礎的知識として「公衆衛生学」「生命倫理」

「社会福祉」そして生活者としての衣・食・住を学ぶ「生活科学」を設定した。尚、生命倫理は学生の問題意識が高まるであろう3年次に置いた。以上17科目で510時間とした。

構成および計画

<専門基礎分野> 21 単位

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ（概論）	1	15	1(15)		
	解剖生理学Ⅱ（生命維持機能1）	1	30	1(30)		
	解剖生理学Ⅲ（生命維持機能2）	1	30	1(30)		
	解剖生理学Ⅳ（生命を活用する機能）	1	30	1(30)		
	解剖生理学Ⅴ（体の保護と種の保存機能）	1	15	1(15)		
	生化学	1	30	1(30)		
	栄養学	1	30	1(30)		
疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30	1(30)		
	疾病と治療（循環・呼吸・血液）	1	30	1(30)		
	疾病と治療（消化器・代謝）	1	30		1(30)	
	疾病と治療（運動・脳神経・眼）	1	30		1(30)	
	疾病と治療（腎・泌尿・免疫）	1	15		1(15)	
	疾病と治療（感覚器）	1	15		1(15)	
	臨床薬理学	1	30		1(30)	
健康支援と 社会保障制度	微生物学	1	30	1(30)		
	医療概論	1	15	1(15)		
	公衆衛生学	1	30		1(30)	
	生命倫理	1	15			1(15)
	社会福祉	1	30		1(30)	
	関係法規	1	15			1(15)
	生活科学	1	15	1(15)		

## 【専門分野Ⅰ】

基礎看護学は、専門分野Ⅱ及び統合分野の基礎となる理論や概念、科学的根拠を伴った看護技術を学ぶ位置づけとする。

基礎看護学は、各看護学及び在宅看護論の基礎となる対象の健康状態の理解や生活の状態に応じた看護の基本を学ぶ。さらに、看護師として倫理的な判断と実践につながる基礎的能力を養う必要がある。講義は「看護学概論」「基礎看護技術」「臨床看護技術」で構成。基礎看護技術としては、人間関係成立及び対象把握の技術として「面接とフィジカルアセスメント」、医療環境を整える技術として「診療、処置に伴う技術」「与薬の技術」をおき、他「看護過程展開の技術」及び「生活を整える技術ⅠⅡ」で構成した。看護学を学ぶ学生が最初に学習する専門科目であり、看護を総合的に理解することを目指す内容とした。

### 「看護学概論」 1単位 30時間

最初に学習する専門科目であり、看護の基本概念をふまえ、人間の健康の保持増進にかかわる看護の役割と機能を幅広く学ぶものとした。看護は、心理学や社会学の分野で実証された理論を人間理解のツールとして活用する一方で、看護独自の理論の開発も進んでいる。ナイチンゲールの看護の考え方をはじめとするニード論や人間関係論を学び、人間理解と看護観が深められる内容とした。さらに、近年の高度医療や生命の尊厳、患者権利、医療事故など看護者の倫理綱領に基づいて専門職としての自覚と責任が感じられるよう、医療・看護倫理を強化する内容を包含するものとした。

### 「基礎看護技術」 7単位 210時間

看護は実践科学である。そのときに人間をどのようにとらえ、健康上の問題を分析するのか、科学的に実証された枠組みの種類や活用方法を学ぶ。次に看護を実践するための方法として、基本となる技術を学んでいくが、看護技術の定義は「看護の目標達成の為の科学的根拠に基づいた具体的な方法であり、トレーニングの反復により習熟度が増すものである」とし、「人間関係成立及び対象把握の技術」「医療環境を整える技術」「看護過程展開の技術」「生活を整える技術Ⅰ（環境・清潔・衣）」「生活を整える技術Ⅱ（運動・休息・食・排泄）」を位置づけ校内実習及び演習を取り入れ、技術修得を強化する内容を包含した。

### 「臨床看護総論」 1単位 30時間

### 「臨床看護技術」 1単位 30時間

健康障害をもつ対称を理解し、状態に応じた看護の基本を理解する内容を1単位として設定した。さらに、健康障害をもつ対称の健康問題として起こりやすい症状に対する看護について学ぶ内容とする。対象や病気の種類にかかわらず健康障害時に発症し看護による症状緩和を図る看護技術として、呼吸機能障害、運動機能障害、嚥下機能障害を取り上げアセスメントし看護として対象の苦痛を軽減し、安全を守るための方法を学ばせる内容として科目を設定した。

### **「基礎看護学実習」 3単位 135時間**

臨地実習とは、看護の対象である患者に対して、講義・演習・校内実習で学んだ知識と技術を統合し、対象からの反応を得ながら看護を提供し看護について学ぶものである。専門分野Ⅰにおける臨地実習は、後に続く専門分野Ⅱにおける成人、老年、小児、母性、精神の各看護学実習及び統合実習における在宅、看護の統合実習の基礎となる実習である。看護の対象である人間を捉え、講義や校内実習で学んだ基礎知識や、看護技術を統合して初めて対象に援助を実施することにより、対象理解と技術の修得を目指す。看護実践を段階的に学べるよう基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅲを設定した。

#### **「基礎看護学実習Ⅰ（人間関係成立・対象の基本的ニーズの把握）」（1単位 45時間）**

看護の対象である患者の療養環境を理解し、人間関係成立と講義や演習、校内実習で学んだ基礎知識を統合し対象の理解につなげていく。

#### **「基礎看護学実習Ⅱ（対象の日常生活援助の実施）」（1単位 45時間）**

患者にとって必要な日常生活援助を安全・安楽に実践する内容として1単位で設定した。基礎看護学実習Ⅰをふまえ、対象の状態に応じたより良い看護技術が提供できるよう、技術チェックを実施した上で実習を行う。

#### **「基礎看護学実習Ⅲ（看護過程の展開・対象の日常生活援助の実施）」（1単位 45時間）**

看護の問題解決方法としての看護過程を用いて、疾病や障害によって生じた生活の不自由さを理解し、対象の状態に応じた日常生活援助の看護技術を提供し、看護を展開する力を育む内容として設定する。

基礎看護学実習は学生個人の持つ豊かな感性を広げるとともに、看護の本質に触れ、自己の看護観を持つための第一歩となるようにする。

構成および計画

< 専門分野 I > 13 単位

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
基礎看護学	看護学概論	1	30	1(30)		
	基本技術	1	30	1(30)		
	面接とフィジカルアセスメント	1	30	1(30)		
	生活を整える技術Ⅰ（環境・清潔・衣）	1	30	1(30)		
	生活を整える技術Ⅱ（運動・休息・食・排泄）	1	30	1(30)		
	診療、処置に伴う技術	1	30	1(30)		
	与薬の技術	1	30		1(30)	
	看護過程展開の技術	1	30	1(30)		
	臨床看護総論	1	30	1(30)		
	臨床看護技術	1	30		1(30)	
【臨地実習】 基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1(45)		
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45	1(45)		
	基礎看護学実習Ⅲ	1	45		1(45)	

## 【専門分野Ⅱ】

### 「成人看護学」

成人期は、青年期、壮年期、向老期と長期に及び、社会的役割を担う発達段階である。その発達段階の特徴として、成人期にある人は、自立・自律した存在であり基本的には自分のことは自分で出来る、意思決定できる存在として捉えた。たとえ病気になったとしてもセルフマネジメントできる存在として捉え、積極的に自分の治療法の選択や養生法に責任を持ち努力できる（アドヒアランス）存在として看護する。

成人期の死因上位は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患である。青年期の自殺、壮年期男性の自殺も増加して、生活習慣やストレスは成人の健康に大きな影響を及ぼしている。一方、一般病院の平均在院日数はますます短縮化傾向にあり、入院中の患者は健康の危機的状況（急性期あるいは終末期）であることが多い。また、成人期の役割を果たすために、外来で治療しながら社会生活をおくっている場合も多い。入院中の危機的状況や苦痛の緩和への対応、及び、成人の健康を脅かしている生活習慣病やがん、機能障害などをかかえて生活する人に応じた看護が必要とされる。

以上をふまえ、成人看護学の講義は計 6 単位 180 時間を設定した。

#### 「成人看護学概論」 1 単位 30 時間

成人期にある人の理解のため、成人期の特徴や発達課題、役割、健康問題の概要を学ぶ。また、成人看護学を通して、成人の特徴的な健康問題と現代の社会状況との関連についても人口の動向・平均余命などとともに、法律や政策を含めて理解することが必要である。成人に特有な健康問題の背景として、現代社会、就業、職業病、などが身体的にどのように影響しているか、社会情勢も含めて生活習慣を理解し、多様な健康観をふまえて健康教育・患者教育を提供してゆく必要がある。

#### 「健康危機状況にある成人の看護」 1 単位 30 時間

成人期における状況的危機は、外傷や疾病などによる身体の危機であり、生命の危機状況につながっていく。生命の危機状況は、成人でも個人のセルフケアだけでは回避することはできない。健康の危機状況は、生命の危機と心理的な危機、社会的危機に陥り健康レベルの分岐にある状況である。健康の危機状況にある人の看護は、身体への侵襲、検査、手術、薬物療法を受ける患者の生命の危機に対応するための救急救命法、合併症予防法の理解が必要になる。また、生命状態の危機に対しての、適切な観察や看護判断、患者の状態に応じた看護技術を学び、健康危機状況にある成人の看護を学習する内容とした。

#### 「侵襲的治療を受ける成人の看護」 1 単位 30 時間

近年、科学技術の発展・進歩に伴い低侵襲性の手術が行われるようになった。しかし、手術による身体侵襲があることには変わりはなく、そのような侵襲的治療を受ける患者の特徴や、合併症予防を含めた看護、患者家族を支える看護について学び、周手術期の専門性や看護の役割・援助方法を理解する。そして、おそらく人生の中でほんの数回の経験であろう身体侵襲を伴った治療を受ける患者及びその家族の立場を慮った看護の実践に結びつけていく。

### 「セルフケア再獲得に向けての成人の看護」 1単位 30時間

成人期にある人が、何らかの病気や外傷などにより健康問題を抱え、今まで出来てきたセルフケアが出来なくなることや、人の世話にならなければならないことは極めて苦痛なことである。自分の意思で生活してきた人が、それまでのセルフケアを見直し、生活の変更を余儀なくされ、治療のため通院や入院することによって、家族の生活や職場も影響を受け支障が生じることとなる。そのため、少しでも早くセルフケア能力を再獲得し、元の生活に戻れるようにしたいと望むのは当然である。セルフケア再獲得に向けての看護は、再びその人らしく生きられるように援助することである。セルフケア再獲得が必要な成人期にある人を理解し、中途障害者となる心理をふまえ、看護を学習する内容とした。

### 「セルフマネジメントを必要とする成人の看護」 1単位 30時間

セルフマネジメントとは、生活者として日々の生活を疾病の症状や徴候と折り合いをつけながら生活していく知恵と能力を身に付けていくことである。看護者の役割は、患者が自己管理できるよう効果的な患者教育を担うほか、長期にわたる療養生活を支援することにある。成人期にある人は、個別の生活スタイル、価値観を持ち、ライフサイクルの中核を担う人であるため、単に、一般的な知識や技術を伝える指導ではなく、病とともに生きることを「支援」する視点が不可欠である。また、わかっているが行動できない、継続できないという患者の心理を理解し、患者自身が自分の健康上の課題に対して解決できるよう支持していくことが必要である。そこで、事例を用い演習を取り入れた内容を設定した。

### 「緩和ケアを必要とする成人の看護」 1単位 30時間

看護は、対象者がいかなる状態にあろうと、その人の安全性、安楽性、自律性の確保にむけて援助を行い、QOLの保証をめざす。生命を脅かす疾病は患者と家族の身体的、精神的、社会的、霊的苦痛、すなわち全人的苦痛にさらされ、あらゆる制限と危機をもたらす。それは、成人期の人の社会的役割や責任を果たすことに制限をもたらすだけではなく、人が自分らしく存在することと、その表現及び自分らしさの希求の制限をももたらす。さらに、家族成員の抱える苦痛も大きい。緩和ケアとは、その個人と家族の孤独や病気の進行に伴う不安や恐れを癒し、可能な限り長く安楽に、身体症状を緩和し、病を癒し、自立を維持することにより死を尊厳あるものとするケアである。緩和ケアを必要とする成人期にある人の特性を考慮し、患者が自己の望みは何かを見極め、苦痛の緩和とその個人がもつ力を支えるための看護を学ぶ内容を設定する。

### 「成人看護学実習」 6単位 270時間

成人看護学実習では、主に入院患者を対象に看護を行う実習とする。多様な健康状態・障害に対するアセスメント力、及び実践力の育成を目指す。特に成人期は健康障害がその人の社会生活に影響を及ぼす。そこで、それに伴う対象の思いを理解して援助ができる必要がある。

実習科目は、講義と同様の枠組みとした。成人看護学実習Ⅰは、「対象の健康レベルに応じた看護実習」。成人看護学実習Ⅱは、慢性疾患などで自己管理が必要な患者、何らかの障害を抱えセルフケアが必要な患者を対象に「セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護実習」。成人看護学実習Ⅲは、ICU、CCU、救命救急センターなどで生命の危機状況にある患者や手術療法を

受ける患者を対象に「健康危機状況にある成人の看護・侵襲的治療を受ける成人の看護実習」6単位とした。

## **「老年看護学」**

成長発達の最終段階である老年期は、人としての英知を統合し、いずれは穏やかに幸せな死を迎えられるべき段階である。長い人生経験と知恵を尊敬し、個人の生き方・価値観を尊重し個別な存在として理解する必要がある。しかし、家族形態の変化に伴い看護学生の多くは高齢者と接する機会が少ない。現代社会は機械化、スピード化し、年配者を尊重したり、畏敬の念を抱きにくい環境にある。そのような若者中心の文化の中で、まだ体験の無い老年期の対象についての看護を学ぶことは有用である。加齢現象は身体生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会・心理的側面に大きな影響を及ぼす。また、高齢者の健康障害は、複数の疾患を抱えていることに伴いより個別的で複雑である。加えて、恒常性維持機能の低下によって、合併症、急性増悪、慢性化、廃用症候群等の問題が発現しやすく健康問題が複雑化・長期化しやすい。超高齢社会に突入し、看護に求められる役割はますます重要となっている。高齢者やその家族、さらに社会のニーズに応じた看護を提供するためには、看護基礎教育で老年看護学への興味と関心を育てていく必要がある。看護においては高齢者に起こりやすい変化を理解し、幅広い観察力とアセスメント力、活動耐性の評価方法、機能低下防止、個別の生活援助に関する知識・技術が必要とされることから高齢者の生活に主眼を置いた科目を設定した。

### **「老年看護学概論」 1単位 30時間**

看護の基本概念である「人間」「健康」「環境」「看護」を高齢者に特化することで、老年看護に必要な学習内容を抽出した。老年期を生きる人の特徴とその生活、健康の段階に応じた看護の場と機能、高齢者を取り巻く家族や社会システム、そして、高齢者の健康を理解するために加齢に伴う変化を学ぶことで、高齢者の看護について関心と理解を持てる内容として設定した。

### **「高齢者の生活と社会」 1単位 15時間**

高齢者の生活と社会については、特に心理的側面を中心とし、最新の高齢社会白書などをもとに、少子高齢社会の傾向や高齢者の生活実態を学ぶ。また、高齢者の家族関係や地域社会の関係をはじめ、対人関係の基本的スキルについての知識を示す。さらに、対話形式の演習を通して、高齢者やその家族についての理解を深められる内容として設定した。

### **「高齢者の日常生活援助」 1単位 30時間**

加齢変化が高齢者の生活、ことに睡眠、活動、食、清潔、排泄、に支障をきたしやすいことを理解し、高齢者の生活機能や日常生活の視点から日常生活を支える必要性を学ぶ内容とした。

### **「高齢者の健康障害時の看護」 1単位 30時間**

高齢者の健康障害は非定型的で、複数の疾患を独立的かつ併存的に抱えている。些細な健康障害が高齢者の ADL に及ぼす影響は大きく、家族への影響も大きい。したがって、高齢者の健康障害の特徴から考え、認知機能障害、リハビリテーション、手術療法に関わる看護の理解が深められる内容とした。

### **「老年看護学実習」 4単位 180時間**

老年看護学実習Ⅰ：「生活機能低下に応じた高齢者の看護」1単位 45時間

加齢現象は身体生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会・心理的側面に大きな影響を及ぼす。また、老化や疾病は即高齢者の生活にも影響を及ぼす。そのため長年の生活が習慣化し個人の価値観が確立している高齢者は QOL を低下しやすい。そこで早期の臨地実習において、日常生活に支障をきたしている高齢者を受け持ち、対象のライフイベントを捉え、個別性や高齢者像、それを踏まえた看護への活用について考え、老年看護の原則について学び自己の老年観を育む内容として設定した。

老年看護学実習Ⅱ：「健康レベルに応じた高齢者の看護」3単位 135時間

高齢者の健康障害は、非定型的で複数の疾患を独立的かつ併存的に抱えている。健康問題が複雑化・長期化しやすい特徴から、些細な健康障害が高齢者の ADL に及ぼす影響、家族への影響も大きい。あらゆる健康段階にある対象の加齢現象の把握と疾病の理解を深め、健康レベルと成果を見定め QOL を考えた看護の実践を目指したい。

## **「小児看護学」**

小児看護学は、変化する社会の中で子どもの人権を守り、子どもと家族の置かれている状況を的確に判断し、成長・発達やさまざまな健康状態に応じた看護を考えることを学習する。小児を取り巻く状況として、児童虐待の増加や校内暴力、不登校などの問題が深刻化している。一方、地域社会に目を向ければつながりの希薄さから、親の間に子育ての負担感や悩みが広がっている。小児期はヒトから社会的存在としての人間へと絶え間ない成長発達を遂げる時期である。小児看護学は、このようなライフステージにある小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が健全な成長発達を遂げられるよう小児と家族（養育者）を支援することを目的として科目を置いた。

### **「小児看護学概論」 1単位 30時間**

人間としての出発点である小児期にある子どもや子どもを取り巻く社会環境の変化を理解することは、小児看護を学ぶ上で極めて重要である。

小児との接触の機会が少なく、こどもを具体的にイメージできない状態の学生の背景をふまえ、看護の対象としての小児と小児を取り巻く環境、小児看護の概念について学ぶ内容を設定する。

### **「小児の健康障害」 1単位 15時間**

小児の健康障害は、一時的な苦痛経験だけでなく生涯にわたる障害を残すこともある。さらに、その障害が小児の成長発達の中のどの時期に生じたのかによって、その後の経過や将来に影響を及ぼす。したがって、それらの障害を最小限にとどめるための適切な援助が求められる。そのためには、専門的な知識と技術、判断力・実践力が必要となってくる。既習の小児看護学の内容を活用しながら、健康障害のある小児と家族が生活・療養するための看護について学ぶ。

### **「小児の発達段階に応じた看護」 1単位 30時間**

小児期は、ヒトから社会的存在としての人間へと絶え間ない成長発達を遂げる時期である。小児看護学は、このようなライフステージにある小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が健全な成長発達を遂げられるよう小児と家族（養育者）を支援することを目的としている。そのために「小児看護学概論」の小児の理解をもとに、各発達段階にある小児の健康増進とその家族への看護を、各期の生活の特徴とともに学ぶ。

### **「小児の健康状態に応じた看護」 1単位 30時間**

小児と家族にとって、病気や入院は大変な出来事であり、小児と家族に与える影響と看護を理解することは小児看護を学ぶ上で重要なことである。小児の健康状態もさまざまであり、その状態に応じた看護を学んでいく必要がある。そのため、内容として、急性状態にある小児と家族、長期的経過をたどる疾患をもつ小児と家族、終末期にある小児と家族、先天的な問題をもつ小児と家族、心身障害のある小児と家族、在宅医療・通院治療を受ける小児と家族の看護が理解できる内容にした。

### **「小児看護学実習」 2単位 90時間**

小児看護学実習の主要な場である臨床現場は、出生率の減少に伴い入院患児が減少し、入院期間も短縮化してきている。そのため、子どもと向き合い看護ケアを行う機会、症例数も少なくなってきたのが現状である。こうした子どもをとりまく現状を踏まえ、「健康な乳幼児の保育」と「健康障害のある小児の看護」の視点から学習を深めたい。健康の回復及び保持増進に向けての援助方法や健康を障害された小児と家族への援助を行うことにより、未来を担う子どもたちの健全な育成を支援できることを念頭に設定した。

## **「母性看護学」**

母性看護学の特徴として、「次世代への生命の引継ぎ」に焦点をあてることと、「生理的現象ではあるが看護を必要とする人を対象とする」ことが考えられる。

一つ目の特徴については、生物学的な種族保存だけではなく、その世代の個人の生命、尊厳、人格を重視することである。母性看護学の学習内容を進めていく過程では、生命への畏敬の念、神秘性に触れることも多く、必然的に生命倫理、看護倫理との関連を深く学ぶ機会ともなる。

特徴の二つ目は、母性看護学の対象に関することである。母性看護学ではその対象を新しい家族の誕生を迎える人たちを中心に、生命を次世代へ繋いでいく人々ととらえている。したがって、妊娠・分娩・産褥期にある人とその家族、胎児、新生児を中心に、これから妊娠期を迎える女性、パートナーとなる男性、そして生殖に関連する問題を抱える人たちも、母性看護学の対象ととらえている。また、妊娠・分娩・産褥期にある人は、病気ではなく生理的過程にある。健康ではあるが看護を必要とする人の理解を深めるためにウェルネス看護診断の考えを取り入れることとして、内容を組み立てた。

### **「母性看護学概論」 1単位 30時間**

母性看護学は看護の対象である人間を「性と生殖に関する健康と権利—リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ」の視点からとらえ、人間のライフサイクルを通して健康を維持・増進することを目的としている。人間が持つ母性・父性の役割、機能を健全に発揮できるようにするために、胎児期から乳幼児期、思春期、成熟期、更年期、向老期に至るまでの女性とその家族を対象として関わる科目である。少子高齢社会の中で、次世代への健康への支援は重要な社会問題となっている。国においても様々な政策を策定し、安心して子どもを産み育てることが出来る環境づくりを目指している。このような背景をふまえて、母性看護の概念、特徴、対象、及び対象をとりまく社会の変化等について触れる。また、生命の誕生に関与する看護学であることから、生命の尊厳、人権の尊重についても学ぶ内容とした。

### **「妊娠期・分娩期の看護」 1単位 30時間**

妊婦・産婦の看護では、まず妊婦を理解するために、妊娠各期における胎児の発育と、妊娠が母体に及ぼす身体的・心理的影響を学ぶ。また、妊婦の夫や家族をはじめとする社会的な側面について学び、対象の理解を踏まえた妊婦の看護や保健相談の方法を具体的に学ぶ。産婦の理解のためには、分娩の整理と経過、心理的特徴、家族を含めた看護を学ぶ。

### **「産褥期・新生児・ハイリスクの看護」 1単位 30時間**

産褥期は生理的变化ではあるが、看護の視点でケアする必要度の高い時期である。正常を逸脱しているわけではないため、問題指向型の看護過程では思考整理がしにくいいため、ウェルネスの視点でとらえた看護を学ぶ。新生児期は、母親との関係が深く、この時期の母子関係はその後の新生児の成長に大きく影響するといわれていることから、母子相互作用を活用した看護を学ぶ。ハイリスク状況にある人、およびその正常経過を逸脱した人の理解は、既に学んだ正常経過を振り返り、その関連で逸脱した症状を理解できるようにした。ハイリスクに陥っている対象の心理面への配慮は対象となる人の立場にたった支援が出来るよう内容を精選した。

### **「生殖機能障害のある患者の看護」 1単位 30時間**

女性の生殖器疾患患者の特徴を理解し、対象の健康障害をアセスメントして必要な看護を理解する。また、生殖機能障害が性役割、女性の生き方、日常生活に及ぼす影響を考え、看護者としての支援方法を学ぶ。

### **「母性看護学実習」 2単位 90時間**

母性看護学は、生命を未来に存続させるという種族保存（生殖）機能が遂行できるよう健全な母性の育成に関わる援助活動である。実習では、妊娠・分娩・産褥という母性の生理的、心理的变化を理解し、母体の進行性、退行性変化が順調に進むように援助することを念頭に「妊娠期の看護」「分娩期の看護」「産褥期の看護」「新生児期の看護」を設定した。また、生命の誕生の場面、その後の母親と新生児の関わり方を見聞し援助することで、生命が誕生し育っていくことへの尊厳を認識する機会としたい。

### **「精神看護学」**

現代社会は精神的ストレスに満ちた社会であり、社会の近代化、合理化、管理化が進み、一層精神保健の重要性が増してきている。若者の引きこもりや、小中学生の不登校、摂食障害、うつ病やうつ状態、自殺、アルコール依存症等、心の問題や病気でケアを必要としている人々が増加している。厚生労働省はこれまでの「4大疾病」に精神疾患を加えて「5大疾病」として、重点的に対策を進めていくことに決めた。

精神看護学では、あらゆる領域でさまざまな健康水準、発達段階にある人に対して、精神看護を展開するための基礎的知識と技術を教授するとともに、学生が自己理解・他者理解する力を伸ばすことをねらいとし、計4単位105時間の科目設定とする。

### **「精神看護学概論」 1単位 30時間**

精神看護学を学ぶに当たって、精神（心）の健康の概念、構造と機能、発達を理解することは欠かせない。精神の不健康、障害、精神に障害のある人の精神の健康など、精神（心）の健康の定義や精神的健康のとらえ方は、学生自身が考え方を深めていくための基盤となる重要な概念となる。人間の精神は、生物学的、心理学的、社会的要因をはじめとして文化的要因や環境的要因など、多くの要因が複雑に絡み合って発達する。そこで、フロイト、エリクソンの理論を使用し、性的発達、発達段階での各発達課題、母親（重要他者）との相互作用の視点で理解できるよう学ぶ、さらにオレム・アンダーウッド理論を用いて、セルフケア能力の維持増進を目標に、自己決定能力、セルフケア能力に視点を当てて設定した。

### **「精神に障害をもつ人の理解」 1単位 15時間**

精神入院患者の割合が最も多い統合失調症、神経性障害を中心として精神障害の現れ方とその特徴、原因、診断、治療について理解できるよう学ぶ。

### **「精神看護の基本技術」 1単位 30時間**

精神看護は人々の心に焦点を当て、健康の保持増進、疾病の予防、回復に向け様々な働きかけを行っている。対象によっては、対人関係やコミュニケーション領域で困難を経験している場合がある。このような時は相手の行動の意味を確認しながら、ケアを提供する、あるいは自立に向けた歩みを助けるといった、自我を脅かさないあるいは自我を強めるかかわりが求められる。必要とされる治療的コミュニケーション技術や看護カウンセリングを学ぶ。

### **「精神に障害をもつ人の生活と看護」 1単位 30時間**

精神に障害のある人は、精神疾患と障害を併せ持ち、生活のしづらさ、生き辛さを抱えている。彼らを生活者としての視点でとらえ、自立に向けた援助を考えていくことの必要性を学ぶ。

取り上げる疾患は、入院患者数の最も多い統合失調症、外来患者数の多い気分障害、その他人格障害、アルコール・薬物依存症、神経症、発達障害の6つとする。

### **「精神看護学実習」 2単位 90時間**

精神看護学実習では精神に障害をもつ人の看護を中心に学ぶ。

精神保健医療福祉は、入院医療中心から地域生活中心へと転換され、精神に障害を持つ人がその人らしく自立した生活を営めるよう、さまざまな施策が進められている。そこで、「精神障害の治療を必要とする対象への看護」及び「精神障害をもちながら地域で生活する対象の理解」を念頭に設定した。精神看護の実践は、患者との関係を形成する対人関係技術と精神状態をアセスメントする技術を用いて、セルフケアの維持向上に向けた援助を行うことである。そこで、患者の自己決定能力、セルフケア能力の獲得・維持に視点をあてた学習ができる内容とした。

構成および計画

<専門分野Ⅱ> 38単位

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
成人看護学	成人看護学概論	1	30	1(30)		
	健康危機状況にある成人の看護	1	30		1(30)	
	侵襲的治療を受ける成人の看護	1	30		1(30)	
	セルフケア再獲得に向けての成人の看護	1	30		1(30)	
	セルフマネジメントを必要とする成人の看護	1	30		1(30)	
	緩和ケアを必要とする成人の看護	1	30		1(30)	
老年看護学	老年看護学概論	1	30	1(30)		
	高齢者の生活と社会	1	15	1(15)		
	高齢者の日常生活援助	1	30		1(30)	
	高齢者の健康障害時の看護	1	30		1(30)	
小児看護学	小児看護学概論	1	30	1(30)		
	小児の健康障害	1	15		1(15)	
	小児の発達段階に応じた看護	1	30		1(30)	
	小児の健康状態に応じた看護	1	30		1(30)	
母性看護学	母性看護学概論	1	30	1(30)		
	妊娠期・分娩期の看護	1	30		1(30)	
	産褥期・新生児・ハイリスクの看護	1	30		1(30)	
	生殖機能障害のある患者の看護	1	30		1(30)	

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
精神看護学	精神看護学概論	1	30	1(30)		
	精神に障害を持つ人の理解	1	15		1(15)	
	精神看護の基本技術	1	30		1(30)	
	精神に障害を持つ人の生活と看護	1	30		1(30)	
【 臨地 実習 】	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	90		2(90)
		成人看護学実習Ⅱ	2	90		2(90)
		成人看護学実習Ⅲ	2	90		2(90)
	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	1	45		1(45)
		老年看護学実習Ⅱ	3	135		3(135)
	小児看護学	小児看護学実習	2	90		2(90)
	母性看護学	母性看護学実習	2	90		2(90)
精神看護学	精神看護学実習	2	90		2(90)	

## 【統合分野】

### 「在宅看護論」

在宅看護は疾病や障害の予防活動や、福祉的な生活支援活動も内包する地域での他領域、広範囲にわたって提供される看護である。具体的には、健康回復のためのリハビリや悪化防止のための看護を中心に、終末期看護までの医療的意味合いの中での、質の高い看護活動が必要となる。また、臨床から在宅へのケアマネジメントや継続看護、地域における人々の当たり前の生活事象の中にある意義や価値観に気づき、人間としての存在や生活の奥深さを理解し、自己決定や生活の再構築を支援していく方法を学習する。また、在宅における家族は、療養者・障害者の家族ではなく、家族そのものを一単位として捉え、支援していく必要がある。

以上の在宅看護を理解し実践するためには、在宅における基礎知識・技術・態度を統合し、生活の場における在宅看護をイメージして主体的に学習することが出来るよう構築していく。

### 「在宅看護概論」 1単位 15時間

看護師が捉えるべき「生活」と「生活の場」における背景と対象と社会資源で構成し、在宅看護の目的を明らかにする内容を設定した。

### 「在宅看護技術」 1単位 15時間

在宅で健康障害をもちながら療養している人の生活の場に訪問して看護を提供する際、療養者、家族に受け入れてもらえるための基本としてのマナーの大切さ、会話の仕方や良い人間関係を築く技術を学ぶ。

### 「在宅療養者の健康状態に応じた看護」 1単位 30時間

在宅看護の基本に基づき、対象の生活に合わせた生活支援技術（日常生活援助技術、医療処置技術）を学ぶ。また、在宅ではさまざまな健康状態の対象をかんごするが、その中で、終末期にある療養者を取りあげ在宅の終末期看護の基本を学ぶ。

### 「在宅看護過程」 1単位 30時間

在宅看護の特徴が理解できるような事例を提示し、在宅療養者の価値観・人生観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用に着目した看護展開ができるように内容を設定する。特に自宅看護は、生活の場に一人で訪問するため、確かな知識・判断力・予測力とともに看護者の主体性が求められる。講義においても、課題について学生が主体的に考える機会を多く設定する。

### 「在宅看護論実習」 2単位 90時間

高齢化や疾病構造の変化に伴い病院だけでなく、病院から在宅へと連続した看護の必要性が高まってきている中で地域にいる看護の対象者にも眼を向けた実習を行う必要がある。その人の生活基盤の上に立って在宅で療養する人と家族を理解し、健康の向上や健康問題解決のための援助方法を学ぶ。また、社会資源の活用や多職種の人々との連携についても考える機会とするため、「健康保持・増進・疾病予防のための援助」と「地域で生活する人々のセルフケア支援のための援助」を念頭に設定した。

## **「看護の統合と実践」**

看護の統合と実践は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合する内容である。卒業後、臨床現場にスムーズに適応していけるように、各看護学で学んだ内容をベースに、臨床で実際に活用していくことができる内容として設定した。

### **「診療の補助技術における安全」 1単位 30時間**

医療・看護におけるアクシデントの中で、患者の生命に直接影響する内容として薬物に関することである。診療補助技術として、臨床の場で求められる一定水準の注射技術等を安全で確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。そこで、演習を通して、ハイリスク環境下での危険認識力と危険回避のための判断力を高めることを目的として3年次の臨地実習が進行する時期に設定した。

### **「臨床看護の実践」 1単位 15時間**

医療技術の高度化が進む中、看護に求められる診療補助技術も高度化している。今までの実習中では習得が困難であった状況を演習・校内実習で設定し（不足の事態への対応、複数の課題への対応、優先順位の判断）統合実習前に強化するよう設定した。

### **「看護研究」 1単位 30時間**

臨地実習を通して見出した疑問を取りあげ、研究する方法を理解する。そして研究をまとめ、発表することで論理的思考や研究的態度を学ぶ。

### **「看護管理と国際協力」 1単位 30時間**

看護の基礎教育では、チームの一員として看護師の役割を理解し行動できることが求められる。そのためには、看護師がチームとする病院や看護部門について学び医療・看護がめざすものを踏まえて、日常の看護を実践する考え方を理解しなければならない。そこで、病院や看護の理念に合わせ、患者満足と従業員満足を高める環境づくりの考え方や、「看護サービスの管理」について理解を深める内容設定とした。

国際協力は、専門職である看護師に求められている、人々の健康と生活の向上に向けた「社会への支援」を基本とし、災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術、国際貢献についての基礎的な理解を深める内容とした。

構成および計画

<統合分野> 12単位

教育内容	授業科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
在宅看護論	在宅看護概論	1	15		1(15)	
	在宅看護技術	1	15	1(15)		
	在宅療養者の健康状態に応じた看護	1	30		1(30)	
	在宅看護過程	1	30		1(30)	
看護の統合と実践	診療の補助技術における安全	1	30			1(30)
	臨床看護の実践	1	15			1(15)
	看護研究	1	30			1(30)
	看護管理と国際協力	1	30			1(30)
【 臨地 実習 】	在宅看護論	在宅看護論実習	2	90		2(90)
	看護の統合と 実践	統合実習	2	90		2(90)

# 教育課程

基礎分野から、専門基礎分野、専門分野I・IIへと学習を積み上げ、統合分野で、学びを総括していきます。  
 それぞれの分野は相互につながりを持ち、看護師に必要な知識や技術を効果的に学ぶことができます。

## 統合分野

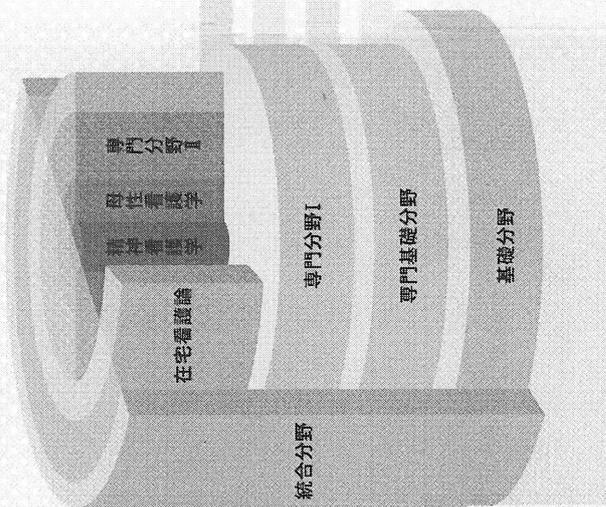
### 統合分野

全分野を統合し、看護が実践できる力を養う分野

### 関連授業

在宅看護概論、在宅療養者の経歴状態に応じた看護、在宅看護過程、看護研究、看護管理と国際協力、在宅看護論実習、統合実習 他

## 構造図



## 健康水準別の看護を学習

### 関連授業

健康危機状況にある成人の看護、緩和ケアを必要とする成人の看護、高齢者の日常生活援助、小児の健康状態に応じた看護、妊産期・分娩期・産後期の看護、精神に障害を持つ人の生活と看護 他

## 専門分野II

## 看護学の土台

### 関連授業

看護学概論、基本技術、生活を営む技術、診療・処置に伴う技術、看護過程展開の技術、臨床看護総論、基礎看護学実習 他

## 専門分野I

## 専門分野の基礎となる

### 関連授業

解剖生理学、生化学、栄養学、病理学、疾病と治療、微生物学、臨床薬理学、医療概論、公衆衛生学、生命倫理、社会福祉、関係法規、生活科学 他

## 専門基礎分野

## 看護師となるための土台

### 関連授業

論理学、情報科学、文学、心理学、教育学、コミュニケーション論、環境生態学、保健体育、英語、家族社会学 他

## 基礎分野

看護科 2年生

看護科 2021年度生カリキュラム

科目区分		教育内容	科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計		
履修方法	科目内容				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
登録指定科目	基礎科目	科学的思考の基盤	論理学	演習	1	30					1	30	
			情報科学	演習	1	30					1	30	
			文学	講義	1	30					1	30	
			心理学	講義	1	30					1	30	
			コミュニケーション論	講義	1	15					1	15	
			人間と生活・社会の理解	環境生態学	講義	1	30					1	30
				保健体育	演習	1	30					1	30
				野外活動	演習	1	15					1	15
				教育学	演習	1	30					1	30
				英語	講義	1	30					1	30
		英会話		演習			1	30			1	30	
		家族社会学		講義	1	30					1	30	
		社会学		演習			1	30			1	30	
		小計					11	300	2	60			13
		専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ(概論)	講義	1	15					1	15
				解剖生理学Ⅱ(生命維持機能1)	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅲ(生命維持機能2)	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅳ(生命を活用する機能)	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅴ(体の保護と種の保存機能)	講義	1	15					1	15
	生化学			講義	1	30					1	30	
	栄養学			講義	1	30					1	30	
	疾病の成り立ちと回復の促進		病理学	講義	1	30					1	30	
			疾病と治療(循環・呼吸・血液)	講義	1	30					1	30	
			疾病と治療(消化器・代謝)	講義			1	30			1	30	
			疾病と治療(運動・脳神経・眼)	講義			1	30			1	30	
			疾病と治療(腎・泌尿・免疫)	講義			1	15			1	15	
			疾病と治療(感覚器)	講義			1	15			1	15	
			臨床薬理学	講義			1	30			1	30	
	微生物学		講義	1	30					1	30		
	社会保健制度と健康支援		医療概論	講義	1	15					1	15	
			公衆衛生学	講義			1	30			1	30	
			生命倫理	演習					1	15	1	15	
			社会福祉	講義			1	30			1	30	
			関係法規	講義					1	15	1	15	
			生活科学	講義	1	15					1	15	
	小計					12	300	7	180	2	30	21	510
	専門分野Ⅰ		基礎看護学	看護学概論	講義	1	30					1	30
				基本技術	演習	1	30					1	30
				面接とフィジカルアセスメント	演習	1	30					1	30
				生活を整える技術Ⅰ(環境・清潔・衣)	演習	1	30					1	30
				生活を整える技術Ⅱ(運動・休息・食・排泄)	演習	1	30					1	30
				診療・処置に伴う技術	演習	1	30					1	30
				与薬の技術	演習			1	30			1	30
				看護過程展開の技術	演習	1	30					1	30
		臨床看護総論		講義	1	30					1	30	
		臨床看護技術	演習			1	30			1	30		
		実習 臨地	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	45					1	45	
			基礎看護学実習Ⅱ	実習	1	45					1	45	
			基礎看護学実習Ⅲ	実習			1	45			1	45	
			小計				10	330	3	105			13

科目区分		教育内容	科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計			
履修方法	科目内容				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数		
登録指定科目	専門科目	専門分野Ⅱ	看護学 成人	成人看護学概論	講義	1	30					1	30	
				健康危機状況にある成人の看護	演習			1	30			1	30	
				侵襲的治療を受ける成人の看護	演習			1	30			1	30	
				セルフケア再獲得に向けての成人の看護	演習			1	30			1	30	
				セルフマネジメントを必要とする成人の看護	演習			1	30			1	30	
				緩和ケアを必要とする成人の看護	講義			1	30			1	30	
			看護学 老年	老年看護学概論	講義	1	30					1	30	
				高齢者の生活と社会	講義	1	15					1	15	
				高齢者の日常生活援助	演習			1	30			1	30	
				高齢者の健康障害時の看護	講義			1	30			1	30	
			看護学 小児	小児看護学概論	講義	1	30					1	30	
				小児の健康障害	講義			1	15			1	15	
				小児の発達段階に応じた看護	演習			1	30			1	30	
				小児の健康状態に応じた看護	講義			1	30			1	30	
			看護学 母性	母性看護学概論	講義	1	30					1	30	
				妊娠期・分娩期の看護	演習			1	30			1	30	
				産褥期・新生児・ハイリスクの看護	演習			1	30			1	30	
				生殖機能障害のある患者の看護	講義			1	30			1	30	
			看護学 精神	精神看護学概論	講義	1	30					1	30	
				精神に障害を持つ人の理解	講義			1	15			1	15	
				精神看護の基本技術	演習			1	30			1	30	
		精神に障害を持つ人の生活と看護		演習			1	30			1	30		
		臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	実習			2	90			2	90		
			成人看護学実習Ⅱ	実習					2	90	2	90		
			成人看護学実習Ⅲ	実習					2	90	2	90		
			老年看護学実習Ⅰ	実習			1	45			1	45		
			老年看護学実習Ⅱ	実習					3	135	3	135		
			小児看護学実習	実習					2	90	2	90		
			母性看護学実習	実習					2	90	2	90		
			精神看護学実習	実習			2	90			2	90		
		小計					6	165	21	675	11	495	38	1,335
		統合分野	看護論 在宅	在宅看護概論	講義			1	15			1	15	
				在宅看護技術	演習	1	15					1	15	
				在宅療養者の健康状態に応じた看護	演習			1	30			1	30	
				在宅看護過程	演習			1	30			1	30	
			統合看護の 実践	診療の補助技術における安全	演習					1	30	1	30	
				臨床看護の実践	演習					1	15	1	15	
				看護研究	演習					1	30	1	30	
				看護管理と国際協力	演習					1	30	1	30	
			臨地実習	在宅看護論実習	実習					2	90	2	90	
				統合実習	実習					2	90	2	90	
		小計					1	15	3	75	8	285	12	375
		合計					40	1,110	36	1,095	21	810	97	3,015

※看護科の卒業には修業年限以上在学し、97単位(3,015時間以上)の修得が必要。

科目名	英会話			担当教員	松村純		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	○	実務経験内容	大学その他の教育機関で、30年以上にわたり英語教育に従事してきた経験をもとに、看護師として役に立つ英語の教授を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 1年次で学んだ基礎英語をもとにして、実際に医療現場で使うであろう様々な英語表現を身につけることを目的とする。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 医療現場で使われる英会話表現を習得する。		予約・受診・検査・入院・手術・症状の説明などに伴う英語表現を、ヒアリング、シャドウイング、リピティングなどを通して習得する。				講義	29h
						試験	1h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況			○	配布プリント			
試験等	提出物		○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ 配布プリント			
	レポート		○				
	随時試験		○				
	試験		○				
	平常の授業状況（授業態度）		○				
その他（ ）							

科目名	社会学			担当教員	峯岸英雄		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員		実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 医療・看護職を目指す学生に有益な「医療社会学」の修得を目指す。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
医療・福祉と人間の関係		1 プロローグ 2 健康と社会貢献（乳業の歴史） 3 労働問題と医療・福祉 4 医療としての、温泉と海水浴 5 健康と衛生装置（ラジオ体操と運動会） 6 災害と医療 7 人口問題と医療（前編） 8 人口問題と医療（後編） 9 医学者の軌跡に学ぶ（野口英世とヘボン） 10 国際医療（赤十字） 11 心と脳を巡る考察 12 高齢化社会 過去・現在・未来 13 社会福祉と社会事業 14 看護の歴史と展開 まとめ				講義	29 h
		試験	1 h				
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				なし			
試験等	提出物				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ		
	レポート						
	随時試験						
	試験		○				
平常の授業状況（授業態度）							
その他（課題）		○					

科目名	疾病と治療（消化器・代謝）			担当教員	五十嵐裕章・梅谷直亨(消化器) 秋山義隆(代謝)		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	○	実務経験内容	消化器内科 糖尿病・内分泌代謝内科 臨床医				
<p>□授業の目的</p> <p>病態生理学とは、疾病により機能がどう変化するという視点から疾病を解明したものである。</p> <p>生体は、自分の身体を維持したり、活動したり、生態内部の恒常性を維持するためにエネルギー源や体成分原料となる物質を食物として取り入れて、さまざまな目的のために消費している。そこに消化機能、内分泌・代謝機能がさまざまな形で関与している。</p> <p>ここでは、消化器系、内分泌・代謝系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学んでほしい。</p>							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 疾病による機能の変化と症状について理解する。  2. 主な疾患の検査・治療について理解する。	<消化器> 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状 1) 食道癌                      2) 胃潰瘍 3) 胃癌                        4) 胆石 5) 膵炎                        6) 肝炎、肝硬変、肝癌 7) 大腸癌                      8) 潰瘍性大腸炎 9) クロウン病      10) イレウス 2. 疾病を診断する主な検査 1) X線検査                      2) 血液検査 3) 内視鏡検査                  4) 生検 3. 主な治療（内科） 1) 化学療法                      2) 食道静脈瘤硬化療法 3) 消化性潰瘍の薬物療法 4) 保存的治療（イレウス・PTCD・ENBDチューブ） 5) 慢性肝炎インターフェロン療法                  6) 食事療法 4. 手術療法 1) 外科的診断学 2) 手術手技の進歩 3) 手術療法の実際					講義	18 h
	<内分泌・代謝系> 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状 1) バセドウ病                      2) クッシング症候群 3) メタボリックシンドローム                  4) 糖尿病 2. 疾病を診断する主な検査 1) 血液検査                      2) 糖負荷試験 3) シンチグラフィー						講義

		3. 主な治療			
		1) 食事療法      2) 薬物療法      3) 運動療法			
		総括			1 h
				試験	1 h
□成績評価の方法			□使用テキスト		
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器』			
試験等	提出物	金田智他 医学書院			
	レポート	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝』			
	随時試験	黒江ゆり子他 医学書院			
	試験	○	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』 医学書院		
	平常の授業状況 (授業態度)	□参考図書・資料・参考ホームページ			
その他 ( )					

科目名	疾病と治療（運動・脳神経・眼）			担当教員	比嘉隆（脳神経外科） 太田克也（脳神経内科） 鎌田孝一（運動器） 中島富美子（眼科）		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	○	実務経験内容	脳神経外科・内科 整形外科 眼科 臨床医				
□授業の目的							
脳神経・運動器・感覚器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学んでほしい。特に疾病による機能の変化と症状との関連について理解を深める。							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 疾病による機能の変化と症状について理解する。  2. 主な症状の検査・治療について理解する。	<脳神経(内科)> 1. 主な症状と病態生理 ・高次機能障害 ・運動障害(失調、麻痺、不随運動) ・嚥下障害 ・頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア ・髄膜刺激症状 2. 代表的疾患の病態生理と主な症状 1)脳梗塞 2)筋萎縮性側索硬化症(ALS) 3)筋無力症 4)パーキンソン病 5)髄膜炎 6)認知症 3. 疾病を診断する主な検査 1)CT 2)MRI 3)脳派 4)髄液検査 5)SPECTとPET 4. 主な治療 1)薬物療法、血漿交換療法 2)安静療法 3)リハビリテーション療法 (開始の時期・状態、合併症)					講義	6 h
	<脳神経(外科)> 1. 機能の変化と主な症状 意識障害、脳死 2. 代表的な疾患と手術療法 1)脳出血 2)頭部外傷 3)脳腫瘍 *術後の合併症と管理、観察点を含む					講義	8 h
	<運動器> 1. 主な症状と病態生理 疼痛 変形 神経麻痺 運動麻痺 循環障害 2. 代表的疾患の病態生理と主な症状 1)骨折 2)椎間板ヘルニア 3)脊髄損傷					講義	10 h

		<p>4)変形性膝関節症 5)変形性股関節症</p> <p>6)慢性関節リウマチ</p> <p>3. 疾患を診断する主な検査</p> <p>1)X線検査 2)各種造影検査 3)筋電図 4)関節鏡</p> <p>4. 主な治療</p> <p>1)手術療法 2)安静療法(牽引、ギプス)</p> <p>3)リハビリテーション</p> <p>&lt;感覚器:眼&gt;</p> <p>1. 代表的疾患の病態生理と主な症状</p> <p>1)白内障 2)緑内障 3)網膜剥離 4)結膜炎・角膜炎</p> <p>5)近視・遠視・乱視・斜視 6)糖尿病性網膜症</p> <p>2. 疾病を診断する主な検査</p> <p>1)視力検査 2)視野検査 3)色覚検査 4)眼圧検査</p> <p>3. 主な治療</p> <p>1)手術療法 2)薬物療法</p> <p>総括</p>	講義	6 h
			試験	2 h
□成績評価の方法		□使用テキスト		
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経』		
試験等	提出物	井手隆文他 医学書院		
	レポート	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器』		
	随時試験	織田弘美他 医学書院		
	試験	○	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼』	
	平常の授業状況(授業態度)	大鹿哲郎他 医学書院		
その他( )		□参考図書・資料・参考ホームページ なし		

科目名	疾病と治療（腎・泌尿・免疫）			担当教員	林松彦・須藤裕嗣（腎・泌尿器） 岡井隆広・森田寛（免疫）		
単位数	1	時間	15	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	○	実務経験内容	腎臓内科 リウマチ・膠原病 臨床医				
授業の目的							
腎・泌尿器、免疫系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学ぶ。特に、疾病による機能の変化と症状との関連について理解を深める。							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 疾病による機能の変化と症状について理解する。	<腎泌尿器> 1. 腎臓泌尿器の機能的変化と主な症状 尿の異常、浮腫、尿毒症、排尿に関連した症状、高血圧  2. 代表的疾患の病態生理と主な症状 1) 腎不全                      2) 腎炎 3) ネフローゼ                4) 腎腫瘍 5) 膀胱腫瘍                6) 前立腺肥大 7) 尿路感染                8) 尿路結石					講義	10h (4h)
	2. 主な疾患の検査・治療について理解する。  3. 疾病を診断する主な検査 1) 尿検査                      2) 血液検査 3) X線検査（CT、MRI、シンチ）      4) エコー  4. 主な治療 1) 薬物療法                2) 手術療法                3) 碎石療法 4) 透析療法						(6h)
	<免疫系> 1. アレルギー性疾患 1) アレルギーとは 2) アレルギー疾患の発生機序 3) 代表的なアレルギー性疾患と検査法  2. 自己免疫疾患 1) 代表的疾患の病態整理と主な症状 (1) SLE 2) 疾病を診断する主な検査と治療の効果を見る検査 (1) 血液検査 3) 主な治療 (1) 薬物療法					講義	4h
						試験	1h

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器』	
試験等	提出物	大東貴志他 医学書院	
	レポート	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病感染症』岩田健太郎他 医学書院	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

科目名	疾病と治療(感覚器:皮膚、歯・口腔)		担当教員	皆見春生(皮膚)・角田和之(歯・口腔)			
単位数	1	時間	15	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	○	実務経験内容	大学病院にて20年以上にわたり、臨床と研究を行っている。実臨床や診療経験をもとに講義を行う。				
□授業の目的							
感覚器:口腔・皮膚に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学んでほしい。特に 疾病による機能の変化と症状との関連について理解を深めてほしい。							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 疾病による機能の変化と症状について理解する。	<皮膚> 1. 代表的な症状 発疹 掻痒感 2. 代表的疾患の病態生理 1) 湿疹 ・接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎 ・蕁麻疹、皮膚掻痒症 2) 紅斑症 3) 薬疹 4) 皮膚真菌症 5) ウィルス性皮膚疾患 ・帯状疱疹 6) 性感染症 7) 母斑      8) 熱傷      9) 褥瘡 3. 疾病を診断する主な検査 1) 問診、視診のポイント      2) 皮内反応 3) 生検 4) パッチテスト 4. 主な治療 1) 薬物療法(抗炎症薬・ステロイド剤含む) 2) レーザー治療					講義	8 h
							2. 主な疾患の検査と治療について理解する。
	<歯・口腔> 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状 1) 齶蝕 2) 歯周病 3) 口腔粘膜疾患 4) 顎関節疾患 5) 歯牙欠損 2. 疾患を診断する主な検査 1) X線写真検査 2) 歯周病検査					講義	6 h

		3) 唾液分泌検査 4) 味覚検査  3. 主な治療 1) 口腔内清掃の基本 2) う蝕の治療 3) 歯周病の治療 4) 歯牙欠損の治療 5) 粘膜疾患の治療 6) 顎関節疾患の治療 7) 口腔ケア		
			試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト		
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚』		
試験等	提出物	佐藤博子他 医学書院		
	レポート	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15] 歯・口腔』		
	随時試験	渋谷絹子他 医学書院		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ	
	平常の授業状況 (授業態度)			
	その他 ( )			

科目名	臨床薬理学			担当教員	原澤秀樹		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	○	実務経験内容	薬剤師				
<p>□授業の目的</p> <p>医療の世界は私たちが考えている以上に速い速度で変化している。少子高齢化のなかで、いかに薬物療法の効果を上げることができるかが大切なことといえる。臨床薬理学は「薬物の人体における作用と動態を研究し、合理的薬物治療を確立するための科学」と定義されている。授業では薬理学の基礎知識、薬物療法の実際までを学ぶ。薬理学の基礎知識としては薬物の作用機序から薬理作用、そして薬物療法の実際としては疾患に対する薬物療法について学ぶ。また、薬物（医薬品）として臨床現場における医薬品の適正使用・管理のための必要な知識についても学ぶ。</p>							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 臨床における薬物療法について理解する。	1. 臨床薬理学総論				講義	14h	
	1) 薬物療法の意義と目的（その役割を説明できる） 2) 薬の作用機序と人体への影響について知る（その役割を説明できる） 3) 薬の投与方法について知る（その役割を説明できる） 4) 薬剤の体内での働き（吸収、分布、代謝、排泄）について知る（その役割を説明できる） 5) 薬の適正な使用のために（その役割を説明できる） ①医薬品と法律について知る ②医薬品の開発から市販後までのながれについて知る ③医薬品の種類（一般用医薬品、後発医薬品等）と取り扱いについて知る ④医薬品の安全な使用（相互作用、副作用等）について知る ⑤医薬品添付文書について知る				講義	14h	
2. 臨床における薬物の薬理作用と作用機序について理解する。	2. 臨床薬理学各論						
	1) 薬剤の薬理作用と作用機序（投与量・投与方法、副作用・中毒）について知る（その役割を説明できる） ①血糖値を下げる薬剤（インスリン、経口血糖降下薬） ②心臓の働きに作用する薬剤（カリウム、抗不整脈薬、強心剤） ③血圧を下げる薬（高血圧治療薬、血管拡張薬） ④血液凝固に関する薬（ヘパリン、ワルファリン、血小板薬凝固抑制薬） ⑤免疫機能を抑制する薬 ⑥抗がん薬 ⑦麻薬等、他 2) 薬の単位と濃度（その役割を説明できる） 3. 総括					1h	
					試験	1h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学』吉岡充弘他 医学書院	
試験等	提出物		□参考図書・資料・参考ホームページ
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	
	平常の授業状況（授業態度）	○	
その他（                      ）			

科目名	公衆衛生学			担当教員	足立知永子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員		実務経験内容					
□授業の目的 疾病を予防し、健康を増進するための方法と制度を理解することができる。							
到達目標	内 容			授業形態と時間			
1. 公衆衛生の概念、健康の概念について理解する。	1. 公衆衛生とは 公衆衛生の定義、憲法 25 条、 健康の定義、予防の概念、 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション			講義	2 h		
2. 疫学方法、健康指標を理解し、活用できるようにする。	2. 健康と環境、疫学的方法 ヒトの健康に影響する要因 スクリーニングテストの評価、 疫学的方法、臨床疫学とエビデンス			講義	4 h		
3. 健康に関連する環境要因について理解する。	3. 健康の指標 国勢調査、人口動態統計（出生、死亡） 平均寿命、健康寿命			講義	4 h		
4. 公衆衛生活動の行政の仕組みと内容を理解する。	国民生活基礎調査（有訴者率） 患者調査（受療率、入院期間）						
5. 健康づくりの方法について理解する	4. 感染症とその予防 病原体、感染経路、宿主の感受性、感染症法、予防接種法、 主要な感染症			講義	2 h		
	5. 食品保健と栄養 食品衛生法、食中毒、食品衛生管理 国民栄養の現状、栄養と健康			講義	2 h		
	6. 生活環境の保全 地球温暖化、大気汚染、酸性雨、オゾン層の破壊、 飲用水の安全、水質汚濁、 住環境の安全、放射線、廃棄物処理			講義 実習	3 h 4 h		
	7. 地域保健活動 地域保健法、保健所、市町村保健センター、医療サービス			講義	1 h		
	8. 母子保健 母子保健統計（出生体重、乳児死亡、死産率、周産期死亡率） 母子保健サービス			講義	1 h		

	9. 学校保健 学齢期の健康状態（学校保健統計）、 学校保健安全法、 保健管理（健康診断、健康相談、感染症予防、学校環境衛生）	講義	1 h
	10. 生活習慣病 生活習慣病の概念と現状 悪性新生物、脳血管疾患、心疾患 高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満 骨粗鬆症、歯周病 健康日本 21（第 2 次）、健康増進法、生活習慣改善 高齢者医療確保法	講義	2 h
	11. 産業保健 労働基準法、労働安全衛生法、 労働災害、職業病、トータルヘルスプロモーションプラン	講義	2 h
	12. まとめ		1 h
		試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		○ 『わかりやすい公衆衛生学』	
試験等	提出物	清水忠彦・佐藤拓代 ノーヴェルヒロカワ	
	レポート	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	○	
その他（ ）			

科目名	社会福祉			担当教員	藍原義勝			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義	
実務経験教員	○	実務経験内容	社会福祉士として医療法人が経営する在宅サービスに約 20 年間勤務。患者・利用者の相談援助に従事する傍ら、地域づくりに 10 年以上活動している。事例・経験をもとに講義を行う。					
<p>□授業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療において社会的な支援が必要であることを理解する。</li> <li>・社会保障制度の基本的な内容を理解する。日本の社会保障制度の中心となる社会保険と社会福祉について理解する。</li> </ul>								
到達目標	内 容						授業形態と時間	
1. 社会福祉の変遷と現状について理解する。	1. なぜ看護教育で社会福祉を学ぶのか。 社会福祉とは なぜ学ぶのか どのように学ぶのか						講義	8 h
	2. 社会福祉の歴史 福祉史 貧困をどう捉えてきたか…イギリスの歴史から						講義	20 h
2. 社会保障制度の基本的内容を理解する。	3. 日本の福祉の歴史 社会福祉法制度の歴史的展開							
	4. わが国の社会保障・社会福祉の動向							
	5. 社会保障制度 社会保障の体系・社会保障の内容・社会保障給付費							
	6. 医療保障 健康保険と国民健康保険 保健診療のしくみ							
	7. 高齢者医療制度 社会福祉・高齢者福祉							
	8. 介護保障 介護保険制度のしくみ							
	9. 障害者福祉							
	10. 児童家庭福祉							
	11. 虐待							
	所得保障							
	12. 年金保険制度							
13. 労働保険制度								
14. 公的扶助 生活保護制度のしくみ								
総括							1 h	
						試験	1 h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 3 社会保障・社会福祉』 福田素生他 医学書院	
試験等	提出物		□参考図書・資料・参考ホームページ
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（授業出席回数）	○	

科目名	与薬の技術			担当教員	渡邊明子・浅川真里		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	渡邊：総合病院にて外科、内科看護師として勤務。看護師が薬物療法を安全かつ正確に実施できるように知識と技術を身に着けることができるように講義を行う。浅川：看護師として内科病棟で勤務。臨床経験をもとに、看護技術に必要な知識・技術が修得できるように講義と実習を行う。				
<p>□授業の目的</p> <p>診療を支える看護にとって、診療の補助技術を学び習得していくことが必要である。特に臨床の場面では看護師が薬物療法を安全かつ正確に実施できるように知識と技術を身につけていることが求められる。ここでは、薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を習得する。</p>							
到達目標	内 容			授業形態と時間			
1. 与薬の目的と方法を理解し看護師の役割が理解できる。	1. 薬物療法の意義・目的			講義	4 h		
	2. 薬物療法における看護の役割 ・看護師の役割と法的責任						
	3. 薬物療法の基礎知識 ・薬物の種類 ・薬剤の吸収・排泄のメカニズム						
	4. 一般的な与薬の援助方法 ・アセスメント—計画—実施—評価 ・与薬時の医療事故			講義	2 h		
2. 与薬の方法に応じた援助過程を理解し、与薬の技術が習得できる	1. 内服薬の援助方法			校内実習			
	2. 直腸内与薬の援助方法			内服薬	2 h		
	3. 注射の種類別援助方法 ・筋肉内注射法			坐薬	2 h		
				筋肉内注射	8 h		
	・静脈内注射法			講義	2 h		
	・持続点滴注射法の管理			校内実習			
				点滴静脈内注射	4 h		
				持続点滴中の管理方法	4 h		
	総括				1 h		
				試験	1 h		

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護 技術 II』有田清子他 医学書院	
試験 等	提出物	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（                    ）		

科目名	臨床看護技術			担当教員	森居和子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	演習
実務経験教員	○	実務経験内容	病棟勤務の経験をもとに看護に必要となる病態把握の方法や、看護技術について理解を深め、臨床実践につなげられるように講義・学内実習を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 基礎看護学や専門基礎科目で学んだ知識を用いて、健康障害を持つシナリオ（健康障害をもつ事例）のアセスメントを行い、必要な援助を導き、実施することができることを学習のねらいとする。  （学習方法） 既習の知識（専門基礎、基本技術、生活技術Ⅰ・Ⅱ、面接とフィジカルアセスメント、診療と処置に伴う看護）を活用し、シナリオを読み込み、疑問点をグループで討論したり調べたりしながら、推理・推察し、シナリオの身体に起こっていることをまとめていく。その上で看護を考え、実施する。事前学習として授業に必要な内容等を復習しておく。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 健康障害をもつ対象の状態をアセスメントすることができる		1. 対象の健康障害についてアセスメント シナリオの身体に何が起きているか シナリオ ・肺気腫・心筋梗塞				GW	10h
2. 対象に必要な看護を考えることができる		2. 対象の健康障害に応じた看護 ・シナリオの看護を考える ・グループ学習で必要な看護まで導き発表する。  3. シナリオのある場面に必要な援助 ・同じシナリオで、追加された場面に対して援助計画を立案し、実施する。				GW	10h
3. 対象の状態に応じて複数の援助技術を実施できる		4. 看護の実施 追加された場面に対して援助計画を立案、実施				演習	9h
						試験	1h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況		『系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器』 医学書院					
試験等	提出物	○	『系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器』 医学書院				
	レポート		『系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術』 医学書院				
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（グループ学習）							

科目名	健康危機状況にある成人の看護		担当教員	佐々木元子・河村葉子			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として病院で16年勤務。実務経験をもとに健康危機状況にある成人期の看護を急性重症患者認定看護師とともに講義する。				
□授業の目的							
成人期における危機状況を理解し、健康危機状況に陥ったことによりセルフケア困難な状況となった成人とその家族への看護方法について学習する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 様々な健康危機状況を理解する		1. 健康危機状況にある成人の特徴 2. 健康危機状況にある成人に生じるセルフケア不足			講義	2 h	
2. 健康危機状況にある成人のセルフケア不足に対する看護方法を理解する		1. 身体機能悪化への対応方法 2. 生活行動変更への支援 3. 健康危機状況における成人の苦痛と緩和方法 4. 心理的・精神的混乱への支援 5. 家族および重要他者の不安や負担へ支援			講義	6 h	
3. 積極的治療を必要とする状況と看護方法を理解する。		1. 救命救急治療を必要とする状況と看護 1) 救命法（一次救命法）・普通救命方法 2) 急変時の看護（二次救命）			講義	4 h	
					校外実習	2 h	
					校内実習	2 h	
		2. 積極的治療を必要とする状況と看護 1) 重症集中治療における看護 2) 症状と看護 ショック 不整脈			講義	8 h	
4. 健康危機状況にある成人の看護の実際を理解する		1. 健康危機状況にある成人の看護の実際 (事例) 熱傷患者の看護			講義	4 h	
		総括				1 h	
					試験	1 h	
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況		○		『ナースングラフィカ 成人看護学 2 健康危機状況/セルフケアの再獲得』 安酸史子他 メディカ出版			
試験等	提出物	○		『系統看護学講座 別巻 救急看護学』 医学書院			
	レポート	○					
	随時試験						
	試験	○		□参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況（授業態度）						
	その他（ ）						

科目名	侵襲的治療を受ける成人の看護			担当教員	佐々木元子・山下美由紀		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として病院で16年勤務。実務経験をもとに侵襲的治療を受ける成人の看護について、手術室認定ナースとともに講義をする。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 近年、科学技術の発展・進歩に伴い低侵襲性の手術が行われるようになったが、手術による身体侵襲があることには変わりはない。そのような侵襲的治療を受ける患者の特徴や合併症予防を含めた看護、患者家族を支える看護について学び、周手術期の専門性や看護の役割・援助方法を理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 周手術期の看護の役割が理解できる		1. 周手術期の看護 1) 周手術期看護の概論 (1) 周手術期の過程 (2) 周手術期におけるチーム医療と看護師の役割 (3) インフォームドコンセントにおける看護師の役割				講義	4 h
2. 侵襲的治療を受ける成人の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、術後合併症予防を含めた看護方法が理解できる		1. 手術前の成人の看護 2. 手術中の成人の看護 3. 手術後の成人の看護 1) 手術後の回復を促進するための看護 2) 術後合併症予防と看護 3) 術後の継続看護				講義 講義	2 h 4 h
3. 侵襲的治療を受ける成人の看護の実際を理解できる		1. 侵襲的治療を受ける成人の看護の実際  総括				演習 事例展開： 胃がん	8 h 6 h  4 h
							1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況		○		『ナースングラフィカ 成人看護学④ 周術期看護』 メディカ出版			
試験等	提出物	○		『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』 医学書院			
	レポート	○					
	随時試験						
	試験	○		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況 (授業態度)						
	その他 ( )						

科目名	セルフケア再獲得に向けての成人の看護		担当教員	山田雅子・淵上里織			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として臨床で10年間勤務。脳神経疾患看護の実践で得た知見をもとに中途障害者の看護の講義・演習を行う。				
□授業の目的 障害を受容する過程について理解を深め、障害を持ちながら生活を再構築する成人に必要な看護方法について学習する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. セルフケア低下状態にある成人の特徴を理解する		1. セルフケアの低下状態にある対象の身体・心理状態を理解する 1) セルフケアとは 2) 成人とセルフケア 3) 成人の中途障害者 4) 障害の受容 5) 生活基本行動 ADL IADL 6) 依存と自立			講義	8 h	
2. セルフケア再獲得を支援する方法を理解する		2. 障害のある患者の家族の精神的・社会的影響 1. セルフケア再獲得モデル 1) 生命維持レベルのセルフケア 2) 生活基本行動レベルのセルフケア 3) 社会生活レベルのセルフケア			講義	4 h	
		2. セルフケア再獲得のための各レベルにおけるアセスメントの視点 1) 対象把握のための評価尺度 2) アセスメントの視点と方向性 3) アセスメントの内容と方法			演習	4 h	
		3. セルフケアを再獲得するための人的システム・法的システム 1) 医療・福祉チーム 2) 機能回復の促進 3) リハビリテーション 4) ボランティア 5) 自立支援 6) 社会保障制度			講義	2 h	
		4. セルフケア再獲得のための方法 1) 生命維持レベルのセルフケア再獲得の支援方法 2) 生活基本行動レベルのセルフケア再獲得の支援方法 3) 社会生活レベルのセルフケア再獲得の支援方法			講義	4 h	

3. セルフケア再獲得を目指す看護の実際を理解する	1. 生命維持レベルのセルフケア再獲得への看護の実際	演習	4 h
	2. 生活基本行動レベルのセルフケア再獲得への看護の実際	脳梗塞事例 演習	
	3. 社会生活レベルのセルフケア再獲得への看護の実際	移乗方法の再獲得	2 h
	4. 日常生活動作の基本である移動動作の再獲得への看護の実際		1 h
	総括		
		試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況	○	『ナーシンググラフィカ 成人看護学2 健康危機状況/セルフケアの再獲得』安酸史子他編 メディカ出版	
試験等	提出物		『系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論』
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況 (授業態度)		
その他 ( )			

科目名	セルフマネジメントを必要とする成人の看護		担当教員	山田雅子			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として臨床で10年間勤務。臨床での実践，研究を通して得た知識・知見をもとに講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 成人が何らかの慢性的な病を持ったときに生活者として病と家庭生活、社会生活との折り合いをどのようにつけていくかが自分らしく健康に生きていくために必要である。その対象への看護として求められる、対象と医療者のパートナーシップに基づいた関わりを実践するために必要な考え方や知識、技術を学習する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. セルフマネジメントに必要な考え方を理解する		1)セルフマネジメントについて 2)成人期にある人への教育の考え方 3)エンパワーメント 4)自己効力理論と看護			講義	8 h	
2. セルフマネジメントを必要とする対象を理解する		1)身体的特徴と健康問題 2)セルフマネジメントを必要とする人への健康の段階と看護の役割			講義	6 h	
3. セルフマネジメントを推進する看護方法を理解する		1)対象理解 2)援助方法 3)評価			講義 演習	6 h 2 h	
4. セルフマネジメントの援助の実際を理解する		1)セルフマネジメントを目指す看護の実際			講義	6 h	
		総括				1 h	
					試験	1 h	
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『ナーシンググラフィカ 成人看護学3 セルフマネジメント』			
試験等	提出物		メディカ出版				
	レポート		○				
	随時試験						
	試験		○				
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							
				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			

科目名	緩和ケアを必要とする成人の看護		担当教員	森居和子			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	病棟勤務の経験や大学での学びを生かし、緩和ケアの現状や緩和ケアの看護について理解を深めることを目的として講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 がんと診断された時から終末期を迎えるまでの経過を理解し、状況に応じたアセスメントの視点を活用して対象と家族が抱く全人的苦痛を緩和するケアの方法について学習する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 緩和ケアを必要とする対象の理解を深め必要な援助が理解できる		1. 緩和ケアの概要：定義 2. 緩和ケアを必要とする人の特徴 3. 全人的痛みについて 4. 緩和ケアにおける症状マネジメント 5. 緩和ケアにおける意思決定支援 6. チーム医療				講義	10 h
2. がん及び治療について理解し、がん患者の体験を理解できる		1. がん病態 2. がんの治療看護 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法 3. がん患者の特徴 サバイバーシップ				講義	4 h
3. 緩和ケアにおける患者家族支援について理解できる		1. 終末期の特徴と主なケア 2. スピリチュアルペインとスピリチュアルケア 3. 家族支援の必要性と支援方法				講義	2 h
4. 緩和ケアを必要とする患者の看護を考える		1. 緩和ケアを必要とする患者の看護の実際 事例をもとにケアを考える  総括				演習	12 h
							1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			<input type="checkbox"/> 使用テキスト				
出席状況			『系統看護学講座 別巻 緩和ケア』 医学書院				
試験等	提出物	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	レポート						
	随時試験						
	試験	○					
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）							

科目名	高齢者の日常生活援助			担当教員	梶浦眞佐子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	大学病院の外科病棟・外来において10年以上勤務。臨床で得た知見をもとに講義を行う。				
□授業の目的 加齢変化に伴っておこりやすい健康や日常生活への影響を理解し、生活機能を低下させないための看護を学習する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 加齢に伴うコミュニケーション能力の変化と看護が理解できる		I 高齢者のコミュニケーション 1. コミュニケーションのプロセス 2. 話す・聞く・見るの機能変化 3. 機能変化による生活への影響とケアの実際			講義	2 h	
2. 加齢に伴う排泄の変化と看護が理解できる		II 高齢者の排泄 1. 加齢に伴う排泄機能の変化 2. 排泄障害の特徴 3. 自立に向けた高齢者への排泄機能 4. 自立困難の高齢者への排泄援助			講義	2 h	
3. 加齢に伴う活動の変化と看護が理解できる		III 高齢者の活動 1. 加齢に伴う運動機能の変化 2. 機能変化による生活への影響 3. 日常生活動作への援助 4. 生活機能を低下させないための援助			演習	4 h	
4. 加齢に伴う休息の変化と看護が理解できる		IV 高齢者の生活リズム 1. 加齢に伴う生活リズムの変化 2. 高齢者の睡眠障害 3. 生活リズムを整える援助			講義	4 h	
5. 加齢に伴う食の変化と看護が理解できる		V 高齢者の食生活 1. 食べることの意義 2. 加齢に伴う食機能の変化 3. 食生活と栄養状態のアセスメント 4. 摂取・嚥下機能障害のある高齢者の援助			講義	4 h	
6. 加齢に伴う保護機能の変化と看護が理解できる		VI 高齢者の保護機能を保つための看護 1. 加齢に伴う保護機能の変化 2. 保護機能が低下した高齢者への清潔援助 3. 保護機能低下による健康への影響			演習	2 h	
					講義	4 h	

7. 高齢者におけるエンドオブライフケアが理解できる	VII高齢者におけるエンドオブライフケア 1. 生きることを支えるケア 2. 終末期医療と意思決定 3. 安らかな最期の過ごし方  統括	講義	4 h  1 h
		試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』 北川公子他 医学書院	
試験等	提出物		□参考図書・資料・参考ホームページ
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

科目名	高齢者の健康障害時の看護			担当教員	岡本隆行・梶浦眞佐子・八木裕実子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	各担当者が看護師として高齢者へ関わった臨床経験等をふまえて授業を展開する。高齢者の健康障害時の特徴と看護について、実例等を活用して履修者の理解が深まるように支援する。				
□授業の目的 健康障害をもちながら治療を受ける高齢者と家族に対するの援助及び看護を学習する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 高齢者に多い健康障害とその影響について理解できる		1) 高齢者に多い健康障害とその影響 2) 検査・処置・治療を受ける高齢者・家族への看護 ①高齢者の薬物動態の変化 ②薬物療法を受ける高齢者・家族の看護 パーキンソン病を持つ高齢者の薬物療法				講義	6 h
2. 認知機能障害を持つ高齢者の特徴と看護が理解できる		1) 認知症の病態と要因 2) 認知症高齢者の理解（身体面、心理面） 3) 認知症を抱える高齢者と家族の看護 QOL、コミュニケーションの図り方、日常生活自立支援、心身の活性化、家族への支援 4) 健康障害を抱えた認知症高齢者の看護 環境変化が与える影響、安全面への対応				講義	6 h
3. リハビリテーションが必要な高齢者・家族への看護が理解できる		1) 高齢者に対するリハビリテーションの意義 2) 加齢がリハビリテーションに与える影響と特徴 FIM 3) 大腿骨頸部骨折が高齢者や家族の生活に与える影響 大腿骨頸部骨折の原因・経過・治療 人工骨頭置換術後の影響とその看護（脱臼）				講義 演習	4 h
4. 安全面への対応が必要な高齢者への看護が理解できる		1) 高齢者の医療安全 2) 事故リスクの観察 3) 事故防止と身体拘束				講義	4 h
5. 手術療法が必要な高齢者・家族への看護が理解できる		1) 手術を受ける高齢者の特徴 2) 高齢者の周手術期の看護 3) 高齢者に多い疾患の手術療法と看護 ・前立腺肥大症の手術療法と看護 ・老人性白内障の手術療法と看護				講義	4 h

6. 指導が必要な高齢者・家族への看護が理解できる	1) 呼吸疾患を持った高齢者・家族への看護 ①呼吸器系の加齢変化 ②高齢者の慢性閉塞性疾患の特徴 ③閉塞性肺疾患を持ちながら生活していくための看護	講義	4 h
	総括		1 h
		試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』 北川公子他 医学書院	
試験等	提出物		□参考図書・資料・参考ホームページ
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	
	平常の授業状況 (授業態度)		
その他 ( )			

科目名	小児の健康障害			担当教員	勝盛宏			
単位数	1	時間	15	学年	2	授業形態	講義	
実務経験教員	○	実務経験内容	小児科 臨床医					
□授業の目的 小児期特有の健康障害とその病態の特性・治療について学ぶ。								
到達目標		内 容				授業形態と時間		
1. 小児の健康障害の特徴を理解できる		小児期にみられる主な健康障害 (1) 免疫・感染症予防接種 (2) 染色体異常・先天異常・虐待 (3) 循環器疾患 川崎病・先天性心疾患・白血病 (4) 新生児消化器疾患 (5) アレルギー疾患・気管支喘息 食物アレルギー (6) 内分泌・代謝疾患(糖尿病) (7) けいれん性疾患				講義	2 h	
2. 小児期特有の健康障害を理解できる						講義	2 h	
						講義	2 h	
						講義	2 h	
						講義	2 h	
						講義	2 h	
						講義	2 h	
		試験	1 h					
□成績評価の方法				□使用テキスト				
出席状況			『系統看護学講座 専門分野Ⅱ：小児臨床看護学各論』 医学書院					
試験等	提出物		□参考図書・資料・参考ホームページ					
	レポート							
	随時試験							
	試験							○
	平常の授業状況(授業態度)							
	その他( )							

科目名	小児の発達段階に応じた看護			担当教員	保井理子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	小児病棟・NICU（5年）・特別支援学校の医療的ケア（2年）の看護から子どもと家族への看護実践能力と技術を教授する。				
<p>□科目のねらい</p> <p>小児期は人が社会的存在として絶え間ない成長発達を遂げる時期である。このようなライフステージにある小児の健康の保持増進とともに健全な成長発達を支援するための援助を学ぶ。また小児に多い健康障害が成長発達に及ぼす影響を理解し小児及び家族への看護を学習する。</p>							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 小児各期の子どもと家族への看護を理解できる	1. 新生児・乳児期の生活の特徴と看護			講義	4 h		
	1) 新生児・乳児の栄養						
	2) 新生児・乳児の睡眠						
	2. 幼児期の生活の特徴と看護			講義	4 h		
	1) 幼児期の食事						
2. 乳幼児の日常生活援助技術を理解できる	2) 基本的な生活習慣の獲得						
	3) 遊びと発達						
	4) 幼児の生活と安全						
	3. 学童期・思春期の生活の特徴と看護			講義	2 h		
	1) 学校生活の意義						
3. 病気・入院が小児・家族に与える影響を理解できる	2) 生活習慣病の予防とセルフケア						
	1. 乳幼児の日常生活援助技術			演習	2 h		
	1) 乳児の抱き方						
	2) 清潔援助						
	1. 小児病棟の環境			講義	2 h		
4. 小児にみられる健康障害と特徴を理解できる	2. 子どもの病気理解						
	3. 病気や入院に対する子どもの反応と子どもと家族への援助						
	4. 子どもの健康問題と看護						
	1. 小児にみられる急性症状と看護			講義	8 h		
	1. 小児看護技術の特徴と安全・安楽への援助			講義	4 h		
5. 検査・治療が小児に及ぼす影響と看護を理解できる	1) 小児とのコミュニケーション技術			演習	2 h		
	発達段階に応じた説明と同意						
	2) 小児のフィジカルアセスメント						
	3) 診療の補助技術						
	総括				1 h		
			試験	1 h			

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ：小児看護学概論・小児臨床看護総論』 医学書院	
試験等	提出物		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ：小児臨床看護各論』 医学書院
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（グループワーク参加状況）	○	

科目名	小児の健康状態に応じた看護			担当教員	長原恵子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	大学病院小児外科病棟で小児看護を6年間経験後、地域母子保健事業（乳幼児健診・新生児訪問）に携わり、現在は小児病院で肝移植を受ける小児と家族のケア面談に従事。実例経験を元に講義を行う。				
□授業の目的 さまざまな健康状態にある小児と家族の看護を理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 慢性的に経過する小児と家族の看護を理解できる		1. 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と看護 1) 長期的治療を要する小児の発達とセルフケア 2) 病気の経過の特徴と看護 3) 学習支援と復学支援				講義	10 h
2. 予後不良・終末期にある小児と家族の看護を理解できる		1. 子どもの悪性新生物・小児がん 1) 小児がん治療の特徴と看護 2) サバイバーとキャリーオーバー 2. 終末期にある子どもと家族 グリーフケア 1) 小児の死と家族の反応と援助 2) 家族、きょうだい児への看護				講義	6 h
3. 手術を受ける小児と家族の看護を理解できる		1. 子どもの手術の特徴と看護 1) 発達段階と手術の看護 2) 手術を受ける小児の看護				講義	4 h
4. 胎内で影響を受け出生した小児の看護を理解できる		1. 低出生体重児の看護 2. 先天的な疾患をもつ小児と家族の看護				講義	4 h
5. 心身障害のある小児と家族の看護を理解できる		1. 障害のある子どもと家族の看護 1) 障害受容・crisis period 2) 障害児の就学				講義	2 h
6. 在宅療養を受ける小児の看護を理解できる		1. 小児在宅看護の現状と問題点 1) 在宅看護を受ける子どもと家族 2) 医療的ケアと他職種との連携				講義	2 h
		総括					1 h
						試験	1 h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論』 医学書院					
試験等	提出物						
	レポート	○	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』 医学書院				
	随時試験						
	試験	○					
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（ ）		□参考図書・資料・参考ホームページ なし					

科目名	妊娠期・分娩期の看護			担当教員	前田律子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師、助産師として総合病院に10年間勤務。その後、母性看護学の臨床実習に従事。テキストに沿った内容に実例・経験を織り込み講義を行う。				
□授業の目的 妊娠、分娩期にある人は病気ではなく生理的過程にあることをまず理解し、その上で予防的看護の必要性を学ぶ。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
【 妊娠期 】 1. 妊娠の経過と胎児の発育について理解する  2. 妊婦の心理・社会について理解する  3. 妊婦の日常生活とセルフケアについて理解する  4. 出産・育児の準備について理解する  5. 親役割の準備について理解する		1. 妊娠期における看護師の役割 2. 妊娠の生理と経過 3. 妊婦及び胎児の健康診査			講義	4 h	
		1. 妊婦の心理的特長 2. 妊婦と家族および社会			講義	4 h	
		1. 妊婦の健康管理と保健指導 2. 妊娠中の日常生活の過ごし方と注意点 3. 妊産婦の食事指導 4. マイナートラブルと保健指導			講義 演習 (妊婦の保健指導)	4 h 4 h	
		1. 分娩準備教育 2. 妊娠中の乳房の手当て方法					
		1. 生活における変化 2. 家族役割の変化			講義	2 h	
【 分娩期 】 1. 分娩の経過と胎児の健康状態について理解する  2. 産婦と家族の心理について理解する  3. 分娩の進行状態に合わせた看護について理解する		1. 分娩期における看護師の役割 2. 分娩の生理と経過 3. 産婦と胎児の健康状態評価			講義	6 h	
		1. 母親役割獲得準備状態について 2. 産婦と家族の看護			講義	2 h	
		1. 分娩の経過と看護 1) 入院時の看護 2) 分娩第Ⅰ期の看護 3) 分娩第Ⅱ期の看護 4) 分娩第Ⅲ期(Ⅳ期)の看護			総括	2 h	
		総括			まとめ	1 h	
					試験	1 h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論』	
試験等	提出物	○	森恵美他 医学書院
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	○	
	その他（演習の成果）	○	

科目名	産褥期・新生児・ハイリスクの看護			担当教員			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員		実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 産褥期・新生児期にある対象が正常に経過するために必要な看護を学ぶ。 健康から逸脱した周産期にある対象の看護を理解する。							
到達目標		内 容		授業形態と時間			
【 産褥期 】							
1. 産褥の経過について理解する		1. 産褥の生理と経過 1) 産褥期の身体的変化 2) 産褥期の心理・社会的変化		講義		4 h	
2. 褥婦の日常生活とセルフケアを理解する		1. 褥婦の健康状態アセスメント		講義			
3. 家族関係形成への援助を理解する		1. 児との関係確立への看護 2. 育児技術にかかわる看護 3. 家族関係再構築への看護				4 h	
4. 褥婦の看護の実際を理解する		1. 産褥が正常に経過するための看護		演習（ペーパー ペイシエントで SCP 作成） 高年初産婦・若 年初産婦の ・復古現象 ・乳汁分泌 ・母子関係 ・産褥感染		10 h	
【 新生児期 】							
1. 新生児の看護を理解する		1. 新生児とは 2. 新生児の形態、機能 3. 健康状態のアセスメント・看護 4. 出生直後の新生児の看護		講義		8 h	
		総括		総括		2 h	
				まとめ		1 h	
				試験		1 h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論』	
試験等	提出物	○	森恵美他 医学書院
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	○	
	その他（演習の成果）	○	

科目名	生殖機能障害のある患者の看護			担当教員	前田律子		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師、助産師として総合病院に10年間勤務。その後、母性看護学の臨床実習に従事。テキストに沿った内容に事例・経験を織り込み講義を行う。				
□授業の目的							
女性生殖器疾患の特徴を理解し、対象の健康障害をアセスメントする。その上で必要な看護を理解する。また、生殖機能障害が性役割、女性の生き方、日常生活に及ぼす影響を理解し、看護者としての支援方法を学ぶ。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 女性生殖器の構造・機能と主な症状を理解する。		1. 女性生殖器の構造・機能 2. 性ホルモンと卵巣・子宮の周期性変化 性ホルモンの作用とフィードバック機能				講義	2 h
2. 女性生殖器の主な疾患と検査・治療を理解する		1. 診察方法と主な検査 2. 主な疾患と検査・治療法 (1) 膣疾患 (2) 子宮筋腫・子宮がん 病態・検査・広汎性子宮全摘術 (3) 子宮外妊娠・卵巣腫瘍 ダグラス窩穿刺・化学療法 (4) 月経異常 (5) 更年期障害 … ホルモン療法 (6) 不妊症・不育症 (7) 性感染症				講義	6 h
3. ハイリスク状況にある妊産婦の病態・検査・治療を理解する		1. 切迫流早産      2. 前期破水 3. 胎盤異常      4. 妊娠高血圧症候群 5. 妊娠糖尿病    6. 心疾患合併妊娠				講義	4 h
4. 女性生殖器疾患の主な症状と診療時の看護を理解する		1. 診察時の看護の基本 2. 性器出血・下腹部痛・帯下、痒痒感の看護 3. 乳がんの看護				講義	4 h
5. 手術療法を受ける患者の看護を理解する。		1. 広汎性子宮全摘術を受ける患者の看護 2. 乳房の手術を受ける患者の看護 3. 帝王切開術を受ける産婦の看護				講義	8 h
6. 性感染症の看護を理解する		1. 性感染症の予防と指導				講義	4 h
						試験	2 h

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』	
試験等	提出物		池田正他 医学書院
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	○	
	その他（ ）		

科目名	精神に障害を持つ人の理解			担当教員	大地武		
単位数	1	時間	15	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	○	実務経験内容	精神診療科 臨床医				
□授業の目的 精神障害の現れ方と特徴と主な精神病の原因、診断、治療について理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 精神障害の特徴を理解する		1. 精神障害者のイメージ				講義	2 h
		2. 精神症状				講義	4 h
		・知覚の障害                      ・思考の障害					
		・感情の障害                      ・意欲・行動の障害					
		・意識障害                        ・記憶障害					
2. 精神疾患を理解する		3. 主な疾患				講義	6 h
		1) 統合失調症					
		2) 躁うつ病					
		3) 神経症、PTSD					
		4) 認知症					
		5) アルコール、薬物依存					
		6) てんかん					
		7) 人格障害					
		8) 知的障害、発達障害					
3. 精神疾患の治療の特徴を理解する		4. 主な精神科治療と検査				講義	2 h
						試験	1 h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況				『新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』 岩崎弥生他 メヂカルフレンド社			
試験等	提出物						
	レポート						
	随時試験						
	試験			○			
	平常の授業状況（授業態度）						
その他（                      ）							
				□参考図書・資料・参考ホームページ			

科目名	精神看護の基本技術			担当教員	岡野全子・渡辺純一		
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 自己理解から他者理解を深め、患者—看護師関係の成立、発展させるためのカウンセリングの基本である受容・傾聴・共感について体験を通して学ぶ。 さらに精神の健康問題をもつ患者の看護展開を学習する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 看護場面の再構成を行い自己理解、他者理解について理解する。		1. 再構成の意義と活用方法 2. プロセスレコードの記述 3. 援助の質を高めるための検討 自己理解、他者理解				講義	2 h
2. カウンセリングの基本姿勢である受容・傾聴・共感について体験を通して理解する。		1. カウンセリングの基礎理論 2. カウンセリングの基礎技法				講義	10 h
3. カウンセリング技法を活用したコミュニケーションについての理解を深める		1. 初回面接での聴き方、応え方 2. 初回面接の実際 ロールプレーを通して考える 3. 医療現場でのコミュニケーション					
4. 精神の健康問題を持つ患者の看護を展開する。		1. 統合失調症患者の看護の展開 2. アルコール依存症患者の看護				講義	6 h
						演習	6 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健』			
試験等	提出物		○	岩崎弥生他 メヂカルフレンド社			
	レポート		○	『新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』			
	随時試験			岩崎弥生他 メヂカルフレンド社			
	試験			<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況（授業態度）		○				
	その他（ ）						

科目名	精神に障害を持つ人の生活と看護		担当教員	茅根寛子・小倉圭介・関川薫・棚倉涼介			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	精神科病院において精神看護専門看護師として勤務。その経験を踏まえ、実際の病院臨床の現状や事例を活用した講義を行う。				

□授業の目的

- ①精神の健康問題としてどのような問題があるか
  - ②精神の健康問題が存在するときに、特に注意すべき状態とはどのようなものか
  - ③精神の健康問題に対する看護とは何か
- これらについて考え、理解を深める

到達目標	内 容	授業形態と時間	
1. 精神の健康問題について理解する	1. 精神障害を持つ人の理解と看護の基本 1) 精神障害者の理解 2. 看護の倫理と人権擁護 1) 精神医療におけるアドボカシー 2) 隔離・拘束について 3. 入院環境とケアの視点 1) 治療環境について 2) 施設症、治療共同体 4. 精神保健活動とリハビリテーション 1) 地域における看護師の役割 2) 訪問看護	講義	4 h
		講義	4 h
2. 精神の健康障害のある人の生活障害に応じた看護について理解する	1. 精神科看護におけるケアの方法 1) コミュニケーションへの援助 SST、治療的かわり方 2) 日常生活行動の援助 入院患者の日常生活 セルフケアレベルの生活背景 3) 服薬治療に関わる援助 薬物療法をめぐるインフォームドコンセント	演習	4 h
3. 精神に健康障害のある人の健康段階に応じた看護を理解する	1. 主な疾患と看護 1) 統合失調症患者の看護 2) 気分・感情障害患者の看護 3) パーソナリティ障害患者の看護 4) アルコール・薬物依存症患者の看護 5) 発達障害患者の看護 6) 神経症患者の看護 上記疾患に特有な症状の看護と薬物療法を講義  総括	講義	16 h
			1 h
		試験	1 h

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健』	
試験等	提出物		岩崎弥生他 メヂカルフレンド社
	レポート		『新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』
	随時試験		岩崎弥生他 メヂカルフレンド社
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	○	
	その他（                      ）		

科目名	在宅看護概論			担当教員	佐藤博子		
単位数	1	時間	15	学年	2	授業形態	講義
実務経験教員	○	実務経験内容	在宅看護の中でも訪問看護を17年行った経験から、様々な利用者・家族の実例を示しながら講義を行う。				
<input type="checkbox"/> 授業の目的 地域で生活する療養者とその家族について理解し、生活を支えるための社会資源について理解する。 また、在宅看護の概念を踏まえ、訪問看護の機能と役割を理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 在宅ケアニーズとその背景および在宅看護の必要性と目的について理解する		1. 社会の変化と在宅看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会の変化と在宅看護の必要性</li> <li>・ 在宅看護の目的と役割</li> <li>・ 在宅看護の基本理念</li> </ul> ノーマライゼーション・ヘルスプロモーション・アドボカシー				講義	4 h
2. 在宅看護の対象と必要な援助について理解する		1. 在宅看護の対象と必要な援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 健康段階、発達段階からみた対象の特性</li> <li>2) ケアの単位としての家族と発達段階</li> <li>3) 家族システム論の概要</li> </ul>				講義	2 h
3. 在宅看護を支える社会資源とその利用について理解する		1. 在宅看護に必要な社会資源 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 関係する法律や制度の種類</li> <li>2) 地域包括ケアシステム</li> <li>3) チームアプローチ</li> </ul> 2. 継続看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>訪問看護、入退院支援、外来看護、施設看護</li> </ul>				講義	2 h
4. 訪問看護の機能と役割について理解する		1. 訪問看護の機能と役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 訪問看護のシステム</li> <li>2) 生活の場における看護とケアマネジメント</li> <li>3) 訪問看護の多様性、サービスの開発</li> </ul>				講義	2 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論②					
試験等	提出物						
	レポート	○	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会				
	随時試験						
	試験	○	<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況 (授業態度)						
その他 ( )							

科目名	在宅療養者の健康状態に応じた看護		担当教員	比留間絵美			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	訪問看護師として勤務した経験をもとに、療養者と在宅看護の実例をふまえた講義や演習を行う。				
□授業の目的							
在宅看護の基本に基づき、さまざまな健康状態にある療養者に合わせた生活支援技術（日常生活援助技術、医療処置技術）を学ぶ。また、在宅におけるエンドオブライフケアについて理解する。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 安心した在宅生活に必要な看護を理解する		1. 安心した生活の保障 ・24時間の連絡・支援体制 ・感染管理 ・リスクマネジメント			講義		2 h
2. 在宅における生活援助技術を理解する		2. 在宅における生活支援技術 1) 生活環境の調整 ・安全で快適な生活環境と居住環境の調整 ・社会資源の活用と工夫  2) ①活動・移動・休息 ・在宅における活動・睡眠 ・移動・移乗への援助 ②褥瘡の予防と援助  3) 排泄 ・自立と気持ちよさを考えた排泄の援助 ・排泄の援助：尿道留置カテーテル・排便  4) ①栄養・食事 ・経管栄養法とその管理：胃瘻・腸瘻 ・中心静脈栄養法とその管理 ②経管栄養法  5) ①清潔 ・在宅における清潔ケア ・在宅における安全で快適な入浴 ②入浴の援助  6) ①呼吸 ・在宅における酸素療法と人工呼吸療法 ②在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気療法			講義 グループワーク		1 2 h
					演習		2 h
					演習		2 h
					演習		2 h
					演習		2 h

3. 在宅におけるエンドオブ ライフケアを理解する	3. エンドオブライフケア ・在宅における終末期の援助 ・家族への支援：グリーフケア ・アドバンス・ケア・プランニング  4. 総括	講義 グループワーク	6 h
			1 h
		試験	1 h
□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論①	
試験等	提出物	○	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論②
	レポート		
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（グループワーク参加状況）	○	

科目名	在宅看護過程			担当教員			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員		実務経験内容					
<p>□授業の目的</p> <p>在宅で療養する人々の特徴を理解し、療養者および家族が在宅療養を継続させるためのセルフケア支援の実際、教育方法について事例展開を通して学ぶ。</p>							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 在宅医療・在宅ケア推進の社会的背景と法的基盤を知る	1. 在宅医療・在宅ケア推進の社会的背景 超高齢化の進行／社会保障費の増加／国民の療養の場に対する意識の変化					講義	10h
	2. 在宅医療・看護に関する法的枠組みを知る 老人保健法./健康保険法/介護保険法						
2. 地域で暮らす療養者・家族を理解する	3. 地域の概要・特徴の理解					講義	10h
	4. 在宅医療を必要とする療養者・家族の理解 年齢・疾患・障害・療養状態から見た特徴						
3. 訪問看護開始までの調整を理解する	5. 家族力のアセスメント 家族の健康問題、生活への影響 在宅療養者の権利保障					講義	10h
	6. 退院支援・退院調整の仕組みについて理解する						
4. 訪問看護の役割を理解する	7. ケアマネジメントの必要性とプロセス					講義	8h
	8. 訪問看護ステーションの現状						
5. 患者・家族の指導について事例展開を通して理解する	9. 訪問看護の機能・訪問看護師の役割					講義 演習	1h
	10. 訪問看護の実際 要介護高齢者／認知症をもつ人／小児 在宅ターミナル患者への支援						
	11. 家族への支援と指導					試験	1h
	12. 在宅看護過程の展開 1) 看護過程の展開の視点 2) 情報収集の視点とアセスメント 3) 問題解決に向けた看護計画の立案 4) 実施のポイント 5) 評価のポイント						
	13. 成果発表						
	14. 総括						

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		○	
試験等	提出物		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論①
	レポート	○	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論②
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

科目名	診療の補助技術における安全		担当教員	瀬藤奈美			
単位数	1	時間	30	学年	2	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として国立療養所及び赤十字病院に20年間勤務。実務経験をもとに講義を行う。				
□授業の目的							
医療システムの中の危険因子を知り、診療の補助技術における事故防止のための知識・技術を修得できる。また演習を通して、専門職としての責任感と倫理観を身につけることができる。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 医療安全を学ぶ目的を理解する		1. 医療安全を学ぶ目的 2. 医療事故と看護業務 3. 事故防止の考え方、リスクの把握 4. 看護者の倫理観と倫理的判断 5. リスクマネジメントの実際 1) 医療事故の発生要因 2) ハインリッヒの法則 3) インシデント・レポート			講義	4 h	
2. 与薬の危険因子を認識し事故防止について理解する		1. 注射業務プロセスからみた事故防止 2. 危険薬剤からみた事故防止 ○血液製剤 インスリン 等 3. 事故防止に向けた状況判断と実施 ○読みにくい処方箋・点滴準備中の中断 ○輸液ポンプのアラーム・薬液量の間違い 等 4. 事故発生時の対処 5. 針刺し事故防止			講義	8 h	
					演習	8 h	
3. チューブ類挿入中のトラブルを予測し安全な管理を理解する		1. チューブ・ドレーンの種類と挿入目的 2. チューブ類挿入中のトラブルと対処 ○膀胱留置カテーテル・酸素吸入・経管栄養 等 3. チューブ類を挿入している人の事故防止と援助の実際			講義	2 h	
					演習	4 h	
4. 医療における感染対策の現状を理解する		1. 感染症の今 2. 施設における感染症対策 総括			講義	2 h	
					1 h		
					試験	1 h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全』 川村治子 医学書院	
試験等	提出物		□参考図書・資料・参考ホームページ
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	
	平常の授業状況（授業態度）		
その他（                      ）			

看護科 3年生

看護科 2020年度生カリキュラム

科目区分 履修方法	科目 内容	教育内容	科目名	授業 形態	1年次		2年次		3年次		合計				
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数			
登録指定科目	基礎科目	基礎分野	科学的 思考の 基盤	論理学	演習	1	30					1	30		
				情報科学	演習	1	30					1	30		
				文学	講義	1	30					1	30		
				心理学	講義	1	30					1	30		
				コミュニケーション論	講義	1	15					1	15		
			人間の 生活・ 社会の 理解	環境生態学	講義	1	30					1	30		
				保健体育	演習	1	30					1	30		
				野外活動	演習	1	15					1	15		
				教育学	演習	1	30					1	30		
				英語	講義	1	30					1	30		
				英会話	演習			1	30			1	30		
				家族社会学	講義	1	30					1	30		
				社会学	演習			1	30			1	30		
			小計					11	300	2	60	0	0	13	360
			専門科目	専門基礎分野	人体の 機能 構造と	解剖生理学Ⅰ(概論)	講義	1	15					1	15
	解剖生理学Ⅱ(生命維持機能1)	講義				1	30					1	30		
	解剖生理学Ⅲ(生命維持機能2)	講義				1	30					1	30		
	解剖生理学Ⅳ(生命を活用する機能)	講義				1	30					1	30		
	解剖生理学Ⅴ(体の保護と種の保存機能)	講義				1	15					1	15		
	疾病の 成り立ち 回復と 促進	生化学			講義	1	30					1	30		
		栄養学			講義	1	30					1	30		
		病理学			講義	1	30					1	30		
		疾病と治療(循環・呼吸・血液)			講義	1	30					1	30		
		疾病と治療(消化器・代謝)			講義			1	30			1	30		
		疾病と治療(運動・脳神経・眼)			講義			1	30			1	30		
		疾病と治療(腎・泌尿・免疫)			講義			1	15			1	15		
		疾病と治療(感覚器)			講義			1	15			1	15		
	社会 健康 支援と 保障 制	臨床薬理学			講義			1	30			1	30		
		微生物学			講義	1	30					1	30		
		医療概論		講義	1	15					1	15			
		公衆衛生学		講義			1	30			1	30			
		生命倫理		演習					1	15	1	15			
		社会福祉		講義			1	30			1	30			
		関係法規		講義					1	15	1	15			
	生活科学	講義		1	15					1	15				
	小計					12	300	7	180	2	30	21	510		
	専門分野Ⅰ	基礎看護学		看護学概論	講義	1	30					1	30		
				基本技術	演習	1	30					1	30		
				面接とフィジカルアセスメント	演習	1	30					1	30		
				生活を整える技術Ⅰ(環境・清潔・衣)	演習	1	30					1	30		
				生活を整える技術Ⅱ(運動・休息・食・排泄)	演習	1	30					1	30		
			診療・処置に伴う技術	演習	1	30					1	30			
			与薬の技術	演習			1	30			1	30			
看護過程展開の技術			演習	1	30					1	30				
実地 臨地		臨床看護総論	講義	1	30					1	30				
		臨床看護技術	演習			1	30			1	30				
		基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	45					1	45				
		基礎看護学実習Ⅱ	実習	1	45				1	45					
		基礎看護学実習Ⅲ	実習			1	45		1	45					
小計					10	330	3	105	0	0	13	435			

科目区分 履修 方法	科目 内容	教育内容	科目名	授業 形態	1年次		2年次		3年次		合計				
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数			
登録 指定 科目	専 門 科 目	専 門 分 野 Ⅱ	看護学 成人	成人看護学概論	講義	1	30					1	30		
				健康危機状況にある成人の看護	演習			1	30			1	30		
				侵襲的治療を受ける成人の看護	演習			1	30			1	30		
				セルフケア再獲得に向けての成人の看護	演習			1	30			1	30		
				セルフマネジメントを必要とする成人の看護	演習			1	30			1	30		
				緩和ケアを必要とする成人の看護	講義			1	30			1	30		
			看護学 老年	老年看護学概論	講義	1	30					1	30		
				高齢者の生活と社会	講義	1	15					1	15		
				高齢者の日常生活援助	演習			1	30			1	30		
			看護学 小児	高齢者の健康障害時の看護	講義			1	30			1	30		
				小児看護学概論	講義	1	30					1	30		
				小児の健康障害	講義			1	15			1	15		
			看護学 母性	小児の発達段階に応じた看護	演習			1	30			1	30		
				小児の健康状態に応じた看護	講義			1	30			1	30		
				母性看護学概論	講義	1	30					1	30		
				妊娠期・分娩期の看護	演習			1	30			1	30		
			看護学 精神	産褥期・新生児・ハイリスクの看護	演習			1	30			1	30		
				生殖機能障害のある患者の看護	講義			1	30			1	30		
				精神看護学概論	講義	1	30					1	30		
				精神に障害を持つ人の理解	講義			1	15			1	15		
			臨地 実習	精神看護の基本技術	演習			1	30			1	30		
				精神に障害を持つ人の生活と看護	演習			1	30			1	30		
				成人看護学実習Ⅰ	実習			2	90			2	90		
				成人看護学実習Ⅱ	実習					2	90	2	90		
				成人看護学実習Ⅲ	実習					2	90	2	90		
				老年看護学実習Ⅰ	実習			1	45			1	45		
				老年看護学実習Ⅱ	実習					3	135	3	135		
				小児看護学実習	実習					2	90	2	90		
				母性看護学実習	実習					2	90	2	90		
				精神看護学実習	実習			2	90			2	90		
			小計					6	165	21	675	11	495	38	1,335
			統 合 分 野	看護論 在宅	在宅看護概論	講義			1	15			1	15	
					在宅看護技術	演習	1	15					1	15	
					在宅療養者の健康状態に応じた看護	演習			1	30			1	30	
				実践 統合と 臨地実 習	在宅看護過程	演習			1	30			1	30	
					診療の補助技術における安全	演習					1	30	1	30	
					臨床看護の実践	演習					1	15	1	15	
					看護研究	演習					1	30	1	30	
					看護管理と国際協力	演習					1	30	1	30	
			在宅看護論実習	実習					2	90	2	90			
統合実習	実習					2	90	2	90						
小計					1	15	3	75	8	285	12	375			
合計					40	1,110	36	1,095	21	810	97	3,015			

※看護科の卒業には修業年限以上在学し、97単位(3,015時間以上)の修得が必要。

科目名	生命倫理			担当教員	川上祐美		
単位数	1	時間	15	学年	3	授業形態	講義
実務経験教員		実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 保健・医療・福祉を生命倫理<バイオエシックス>の視点からとらえ、現代の諸問題に対処し得る多角的な思考と豊かな人間観が養われることをめざす。							
到達目標	内 容					授業形態と時間	
1. 多角的な視点で考える。	生命医科学技術の急速な進展により、誕生する前から死に際してまで人生の様々な場面でいのちをめぐる選択に直面する。多様な価値を尊重しつつ、人間にとっての善とはなにかを基軸に、これからの医療のあり方について考える時間をもつ。 看護師が単に医療の行使者であるだけでなく、よい医療とはなにかについて常に考え、社会の中で提言していくことのできる資質を身につけることを期待する。  1. 現代の生老病死と医療を考える ～バイオエシックスの4原則 2. 死をめぐる自己決定と事前指示 ～ターミナルケアの歴史と理念 3. 人間らしい死とは ～尊厳死・安楽死の国際的な動向から 4. 脳死と臓器移植、再生医療の適用 ～生命の資源化とその配分 5. 生殖医療と優生思想 ～いのちの選別と出生前診断 6. ジェンダーの社会的変遷 ～多様な家族像をめぐって 7. ゲノム技術と法のいま ～遺伝子操作をめぐる倫理 8. 医科学技術と人間の尊厳 ～戦争と臨床研究の倫理					講義	14h
2. 論理的に表現する。						試験	1h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況			○	『系統看護学講座 別巻 看護倫理』 医学書院			
試験等	提出物			<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ 授業内で随時紹介します。			
	レポート	○					
	随時試験						
	試験	○					
	平常の授業状況(授業態度)	○					
その他( )							

科目名	関係法規			担当教員	吉野雅文		
単位数	1	時間	15	学年	3	授業形態	講義
実務経験教員	○	実務経験内容	保健医療福祉行政に40年近くにわたり従事。これらの実務経験を踏まえ、看護職員として不可欠な各法の目的、内容を講義する。				
□授業の目的 法の基礎知識と保健医療福祉関係法規を学び、医療従事者としての業務と責任について理解する。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 医療従事者としての業務と責任について理解する。		1. 法の内容、衛生法の内容、厚生行政のしくみ 2. 看護法－保健師助産師看護師法、看護師等人材確保促進法 3. 医事法－医療法、医師法など医療福祉関係資格法、臓器移植法等 4. 保健衛生法－地域保健法、健康増進法、精神保健福祉法、母子保健法、難病法、感染症法、予防接種法、食品衛生法等 5. 薬務法－医薬品・医療機器等法、麻薬向精神薬取締法等 6. 環境衛生法－生活衛生関係営業法、水道法等 7. 社会保険法－健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、介護保険法、国民年金法、厚生年金法等 8. 福祉法－生活保護法、成年後見制度、児童福祉法、老人福祉法、障害者基本法、障害者総合支援法、虐待防止法（児童、高齢者、障害者）等 9. 労働法と社会基盤整備－労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、雇用保険法、育児介護休業法、男女雇用機会均等法、配偶者暴力防止法、個人情報保護法等 10. 環境法－環境基本法、廃棄物処理法等				講義	14h
						試験	1h
□成績評価の方法				□使用テキスト			
出席状況		『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令』森山幹夫 医学書院 第54版					
試験等	提出物						
	レポート						
	随時試験						
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ				
	平常の授業状況（授業態度）	『国民衛生の動向』2021/2022					
	その他（ ）						

科目名	臨床看護の実践			担当教員	岡野全子		
単位数	1	時間	15	学年	3	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	12年間、外科、内科病棟で勤務。その経験をもとに講義を行う。				
□授業の目的 臨床に近い状況下を想定し、総合的な判断・対応を体験することにより、臨床での看護業務遂行の実際を学ぶ。							
到達目標		内 容			授業形態と時間		
1. 科目のねらい・目的・演習方法を理解する		1. 「臨床看護の実践」のねらい・目的 2. 臨床看護の現状と実際 3. 演習の進め方 事例の紹介・評価方法			講義	2 h	
2. 二人の患者の援助計画を立案し、援助の優先順位を判断した行動計画が立案できる。		1. 二人の患者に実施すべき援助計画の立案 2. 援助の優先順位をふまえた計画立案			演習	2 h	
3. 計画に基づき、二人の患者への援助を計画的に実施できる。		1. 二人の患者への援助の実際 安全・安楽の確保 自立度にあわせた援助の実施 援助の効率性 2. 自己の実践能力に応じた対処方法の決定 3. チームメンバーとの連携			演習	4 h	
4. その場の割り込み状況に対して判断し、患者各人に必要な援助が実施できる		1. 割り込み状況への対処 予期しない患者の反応 突発的な事態 時間の切迫			演習	4 h	
5. グループで立案・実践した看護をふりかえる		1. 評価・修正 計画の妥当性 割り込み状況への対応 2. 評価・修正後の計画をもとに実施する			演習	2 h	
					試験	1 h	

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況	○	なし	
試験等	提出物	○	
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）	○	
	その他（ ）		

科目名	看護研究			担当教員	岡本隆行		
単位数	1	時間	30	学年	3	授業形態	講義・演習
実務経験教員		実務経験内容					
<input type="checkbox"/> 授業の目的 研究成果を活用し、看護の質向上に貢献できるように看護研究の意義、方法の基礎を理解する。授業や実習等を通して見出した疑問を取りあげ、課題をまとめることで論理的思考や研究的態度などを養う。							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 看護研究の概要を理解する。		看護研究とは				講義	2 h
2. 看護研究の進め方を理解する。		研究の進め方				講義	2 h
		研究デザインとは				講義	2 h
3. 研究論文を読解する。		テーマ決め、文献検索、文献検討				講義・	6 h
		論文の読み方				演習	
						講義	6 h
4. 課題をレポートにまとめ、提出・発表する。		レポート作成・発表				演習	10 h
		総括					1 h
						試験	1 h
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				<input type="checkbox"/> 使用テキスト			
出席状況				『系統看護学講座 看護研究』医学書院			
試験等	提出物	○		『系統看護学講座 看護学概論』医学書院			
	レポート	○					
	随時試験						
	試験	○		<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ			
	平常の授業状況（授業態度）			『看護研究』 D.F ポーリット・B.P ハングラー 医学書院			
	その他（研究論文の取り組み方、発表）	○		『APA 論文作成マニュアル』 アメリカ心理学会(APA) 医学書院 『黒田裕子の看護研究 Step by Step』 黒田裕子 医学書院 『ナースのための質的研究入門』 I.ホロウェイ・S.ウィラー 医学書院 『日本看護協会』 <a href="http://www.nurse.or.jp/">www.nurse.or.jp/</a> 『厚生労働省』 <a href="http://www.mhlw.go.jp/">www.mhlw.go.jp/</a>			

科目名	看護管理と国際協力			担当教員	緒方愛・伊東由美		
単位数	1	時間	30	学年	3	授業形態	講義・演習
実務経験教員	○	実務経験内容	看護管理者実務経験 赤十字国際・災害救援経験				
<p>□授業の目的</p> <p>看護管理について基礎的知識を習得し、チーム医療のなかで看護師のはたす役割を探求する。その上で世界の中で看護職としてできる社会貢献・国際貢献について理解を深めることができる。</p> <p>特に国内外で前触れもなくやってくる災害では、専門職として人々の健康と生活向上に向けた社会的支援を行うことを求められている。災害看護の実際と災害直後から支援できる基礎知識を学ぶ。</p>							
到達目標		内 容				授業形態と時間	
1. 組織における看護管理について理解できる。		1. 看護サービスとチーム医療 2. 看護管理の基本的知識 1) 看護管理の目的と方法 2) 病院における管理システム ・ 安全管理 ・ 情報管理 ・ 業務管理 ・ 薬剤などの管理 ・ 災害、防災管理 ・ 物品管理 ・ コスト管理 3) 組織とリーダーシップ 3. 看護の質の保障				講義	6 h
2. 医療活動の国際協力について理解できる。		1. 世界の健康問題の現状 2. 国際看護の基本理念 3. 国際協力のしくみ				講義	4 h
3. 災害看護の概念を理解し、災害各期の看護活動を理解できる。		1. 災害看護とは 2. 災害時の社会制度 (法、救援体制、救助活動) 3. 災害サイクルからみた看護ケア ①災害直後の被災者へのケア ②災害復興期の被災者へのケア 4. 災害と心のケア 5. 災害時の看護ケアの実際				講義	6 h
4. 自己の看護観を文章化する。		1. 看護観とは 2. 私のめざす看護				演習	4 h
		総括					1 h
						試験	1 h

□成績評価の方法		□使用テキスト	
出席状況		『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論』	
試験等	提出物		茂野香おる他 医学書院
	レポート	○	
	随時試験		
	試験	○	□参考図書・資料・参考ホームページ
	平常の授業状況（授業態度）		
	その他（ ）		

## **2022 SYLLABUS 講義要項**

発行日 2022年4月1日

発行人 橋本 正樹

発行所 学校法人 川口学園

早稲田速記医療福祉専門学校

〒171-8543 東京都豊島区高田3-11-17